

ひき ま あお き  
引間青木遺跡 3

2021

## 例 言

1. 本書は、分譲住宅建設工事に伴い事前調査された、引間青木遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理は、開発事業主である山一不動産株式会社、高崎市、有限会社歴史考房まほら三者による協定を締結し、高崎市教育委員会による監理のもと、事業主から委託を受けた有限会社歴史考房まほらが実施した。
3. 発掘調査、整理作業から本書作成にかかる経費は、開発事業主である山一不動産株式会社に負担していただいた。
4. 発掘調査の事項は以下のとおりである。  
遺 跡 番 号 引間青木遺跡3（注記：809）  
遺 跡 所 在 地 群馬県高崎市引間町字青木966番地4、964番地、外  
発掘調査担当者 山崎芳春・笠原仁史（㈲歴史考房まほら）  
発掘調査支援 高階敏昭（㈲高澤考古学研究所）  
発掘調査期間 令和2年9月23日～令和2年11月27日  
調 査 面 積 1,180.4 m<sup>2</sup>  
整理作業担当者 笠原 仁史（㈲歴史考房まほら）  
整 理 期 間 令和2年12月1日～令和3年6月30日
5. 本書の編集は笠原仁史が行った。執筆は第1章第1節を高崎市文化財保護課が、第5章自然科学分析を早田勉（㈲火山灰考古学研究）が、その他を笠原が担当した。
6. 本書に使用した遺構写真は山崎芳春が、遺物写真撮影は有限会社歴史考房まほらが行った。
7. 本書で使用した遺構平面・断面図は電子平板測量によるデジタルデータで作成したものをデジタル編集したものである。なお、遺構平面測量はタナカ設計（田中隆明）に委託した。
8. 高所撮影はドローンによるデジタルカメラ撮影をクリエイトR（清水龍太）に委託した。
9. 自然科学分析については㈲火山灰考古学研究所に委託した。
10. 発掘調査資料、出土遺物は、一括して高崎市教育委員会において保管してある。
11. 発掘調査及び本書の作成にあたって下記の方々の御助言・御教示を賜った。記して感謝いたします。（順不同、敬称略）  
山一不動産㈲ ㈲高澤考古学研究所 山下工業㈲ ㈲コクドリサーチ 三浦京子 高橋実果  
近隣住民の方々
12. 発掘調査、整理作業に従事した者は次のとおりである。（順不同、敬称略）  
発掘調査 小暮勉 中野光雄 村田勝司 石関清 広瀬敏彦 和田勉 渡明秀 江原正良  
清水萬年 円谷純 木部厚志 松本兼太郎  
整理作業 川島かおり 杉本めぐみ 橋本真規 星野綾子

## 凡 例

1. 掲載図の縮尺は原則として遺跡全体図1/800、調査区全体図1/200、遺構平面図は住居・土坑・ピット・性格不明遺構（SI）1/60、溝・畠1/120、遺構断面図は全て1/60、住居カマド断面図は1/30とし、図中に縮尺を示した。
2. 遺構名は現場で付された名称を使用し、遺物注記・本文記載名は以下の略名を用いた。  
住居＝SI 土坑＝SK ピット＝P 性格不明遺構＝SX 溝＝SD

3. 掲載遺物の縮尺は原則として土器は 1/3、石器・鉄製品は 1/2 とし、縮尺が異なるものも含めて図中に縮尺を示した。
4. 遺構平面図の北方向は座標北を示し、座標は世界測地系 IX 系である。
5. 遺構説明、および土層説明で用いた火山噴出物の名称は浅間 C 軽石（4 世紀初頭降下）：As-C、榛名二ツ岳渋川テフラ（6 世紀初頭降下）：Hr-FA、浅間 B 軽石（1108 年降下）：As-B とした。なお、土層説明における色調、しまり、粘性については調査員の主観である。
6. 出土遺物観察表に示す色調は農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修『標準土色帖』を参照した。また、石器実測・石材鑑定は山崎芳春が行った。
7. 出土遺物観察表の計測値に示した（ ）は復元推定値を、〈 〉は残存値を表す。

## 目 次

### 序 例言 凡例

第 1 章 調査に至る経緯と調査の経過	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査の経過	2
第 2 章 遺跡の立地と環境	2
第 3 章 基本層序	4
第 4 章 遺構と遺物	5
第 1 節 住居 (SI)	5
第 2 節 土坑 (SK)、ピット (P)、性格不明遺構 (SX)	18
第 3 節 溝 (SD)	33
第 4 節 畠	43
第 5 節 遺構外出土遺物	43
第 6 節 まとめ	54
遺物観察表	56
第 5 章 自然科学分析	61

### 写真図版

### 報告書抄録



# 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

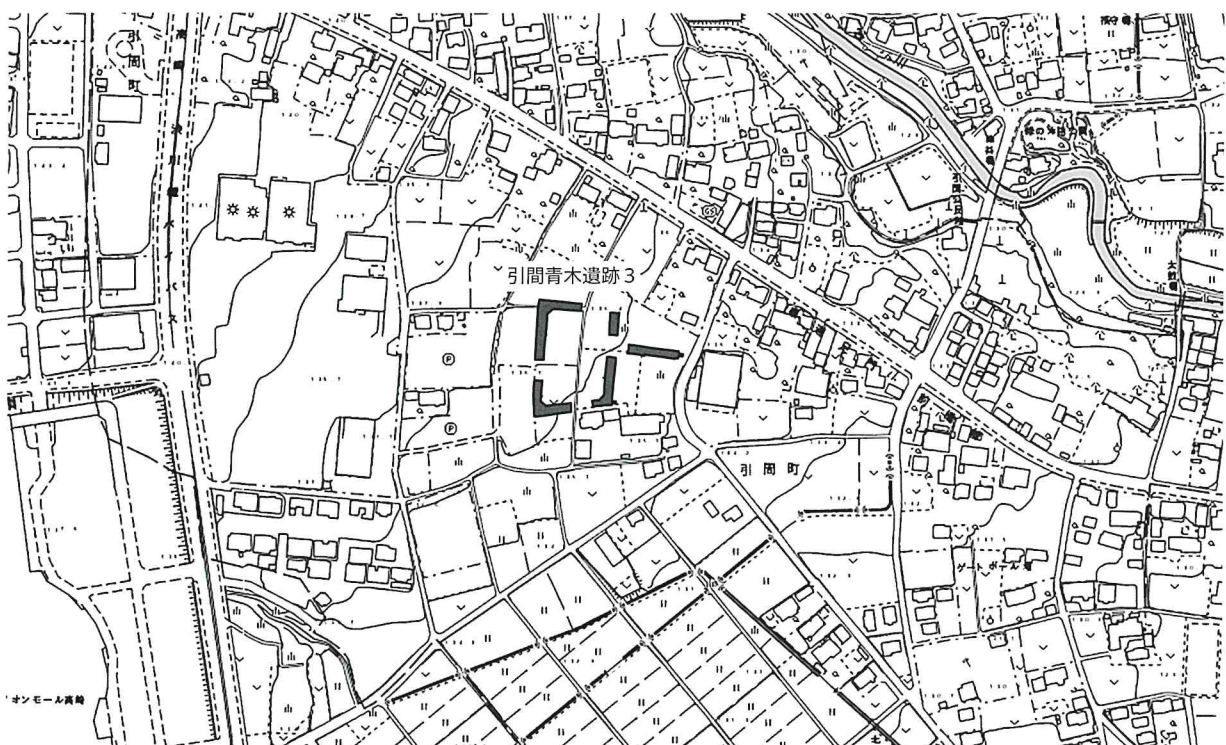
令和2年4月上旬、事業者である山一不動産株式会社から、高崎市引間町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である奈良平安 No. 39 遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和2年5月7日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和2年6月3日に確認調査を実施した。その結果、古代の竪穴建物等を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「引間青木遺跡」第3次調査とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和2年6月29日に事業者：山一不動産株式会社・民間調査機関：有限会社歴史考房まほら・市教委での三者協定を締結、令和2年7月1日に事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。

その後の令和2年7月上旬、事業者より宅地造成の追加工事の連絡があった。追加工事部分も該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である奈良平安 No. 39 遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和2年7月10日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和2年8月6日に確認調査を実施した。その結果、古代の竪穴建物等を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。



第1図 遺跡位置図（『まっぷ de たかさき』を使用） 縮尺 1:5000

一歩引間町  
4687  
90



追加調査部分は「引間青木遺跡」第3次調査に含むものとし、令和2年9月1日に事業者・民間調査機関・市教委での協定書変更覚書を締結、令和2年9月10日に事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、引き続き市教委が指導・監督することとなった。

## 第2節 調査の経過

### ●発掘調査

発掘調査は令和2年9月23日から同年11月27日まで実施された。調査経過の概略は下記のとおりである。

調査経過概要（令和2年9月23日 ～ 令和2年11月27日）

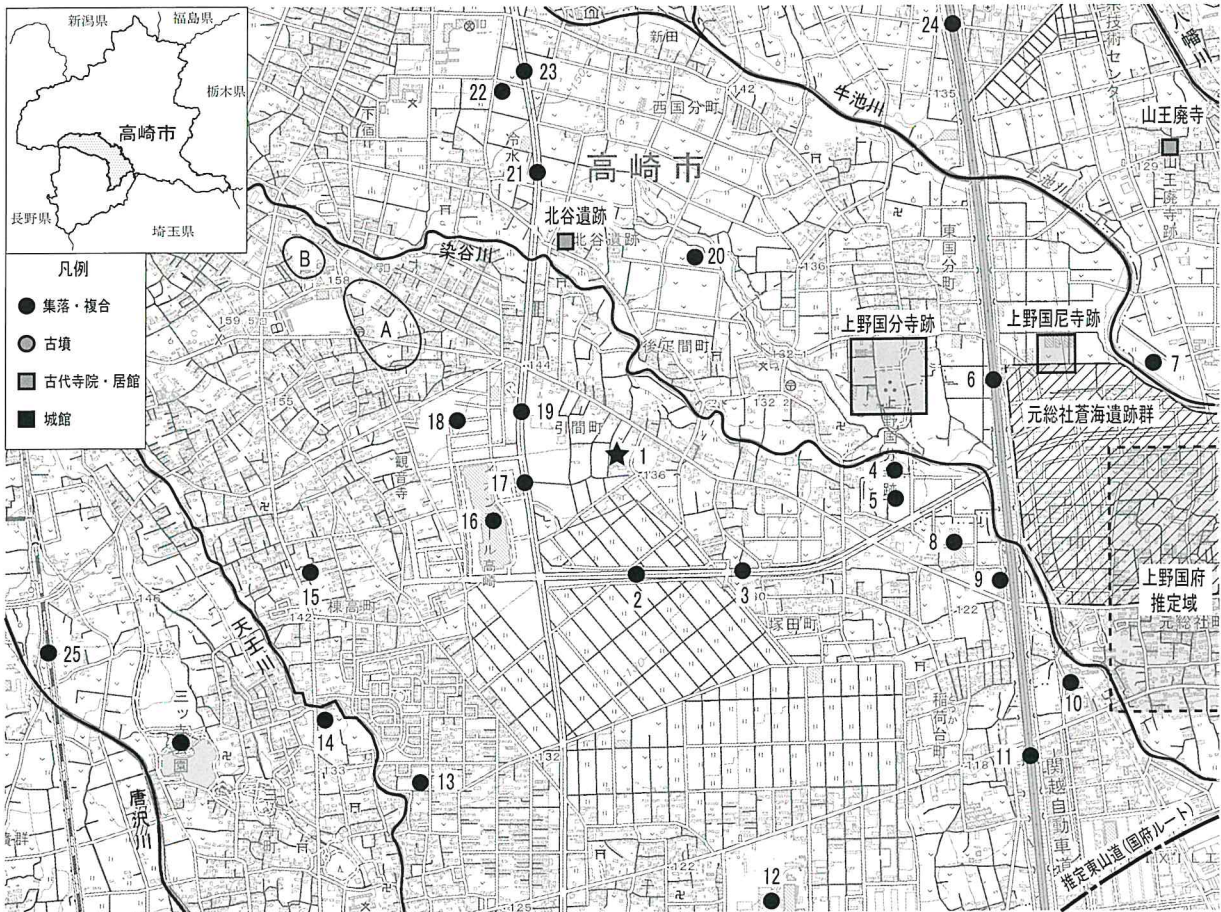
- 9月23日：調査着手 重機による表土掘削開始。
- 9月24日：ユニットハウス・トイレ設置。
- 9月25日：仮設電気工事。
- 10月1日：遺構調査開始。調査区北西部遺構調査開始。
- 10月2日：測量基準点設置。遺構測量開始。
- 10月12日：調査区水没のため排水作業。
- 10月15日：2班体制に増員。
- 10月16日：調査区南東部遺構調査開始。
- 10月21日：調査区北西部遺構調査終了。
- 10月27日：調査区北東部遺構調査開始。
- 10月30日：調査区北西部全景写真撮影。
- 11月2日：調査区南西部遺構調査終了、全景写真撮影。
- 11月10日：各調査区深掘りトレンチ掘り下げ。
- 11月16日：調査区東部全景写真撮影。
- 11月18日：自然科学分析。完了検査。
- 11月19日：ドローン高所撮影。
- 11月20日：埋め戻し開始。仮設電気撤去。
- 11月25日：埋め戻し完了。
- 11月26・27日：器材搬出、ユニットハウス撤去。

## 第2章 遺跡の立地と環境

引間青木遺跡3は高崎市市街地の北、相馬ヶ原扇状地の南東末端部に位置し、東南流する染谷川右岸の台地上、標高約136mに立地する。

本遺跡は平安時代の集落を主とする縄文時代、奈良・平安時代、中世の複合遺跡であるが、主要周辺遺跡として染谷川対岸に古墳時代の豪族居館とされる北谷遺跡、奈良時代に設置された上野国府（推定城）、上野国分僧寺・尼寺が、南3.5km程には9世紀後半以降に整備されたとされる推定東山道（国府ルート）が確認された正観寺遺跡群が存在する。

その他周辺として縄文時代以降、集落遺跡、古墳、生産遺跡が数多く確認されているが、総体的に縄文・弥生時代の遺跡は少なく、古墳時代になると本遺跡の西2km程の地域を中心に周溝墓、大型前方後円墳や三ツ寺I遺跡、北谷遺跡のような豪族居館も築かれ、数多くの集落が確認されている。その後、榛名二ツ岳噴火（6世紀初頭）による被害を受け一時的に集落数が減少するようであるが、末期（7世紀以降）になると群集墳が形成され集落も再び増加する傾向が窺える。奈良時代には本遺跡の東1.5km程に国府



第2図 周辺遺跡分布図（『国土地理院 電子地形図 1:25,000』を使用）

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	概要
1	引間青木遺跡	古代の集落
2	棟高辻久保遺跡	弥生・古墳・古代の集落
3	引間六石遺跡	古代・中世の集落
4	元総社西川遺跡	古墳・古代の集落
5	上野国分寺参道遺跡	古墳・平安時代の集落
6	上野国分寺・尼寺中間地域遺跡	縄文時代の集落・配石、弥生時代の集落方形周溝墓、古墳・奈良・平安時代の集落
7	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡 総社関泉明神北Ⅲ遺跡	縄文・古墳・奈良・平安時代の集落
8	国府南部遺跡群Ⅱ	古墳～平安集落、中世の墳墓
9	塚田村東遺跡	平安時代の集落
10	弥勒遺跡Ⅱ	古墳・平安時代の集落
11	鳥羽遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落、神殿、鍛冶
12	菅谷・村東遺跡	古代・中近世の集落
13	棟高村北遺跡	古代の集落、地割れ

No.	遺跡名	概要
14	棟高南八幡街道遺跡	古墳・古代の集落
15	棟高西新堀遺跡	古代の集落
16	棟高遺跡群	縄文・古墳・古代の集落
17	西三社免遺跡	弥生・古墳の集落
18	棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡	古墳・古代の集落、古墳・古代の田畑
19	小池遺跡	古墳・古代の集落
20	後疋間遺跡1	古墳・古代の集落
21	冷水村東遺跡	古墳・古代の集落、古墳・古代の田畑
22	冷水牛池遺跡	古墳・古代の集落、古墳・古代の田畑
23	西国分新田遺跡	古代・中近世の集落
24	国分境遺跡	古代の集落
25	保渡田遺跡	古墳・古代の集落
A	棟高北寝保窪古墳群	古墳時代終末期の古墳
B	東久保古墳群	古墳群

が設置され、その北西には国分僧寺・尼寺も建立され、中心的地域が本遺跡を挟んで西から東へ移ったことが見てとれ、さらに平安時代には本遺跡の南 3.5 km 程に推定東山道（国府ルート）が整備され、周辺集落の地域が広がっていたことが推定される。

なお、詳細については第2図、第1表を参照されたい。



### 第3章 基本層序 (第3・4図、図版17・18、第5章)

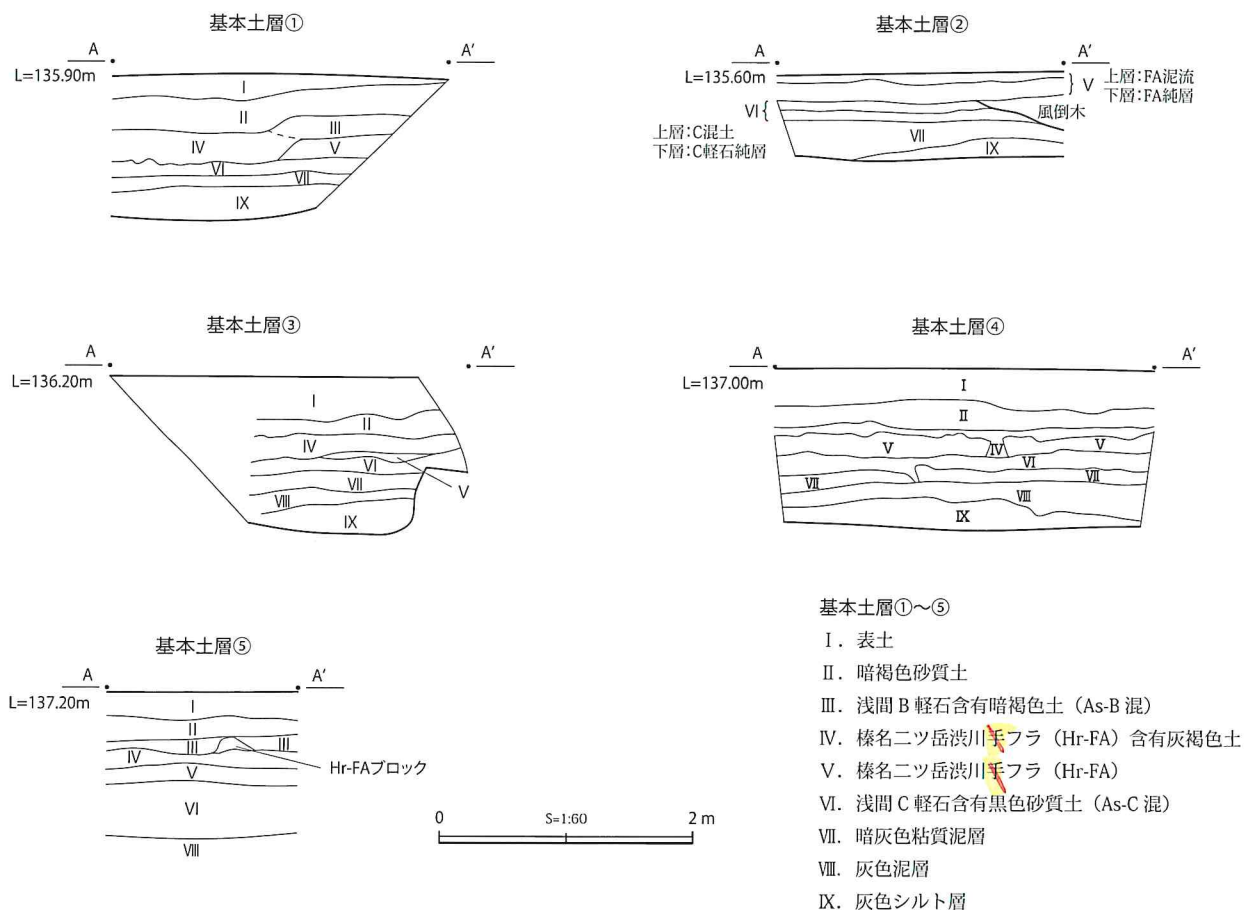
基本土層は地形、遺構分布を考慮して①～⑤の5ヶ所で深さ1m程まで観察、テフラを含む土層分析を行った。

結果、IV層上面で洪水層の有無という若干の違いが認められるものの5ヶ所とも堆積状況に大きな差異は認められず、基本的に下位からシルト層 (IX) → 泥流 (VII・VIII) → 浅間C軽石含有層 (VI) → 榛名二ツ岳渋谷テフラ (IV・V) → 暗褐色砂質土 (II) → 表土 (I) の順で堆積していることが確認できた。この堆積状況から本遺跡を含む範囲において安定的に台地が形成されていたことが想像される。なお、部分的ではあるが、浅間Bテフラ含有層 (III) の堆積が認められた。

本調査で確認された遺構は全て榛名二ツ岳渋谷テフラ (V) 上面で検出し、6世紀以降の所産であることは間違いないが、調査区壁で土層確認可能な遺構以外は上位層を含むどの層から掘り込まれているかは不明である。特に住居以外の遺構の多くは時期不明であるが、出土遺物、覆土の観察によって遺構と判断した。

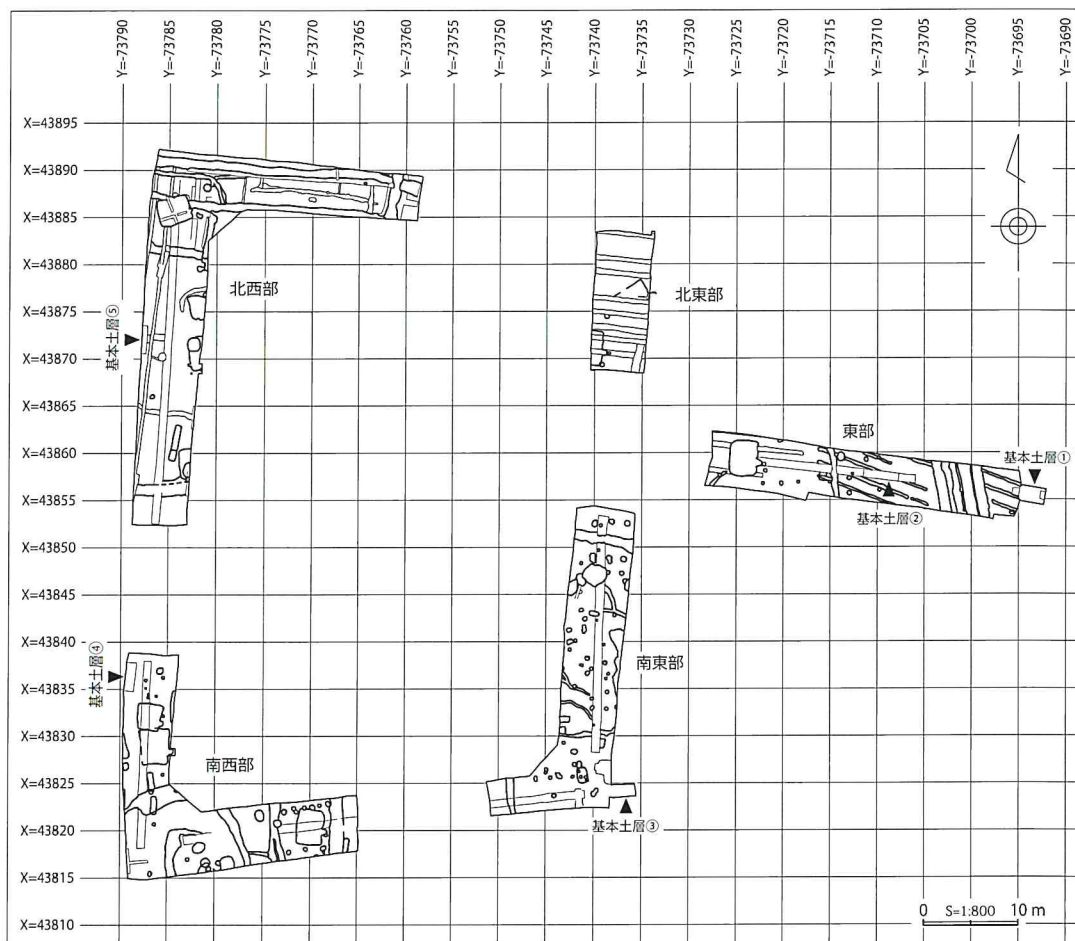
また、今回の確認面より下層での面的確認は行っていないが、榛名二ツ岳渋谷テフラ (V) が面的にフラットに堆積していること、部分的ではあるが断面確認で直下の浅間C軽石含有層 (VI) も水平堆積していることから、この下層に遺構が存在する可能性は低いと判断した。念の為、基本土層①～⑤でV層直下、VI層直下で花粉分析を行ったが、稲作の可能性はあるものの低い数値にとどまっており、断面においても畦畔や畝など稲作、畠作の痕跡は確認できなかった。

なお、テフラ分析、花粉分析の結果については第5章自然科学分析を参照されたい。



第3図 基本土層





第4図 遺跡全体図、及び基本土層配置図 S=1/800

## 第4章 遺構と遺物 (第4～9図、図版1～4)

本調査は開発面積8,298㎡の内、調査面積1,180㎡の新設される幅6mの道路部分を対象とする調査で、遺構はHr-FA(榛名二ツ岳渋川/6世紀初頭)上面で確認した。

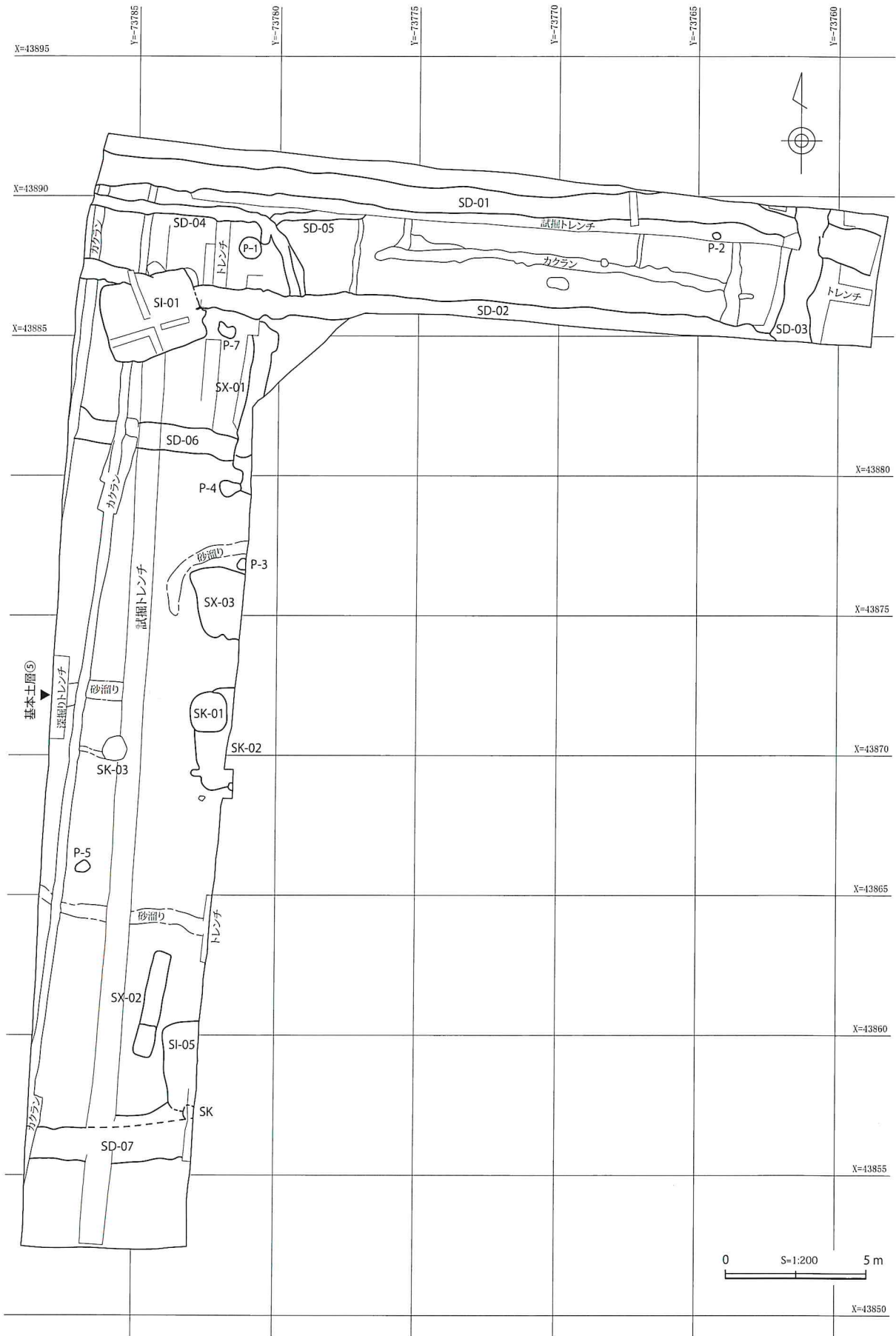
検出された遺構は住居10軒、土坑31基、溝27条、ピット100基、不明遺構6基、畠1面で、遺物は須恵器、土師器を主体に5箱出土し、縄文土器・石器、瓦、陶器、鉄製品が数点が含まれている。なお、特出遺物としてSI-06出土の須恵器小壺、試掘トレンチ内(P-62付近)出土の羽口、椀形鉄滓が挙げられる。

総体的に遺構密度が薄く、出土遺物も少ない印象を受けるが、遺跡全体に遺構が分布しており面的には広範囲に広がっていることが窺える。また、住居の半数5軒が調査区南西部で確認されており、集落の中心部が南西寄りにあることが想定される。

### 第1節 住居(SI)

SI-01(遺構:第4・5・10図、図版5/遺物:第35図、第5表、図版19)

位置:調査区北西部の北西角に検出された。重複:SD-02に切られる。形態・確認規模:残存状態が悪く、掘方が残る状態と判断される。長軸(東西)3.4×短軸(南北)2.7m、深さ28cm程を測る方形を成す。主軸方向:N-73°-E。カマド:東壁南寄りに構築。煙道が壁外に僅かに突出する形で確認され、残存長30×幅47cmを測る。貯蔵穴:北東隅に長軸70×短軸58×深さ10cm程を測る円形の土坑が確認



第5図 調査区北西部全体図 (S=1/200)



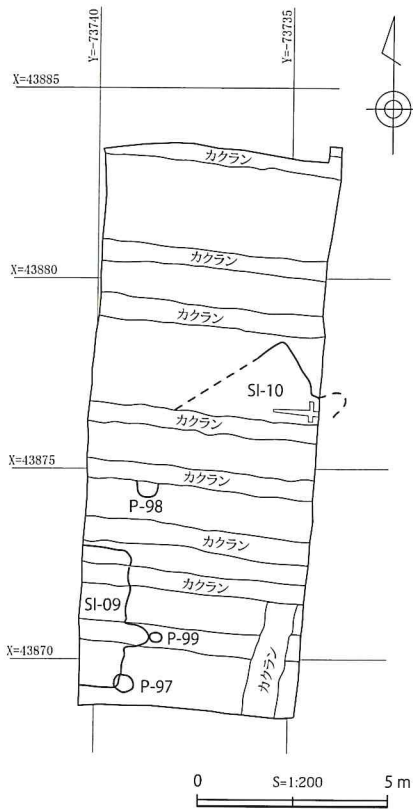
第 6 図 調査区南西部全体図 (S=1/200)

周溝：南壁沿い東側に残存するのみで全周はしていない。 床面：ほぼ平坦。 覆土：鉄分（赤色）粒・Hr-FA 粒含有黒褐色土を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。 遺物：出土遺物は少なく、掲載遺物 1 点、未掲載遺物は土師器片数点、灰釉陶器小片 2 点。 備考：遺構の全容は不明瞭であり、出土遺物も僅かなため時期判断はし難いが、平安時代前期と考えられる。

SI-02（遺構：第 4・6・11・12 図、図版 5 / 遺物：第 35 図、第 5 表、図版 19）

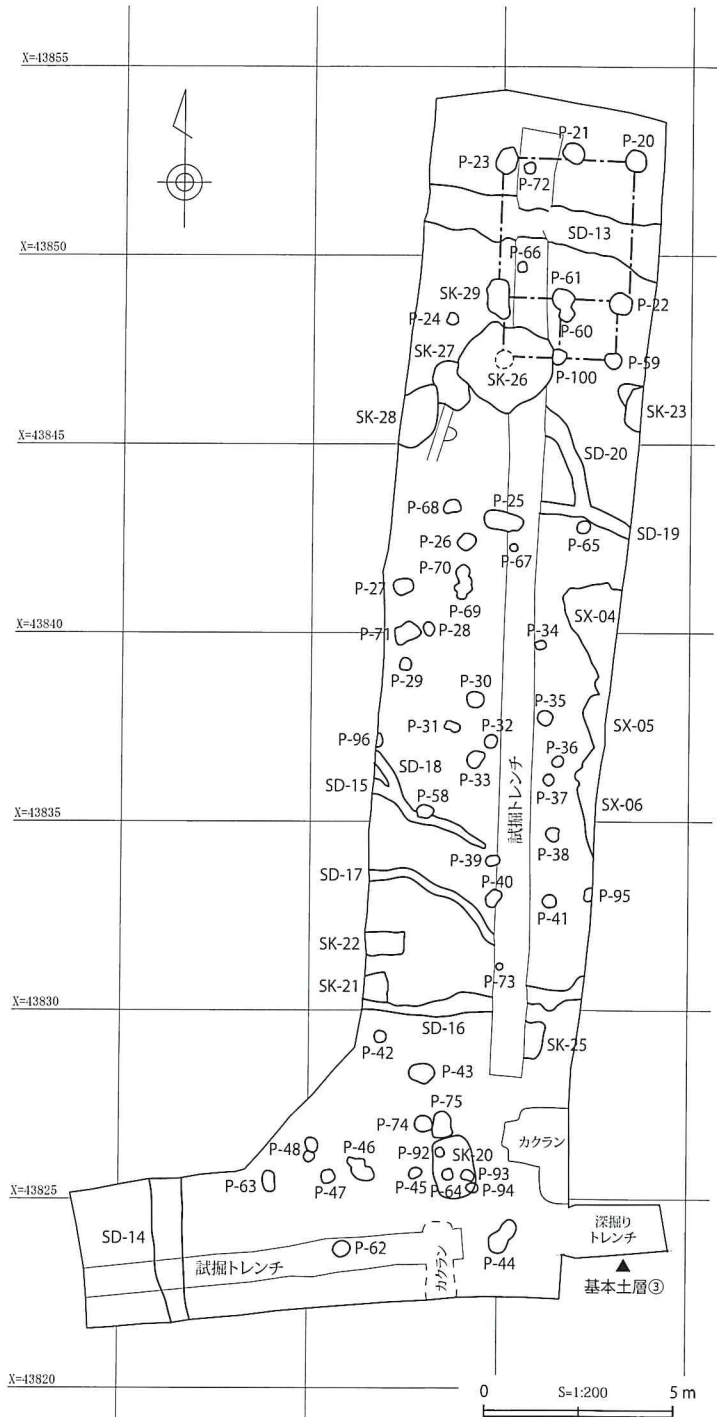
位置：調査区南西部の北寄りに検出された。 重複：SI-06 を切る。 形態・確認規模：長軸（南北）2.8 × 短軸（東西）2.5 m、深さ 20 cm 程を測る方形を成す。 主軸方向：N-101° -E。 床面：ほぼ平坦。 カマド：東壁南寄りに構築。煙り出し基底が壁外に突出する形で確認され、残存長 46 × 幅 55 cm を測る。燃焼部が僅かに窪み、灰層が認められる。 覆土：Hr-FA ブロック少量、焼土粒・炭化粒微量含有暗褐色を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。 掘り方：床面より 10 cm 程掘り込まれ、Hr-FA ブロック含有暗褐色土で人為的に埋められているものと判断される。底面全体に小さな凹凸が認められ、さらに北東角が広範囲に窪んでいる。 遺物：出土遺物は少なく、カマド付近にまとまって出土している。掲載遺物 5 点、未掲載遺物は土師器片数十点、須恵器十数点。 備考：遺構形態・出土遺物から平安時





第7図 調査区南東部全体図 (S=1/200)

北

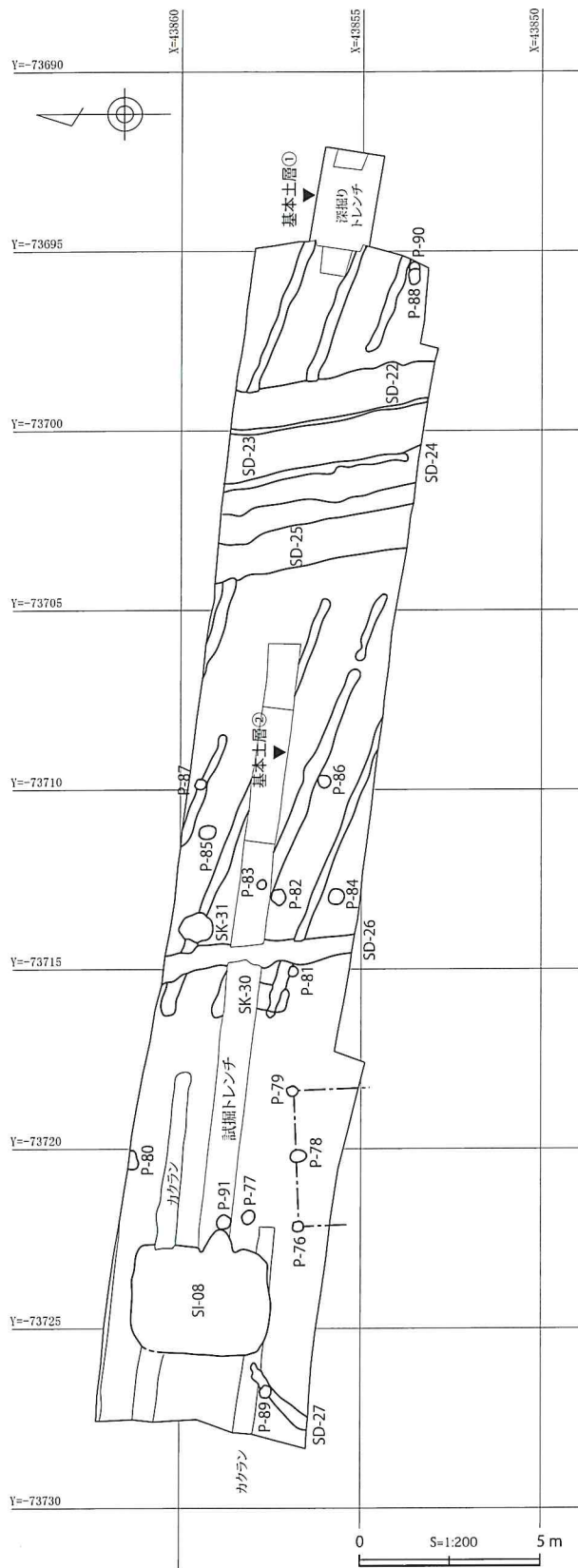


第8図 調査区南東部全体図 (S=1/200)

代前期の住居と推定される。

SI-03 (遺構：第4・6・11図、図版5)

位置：調査区南西部の北寄りに検出された。重複：なし。形態・確認規模：調査区西壁に接して検出され、遺構のほとんどは調査区外にあるため極一部が確認されたのみである。確認規模は南北2.6×東西0.7m、深さ22cm程を測り、方形を成すと推定される。主軸方向：N-16°-W。床面：ほぼ平坦。覆土：Hr-FA粒少量、炭化物微量含有暗褐色土を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。遺物：出土遺物は少なく、掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器・須恵器片数点。備考：遺構の全容は不明瞭であり、出土遺物も僅かなため時期判断はし難いが、平安時代と考えられる。



第9図 調査区東部全体図 (S=1/200)

SI-04 (遺構：第4・6・11図、図版5)

位置：調査区南西部の北寄りに検出された。  
 重複：なし。 形態・確認規模：調査区東壁に接して検出され、遺構のほとんどは調査区外にあるため極一部が確認されたのみである。確認規模は南北3.4×東西0.3m、深さ22cm程を測り、方形を成すと推定される。  
 主軸方向：N-4°-E。 床面：ほぼ平坦。  
 覆土：Hr-FA粒少量、炭化粒微量含有暗褐色を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。 掘り方：床面より20cm程掘り込まれ、Hr-FAブロック含有暗褐色土で人為的に埋められているものと判断される。底面に小さな凹凸が認められる。 遺物：出土遺物は少なく、掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器片数十点。 備考：遺構の全容は不明瞭であり、出土遺物も僅かなため時期判断はし難いが、平安時代と考えられる。

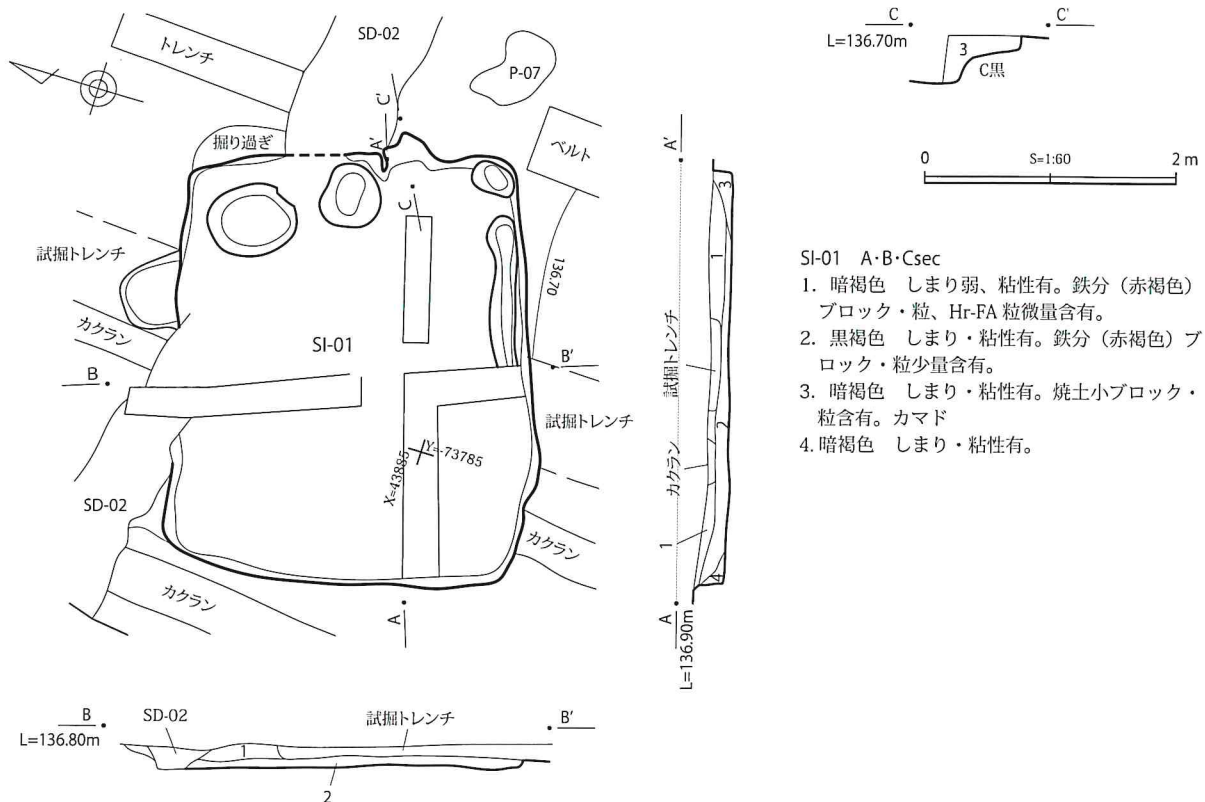
SI-05 (遺構：第4・5・13図、図版5)

遺物：第35図、第5表、図版19)

位置：調査区北西部の南寄りに検出された。  
 重複：浅い土坑に南端を切られているが、さらにSD-07に切られている。 形態・確認規模：調査区東壁に接して検出され、遺構のほとんどは調査区外にあるため極一部が確認されたのみである。確認規模は南北3.1×東西1.3m、深さ44cm程を測り、方形を成すと推定される。 主軸方向：N-7°-W。 床面：ほぼ平坦。

覆土：暗褐色 Hr-FA小ブロック・粒含有暗褐色を主体とする自然堆積と判断される。

遺物：出土遺物は極少なく、掲載遺物1点、未掲載遺物なし。 備考：土層断面北端のピットとの境に見られる5・6層は人為的に壁を成形したものと考えられる。遺構の全容は不明瞭であり、出土遺物も僅かなため時期判断はし難いが、平安時代前期と考えられる。



SI-01 A・B・Csec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性有。鉄分（赤褐色）ブロック・粒、Hr-FA粒微量含有。
2. 黒褐色 しまり・粘性有。鉄分（赤褐色）ブロック・粒少量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性有。焼土小ブロック・粒含有。カマド
4. 暗褐色 しまり・粘性有。

第 10 図 SI-01

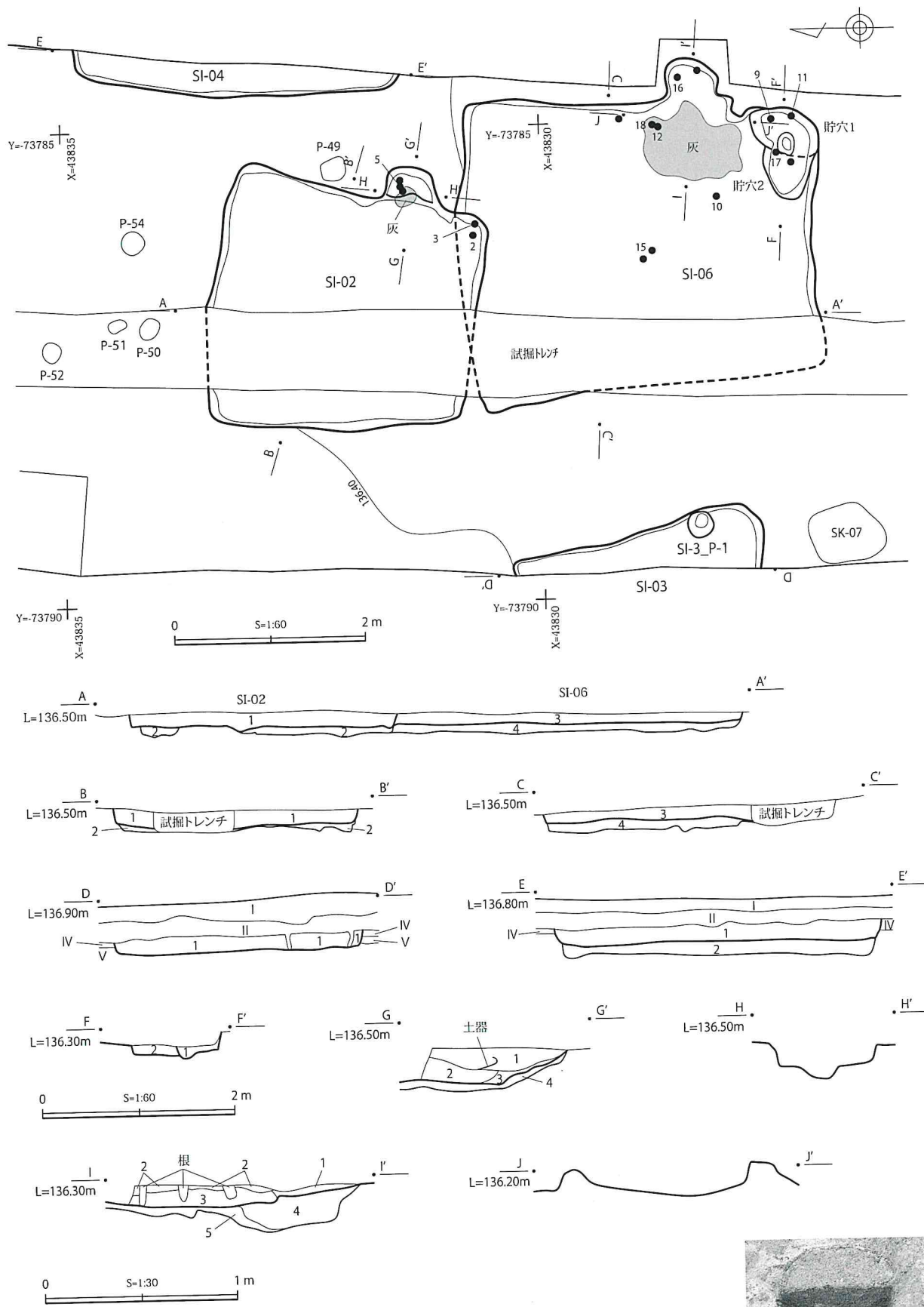
SI-06（遺構：第 4・6・11・12 図、図版 5・6 / 遺物：第 35・36 図、第 5 表、図版 19）

**位置：**調査区南西部の北寄りに検出された。**重複：**SI-02 に切られる。**形態・確認規模：**長軸（南北）3.9 × 短軸（東西）3.0 m、深さ 12 cm 程を測る方形を成す。**主軸方向：**N-84° -E。**床面：**ほぼ平坦。**カマド：**東壁南寄りに構築。煙り出し基底が壁外に突出する形で確認され、残存長 70 × 幅 70 cm を測る。燃焼部が僅かに窪み、カマド手前にかけて灰層が認められる。煙道部掘り方は土坑状に掘り込まれている。**貯蔵穴：**南東隅に新旧 2 基が確認され、貯蔵穴 2 から貯蔵穴 1 に造り替えられている。貯蔵穴 1 は長軸（南北）80 × 短軸（東西）48 × 深さ 8 cm 程を測る楕円形を、貯蔵穴 2 は南北 53 × 東西 45 × 深さ 10 cm 程を測る半楕円形を成す。**覆土：**炭化物粒少量、Hr-FA 粒・FA ブロック微量含有暗褐色土を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。**掘り方：**床面より 15 cm 程掘り込まれ、暗 Hr-FA ブロック・粒、黒色粘質土ブロック、As-C 軽石混土ブロックを斑状に含む暗褐色土で人為的に埋められているものと判断される。底面全体に小さな凹凸が認められ、北寄りに幅 1.5 m 程の溝状の窪みが認められる。**遺物：**カマド・貯蔵穴付近にまとまって出土している。特に住居中央部から出土した須恵器小壺（15）は特殊性が窺える。掲載遺物 11 点、未掲載遺物は土師器片数十点、須恵器片数点。**備考：**遺構形態・出土遺物から平安時代前期の住居と推定される。

SI-07（遺構：第 4・6・13 図、図版 6 / 遺物：第 36 図、第 5 表、図版 19）

**位置：**調査区南西部の東寄りに検出された。**重複：**SK-17 を切り、P-15・19 との関係は不明。**形態・確認規模：**床面は確認されず、掘り方が残る状態と判断した。長軸（南北）3.8 × 短軸（東西）2.9 m、深さ 8 cm 程を測る方形を成す。**主軸方向：**N-99° -E。**床面：**ほぼ平坦。**カマド：**東壁南寄りに構築。





SI-03\_P-1 sec

第11図 SI-02・03・04・06

SI-02・06 A~Csec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA ブロック少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック多量に含有。掘方部分
3. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。炭化物粒少量、Hr-FA 粒・FA ブロック微量含有。
4. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒やや多量、黒色粘質土ブロック・As-C 軽石混土ブロックを斑状に微量含有。掘方部分

SI-03 Dsec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。

SI-04 Esec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。
2. 黒褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック少量含有。掘方部分

SI-06 貯蔵穴 1・2 Fsec

1. 黒褐色 しまり弱、粘性やや有。炭化物粒少量、Hr-FA ブロックやや多量含有。
2. 黒褐色 しまり弱、粘性やや有。黒色粘質土ブロックやや多量、Hr-FA ブロック・粒少量含有。

SI-02 カマド Gsec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・FA ブロック少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・炭化物粒少量含有。
3. 灰色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・灰多量含有。
4. 黒色 しまり・粘性やや有。As-C 軽石混土ブロック多量、Hr-FA ブロック少量含有。掘方部分

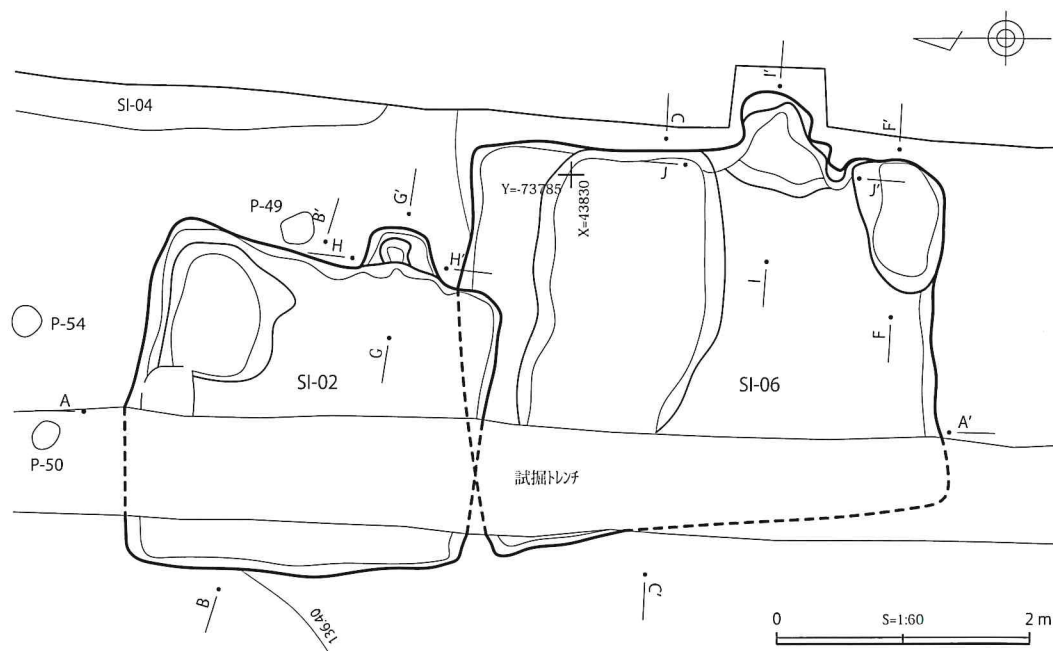
SI-06 カマド Isec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・焼土粒・炭化物粒少量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性弱。炭化物粒の互層堆積、上層は Hr-FA 粒が帯状に堆積。
4. 暗褐色 しまり・粘性やや有。灰・炭化物粒・焼土粒少量、Hr-FA 粒僅か含有。掘方部分
5. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒やや多量含有。掘方部分

SI-03 P1 Ksec

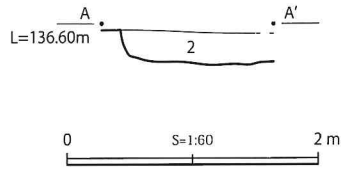
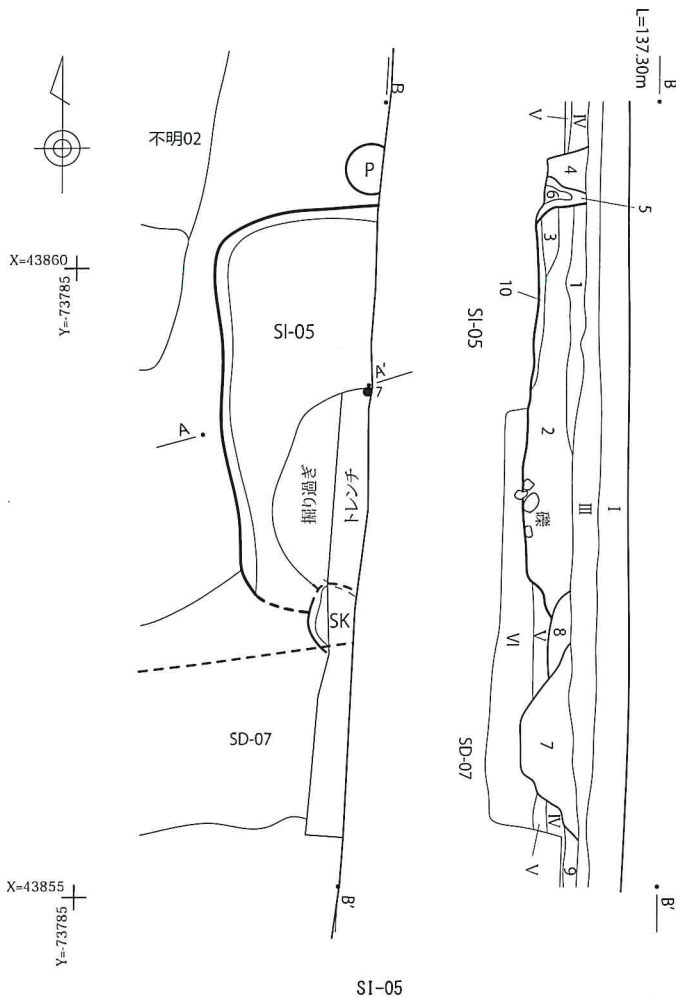
1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。

SI-02 土層説明



第12図 SI-02・06 掘方

煙り出し基底が壁外に突出する形で確認され、残存長 69 × 幅 65 cm を測る。煙道部が僅かに窪み、カマド手前にかけて灰層が認められる。煙道部掘り方は土坑状に掘り込まれている。覆土：Hr-FA ブロック・粒やや多量含有のにぶい黄褐色土を主体とする人為堆積と判断される。遺物：出土遺物は極少なく、掲載遺物 1 点、未掲載遺物は土師器片数点。備考：出土遺物が僅かなため時期判断はし難いが、平安時代前期と考えられる。



SI-05・SD-07 A・Bsec

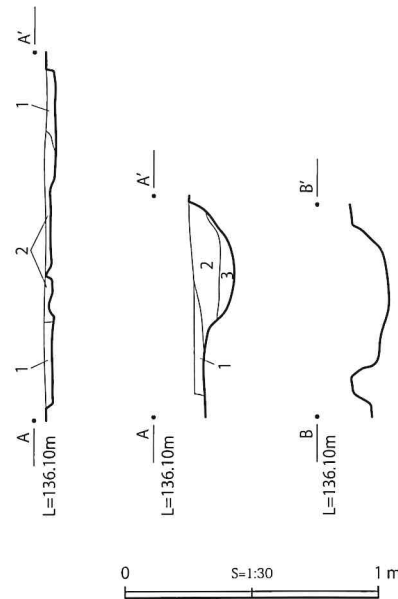
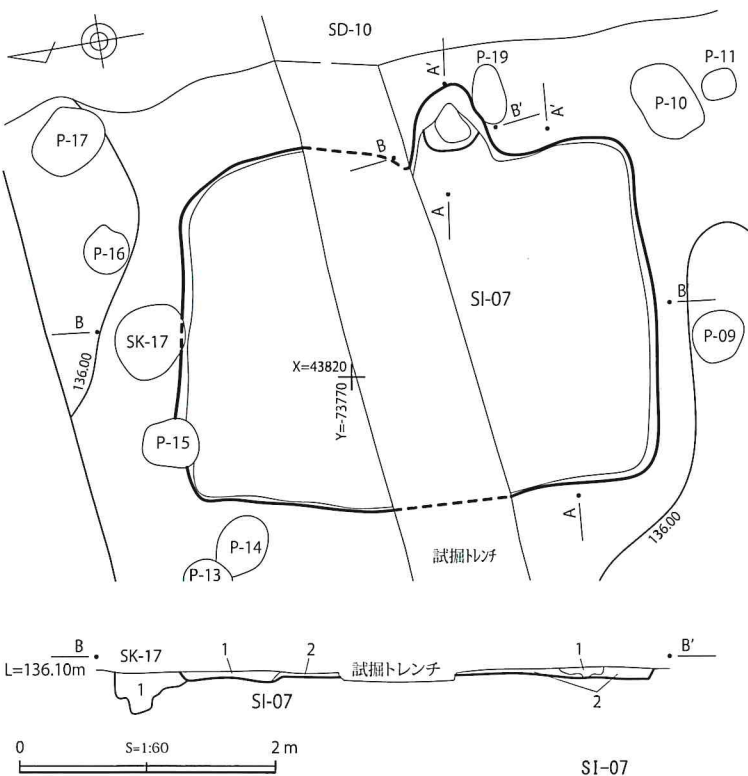
1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 軽石微量、炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性強。Hr-FA 小ブロック・粒含有。
3. 褐色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック含有。
4. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒含有。ピット
5. 黒褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒少量、As-C 軽石混土含有。壁成形土?
6. 褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒多量含有。
7. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。SD-07
8. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒美含有。土坑
9. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 小ブロック微量含有。
10. 黒褐色 しまり・粘性強。As-C 混土含有。

SI-07 A・Bsec

1. にぶい黄褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒多量含有。掘方部分
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒やや多量含有。掘方部分

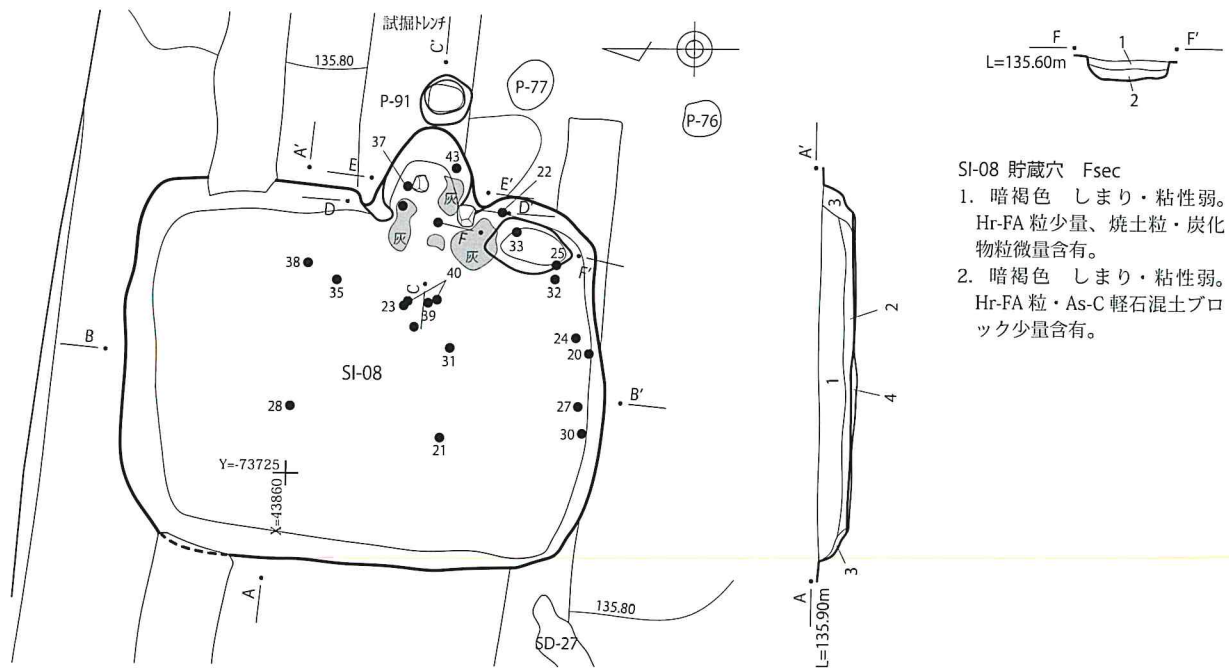
SI-07 カマド Asec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。掘方部分
2. にぶい黄褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA ブロック・粒やや多量含有。掘方部分
3. 黒褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒、黒褐色粘質土ブロック少量含有。掘方部分

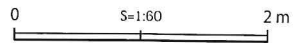
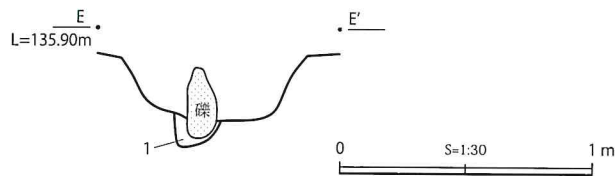
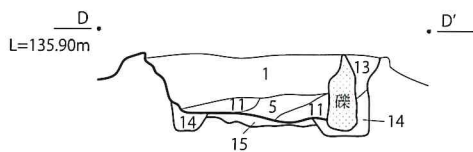
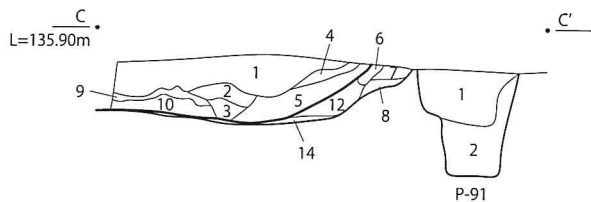
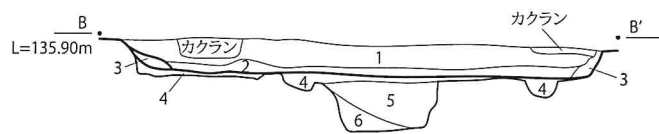


第13図 SI-05、SI-07





SI-08 貯蔵穴 Fsec  
 1. 暗褐色 しまり・粘性弱。  
 Hr-FA 粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。  
 2. 暗褐色 しまり・粘性弱。  
 Hr-FA 粒・As-C 軽石混土ブロック少量含有。



**SI-08 A-Bsec**

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒・焼土粒・炭化物少量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒多量含有。
4. 暗褐色 しまり有、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。掘方部分
5. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロックやや多量、黒色粘質土ブロック・As-C 軽石混土ブロック少量含有。掘方部分
6. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロックやや多量、黒色粘質土ブロック微量含有。掘方部分

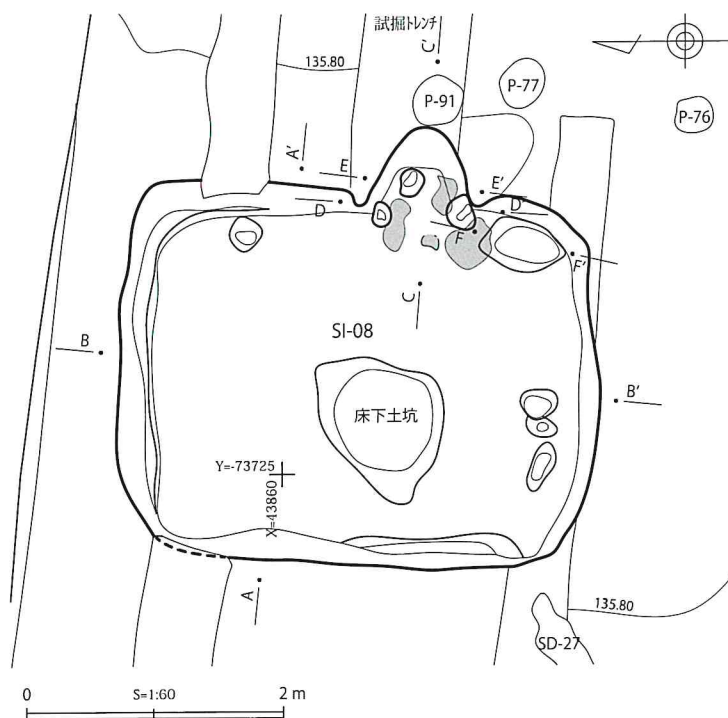
**SI-08 カマド C-Dsec**

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性弱。焼土粒・炭化物粒少量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性弱。FA 粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含有。
4. 赤褐色 しまりやや有、粘性弱。焼土粒多量、Hr-FA 粒微量含有。
5. 灰色 しまり・粘性弱。灰多量、焼土粒・炭化物粒を微量含有。
6. 黄褐色 しまりやや有、粘性有。Hr-FA ブロック多量含有。
7. 赤褐色 しまりやや有、粘性弱。焼土粒多量含有。
8. にぶい黄褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒やや多量、焼土粒・炭化物粒微量含有。

**SI-08 カマド Esec**

1. 黒褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・焼土粒・炭化物粒・黒色粘質土ブロック少量含有。掘方部分

第 14 図 SI-08



第15図 SI-08掘り方



SI-08 床下土坑土層断面／南から

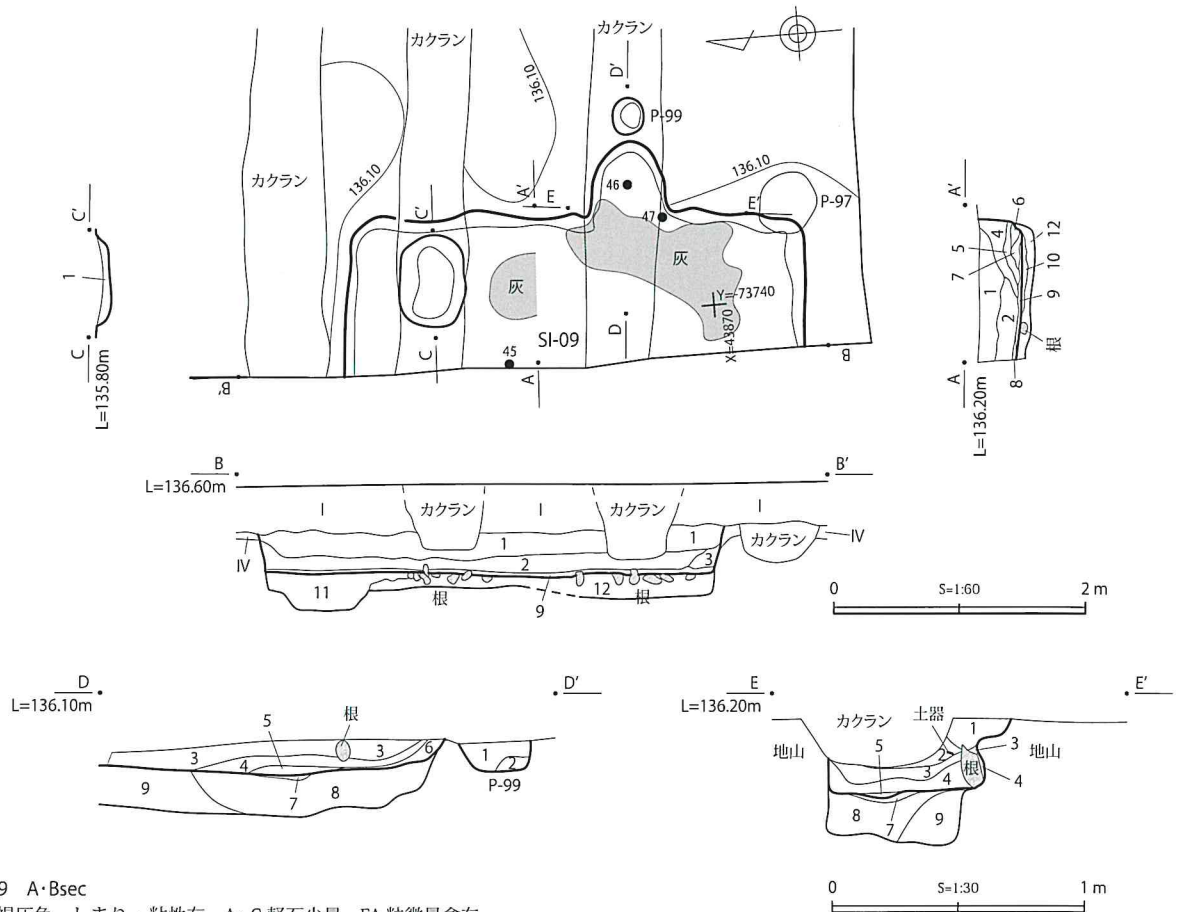
SI-08 (遺構：第4・9・14・15図、  
図版6・7  
遺物：第36・37図、第5表、  
図版20)

位置：調査区東部の西寄りに検出  
された。重複：P-91との関係は  
不明。形態・確認規模：長軸（南  
北）3.6×短軸（東西）3.0m、深  
さ28cm程を測る方形を成す。

主軸方向：N-94°-E。床面：ほぼ平坦。カマド：東壁南寄りに構築。煙り出し基底が壁外に突出する形で確認され、残存長80×幅88cmを測る。燃烧部が僅かに窪み、焚口周辺に灰層が認められる。また、右袖、奥壁には礫が敷設された状態で残存し、掘り方では左袖にも礫が差し込まれたと考えられる小ピットが確認された。貯蔵穴：南東隅に確認され、長軸（南北）70×短軸（東西）42×深さ20cm程を測る楕円形を成す。覆土：Hr-FA粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。掘り方：床面より僅か数cm下がり、Hr-FA粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有暗褐色土で人為的に埋められているものと判断される。また、中央部西寄りには径80cm程の土坑が掘り込まれている。遺物：カマド・貯蔵穴付近にまとまって出土している。掲載遺物25点、未掲載遺物は土師器片数十点、須恵器片数十点、灰釉陶器小片1点。備考：遺構形態・出土遺物から平安時代前期の住居と推定される。

SI-09 (遺構：第4・7・16図、図版7／遺物：第38図、第5表、図版20)

位置：調査区北東部の南西隅に検出された。重複：P-97に切られる。P-99との関係は不明。形態・確認規模：調査区西壁に接して検出され、遺構の大半は調査区外にあるため全容は不明。確認規模は南北3.7×東西1.2m、深さ38cm程を測り、方形を成すと推定される。主軸方向：N-95°-E。床面：ほぼ平坦。カマド：東壁南寄りに構築。煙り出し基底が壁外に突出する形で確認され、残存長73×幅72cmを測る。燃烧部が僅かに窪み、カマド手前にかけて灰層が認められる。煙道部掘り方は土坑状に掘り込まれている。貯蔵穴：北東隅に確認され、長軸（東西）73×短軸（南北）53×深さ12cm程を測る楕円形を成す。覆土：As-C軽石・Hr-FAブロック少量、FA粒微量含有褐灰色土を主体とする自然堆積と考えられる。掘り方：床面より12cm程掘り込まれ、As-C軽石少量、Hr-FAブロック多量、Hr-FA粒微量含有褐灰色土で人為的に埋められているものと判断される。南東角に径1m×深さ30cm程の円形を成す土坑が認められ、その北側には東西92×南北83cm程の不整楕円形を成す。遺物：出土遺物は



SI-09 A・Bsec

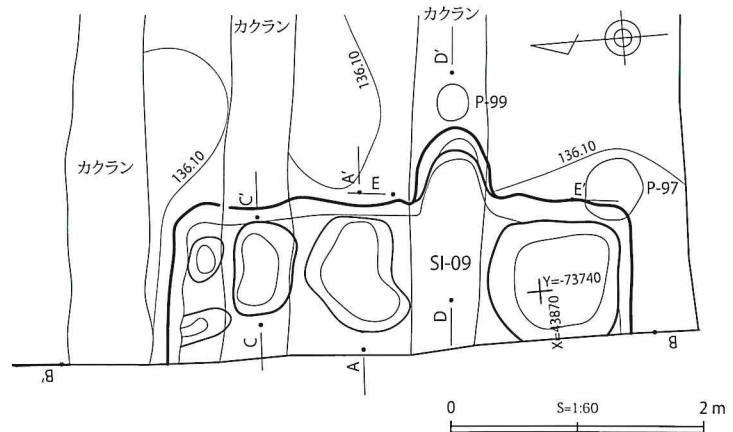
1. 褐灰色 しまり・粘性有。As-C 軽石少量、FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性有。As-C 軽石・Hr-FA ブロック少量、FA 粒微量含有。
3. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。
4. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
5. 褐灰色 しまり・粘性有。炭化粒少量、Hr-FA ブロック・FA 粒微量含有。
6. 褐灰色 しまり・粘性有。炭化粒少量、Hr-FA 粒微量含有。
7. 褐灰色 しまり・粘性有。炭化粒少量、Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
8. 褐灰色 しまり強、粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
9. 暗灰色 しまり・粘性弱。灰多量、焼土粒微量含有。灰層。
10. 褐灰色 しまり強、粘性有。灰少量、焼土粒・Hr-FA ブロック・粒微量含有。
11. 褐灰色 しまり強、粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA ブロック・粒微量含有。
12. 褐灰色 しまり強、粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。

SI-09 貯蔵穴 Csec

1. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

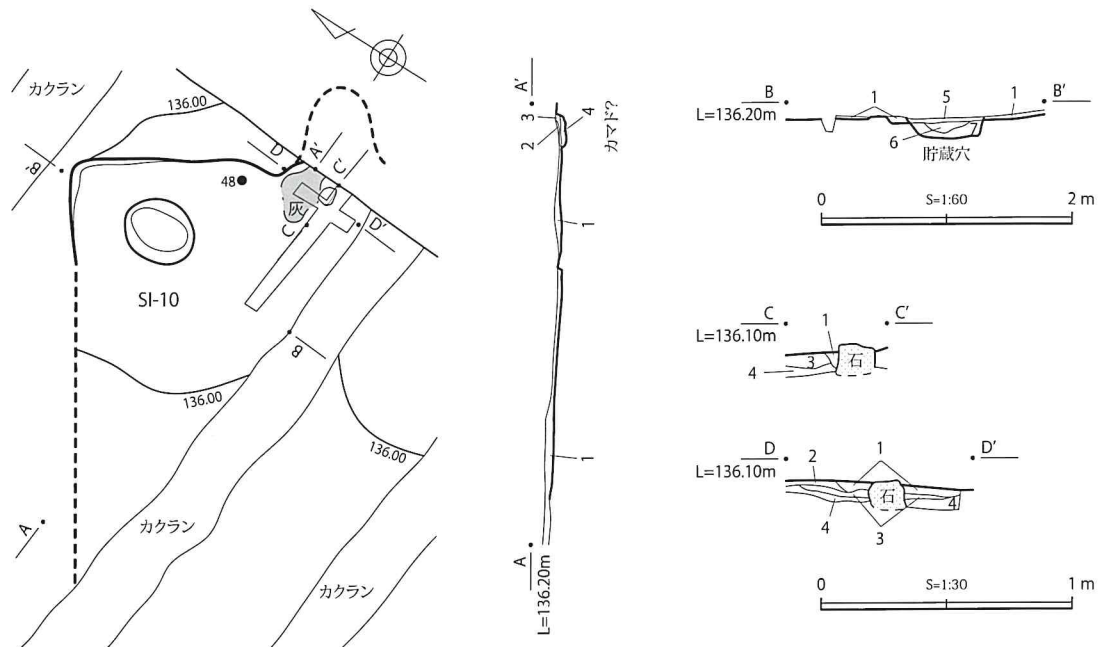
SI-09 カマド D・Esec

1. 灰褐色 しまり・粘性有。焼土粒・Hr-FA 粒微量含有。
2. 灰褐色 しまり・粘性有。焼土粒多量含有。
3. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
4. 褐灰色 しまり・粘性有。炭化粒少量、Hr-FA ブロック・Hr-FA 粒微量含有。
5. 暗灰色 しまり・粘性弱。焼土粒微量含有。
6. 灰褐色 しまり・粘性有。焼土粒中量含有。
7. 灰褐色 しまり・粘性有。灰少量、焼土粒微量含有。
8. 褐灰色 しまり強、粘性有。As-C 軽石・Hr-FA 粒微量含有。
9. 褐灰色 しまり強、粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。



第 16 図 SI-09





SI-10 A・Bsec

1. 褐灰色 しまり・粘性有。As-C 軽石・Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 褐灰色 しまり・粘性有。炭化粒少量、Hr-FA ブロック・粒微量含有。
4. 褐灰色 しまり強、粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA ブロック・粒微量含有。
5. 褐灰色 しまり・粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。貯蔵穴
6. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。貯蔵穴
7. 褐灰色 しまり強、粘性有。B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。貯蔵穴

SI-10 カマド C・Dsec

1. 灰褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。
2. 灰褐色 しまり・粘性有。炭化粒少量、Hr-FA ブロック・FA 粒微量含有。
3. 灰褐色 しまり・粘性有。灰少量、焼土粒微量含有。
4. 灰褐色 しまり強、粘性有。Hr-FA ブロック・粒微量含有。

第 17 図 SI-10

少なく、掲載遺物 3 点、未掲載遺物は土師器片数点。備考：遺構の全容は不明瞭であり、出土遺物も僅かなため時期判断はし難いが、平安時代前期と考えられる。

SI-10 (遺構：第 4・7・17 図、図版 7・8 / 遺物：第 38 図、第 5 表、図版 20)

位置：調査区北東部の中央東端に検出された。重複：なし。形態・確認規模：調査区東壁に接して灰層が検出され、僅かな掘り込みが北東部に確認できたのみで全容は不明。確認規模は南北 2.3 × 東西 0.8 m 程、深さ数 cm を測る。主軸方向：推定 N-57° -E。カマド：部分的に灰層が僅かに残っている程度で詳細は不明。貯蔵穴：南東隅に確認され、径 55 × 深さ 17 cm 程を測る円形を成す。覆土：As-C 軽石・Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有褐灰色土を主体とするが、堆積状況が極浅く覆土として断定し難い。遺物：出土遺物は極少なく、掲載遺物 1 点のみ。備考：残存状態が悪く、出土遺物も僅かなため時期判断はし難いが、平安時代前期と考えられる。

第2節 土坑 (SK)、ピット (P)、性格不明遺構 (SX) (第4～9・18～28図、第2～4表、図版7～14 / 遺物 : 第38～40図、第5表、図版21)

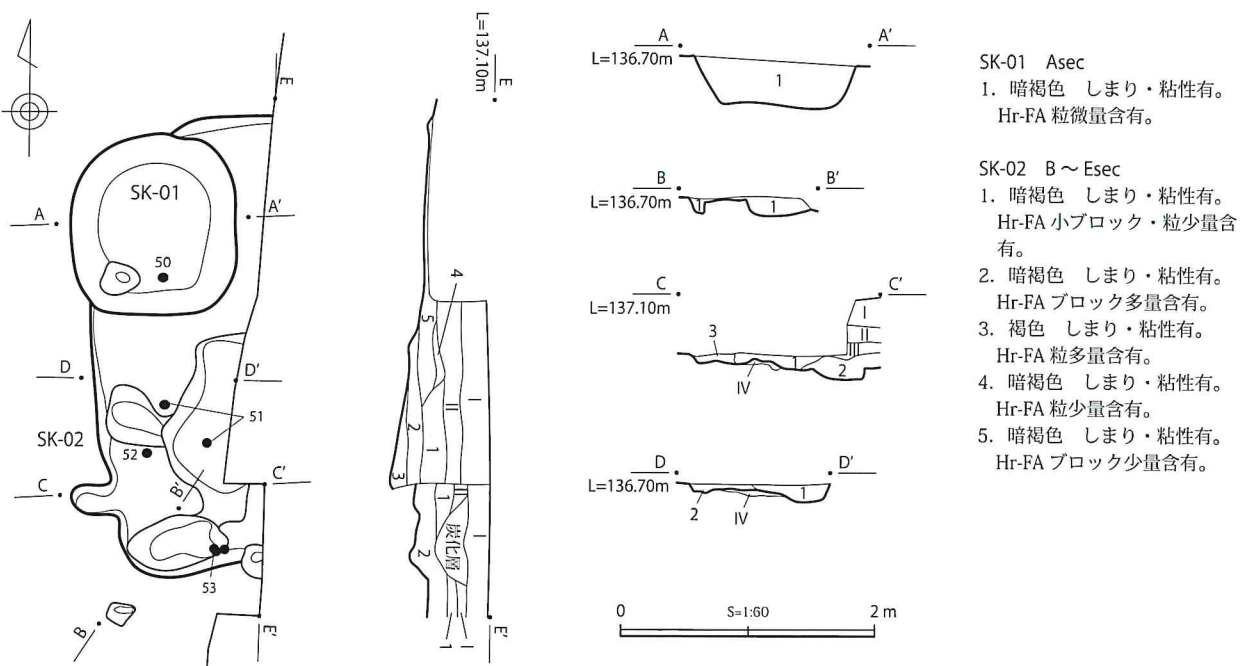
発掘調査では全て単独遺構として扱ったが、名称の違いによる区別が曖昧なこと、整理段階において土坑・ピットの中に掘立柱建物、あるいは柵列を構成する可能性が高いものが含まれることから抜粋して記述することとした。なお、そのほとんどは単独遺構として扱わざるを得ず、詳細については第2・3・4表にまとめて記載した。

SK-02は調査区北西部南寄りに確認され、遺構のほとんどが調査区外東に広がっており全容は不明である。しかし、平面形状が方形と推定されること、土層堆積状況が人為的埋土と判断されることから住居掘り方の可能性が高いと考えられる。確認規模は南北3.5×東西1.3m、深さ42cmを測り、主軸方位はN-81° -Eである。遺構の全容は不明瞭であり、出土遺物も僅かなため時期判断はし難いが、平安時代前期と考えられる。

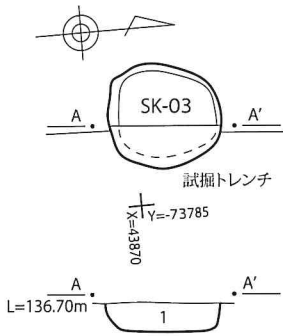
P-8・9・10は調査区南西部東寄り、SI-07の南側に東西に直線的に並んで確認され、さらに調査区外南へ展開する可能性もある。断面形状には差異が認められるが、掘立柱建物を構成する可能性があると判断した。棟桁方向は不明であるが、全長3.7m、柱間1.8mを測り、主軸方向N-83° -Eである。

SK-17、P-12～17は調査区南西部東寄り、SI-07の北側に東西に直線的に並んで確認され、さらに調査区外北へ展開する可能性もある。断面形状には差異が認められるが、SK-17、P-12・15に底面に柱痕らしき凹みが認められるものもあり掘立柱建物を構成する可能性が高いと判断した。棟桁方向は不明であるが、全長4.8m、柱間0.9mを測り、主軸方向N-80° -Eである。なお、SK-17がSI-07を切っている。

SK-29、P-20～23・61は調査区南東部北寄りに方形に並んで確認され、さらに南側にはP-59・100、SK-26内の僅かな窪みが並行して直線的に並んでいる。断面形状には差異が認められ、庇構造をもった建物の可能性が高い。建物部分の規模は桁行(南北)3.7×棟行(東西)3.5、柱間1.7mを測り、主軸方向N-2° -Eである。庇部分と考えられる規模は幅(東西)3.0×奥行(南北)1.7mを測る。なお、

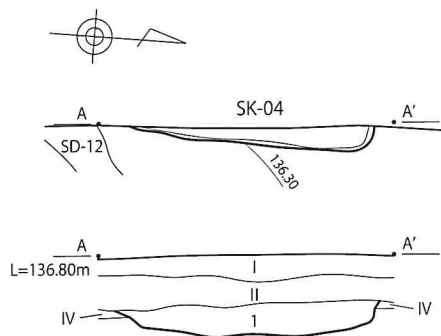


第18図 SK-01・02



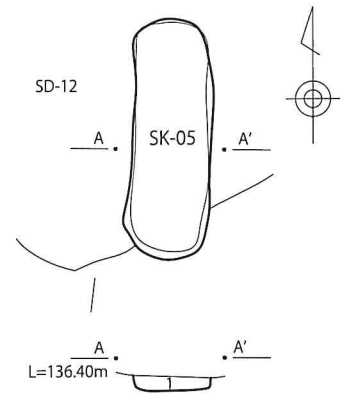
SK-03 Asec

1. 黒褐色 しまり・粘性有。As-B 軽石粒多量、Hr-FA 小ブロック・粒含有。



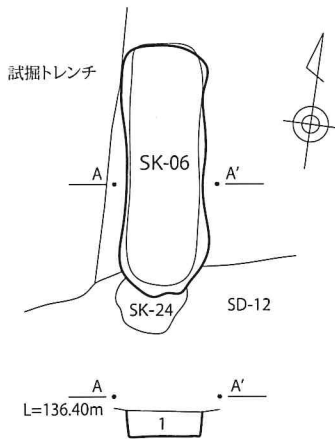
SK-04 Asec

1. 黒褐色 しまり・粘性弱。As-B 軽石粒多量、Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。



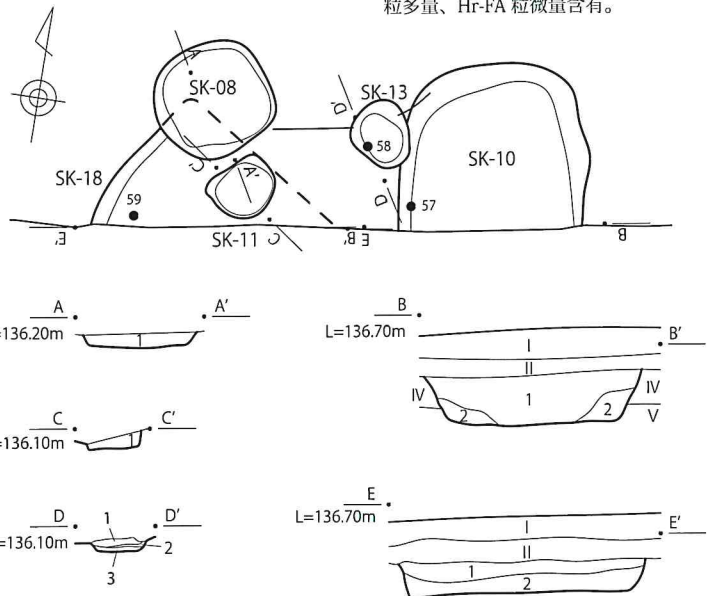
SK-05 Asec

1. 黒褐色 しまり・粘性弱。As-B 軽石粒多量、Hr-FA 粒微量含有。



SK-06 Asec

1. 黒褐色 しまり・粘性弱。As-B 軽石粒多量、Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。



SK-08 Asec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロックやや多量、As-C 軽石混土ブロック少量含有。

SK-10 Bec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量含有。  
2. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒微量含有。

SK-11 Cec

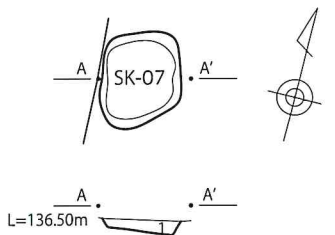
1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒・As-C 軽石混土ブロック少量含有。

SK-13 Dsec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA ブロック・粒、焼土粒、炭化物粒少量含有。  
2. にぶい黄褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒多量含有。  
3. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。黒色粘質土ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

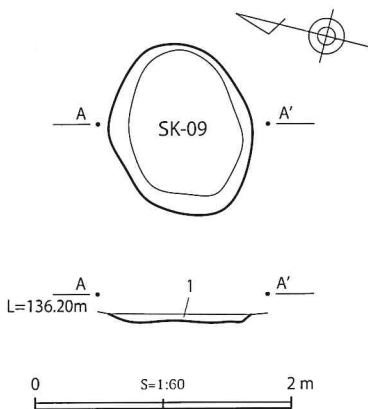
SK-18 Eec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒僅か含有。  
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロックやや多量、灰白シルトブロック少量、炭化物粒僅か含有。



SK-07 Asec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量、白色粒微量含有。

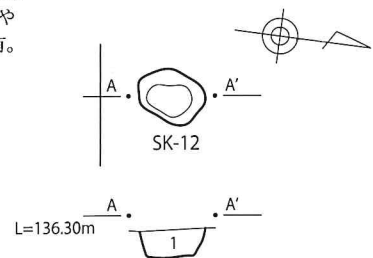


SK-09 Asec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。As-C 軽石混土ブロック少量、Hr-FA 粒僅か含有。

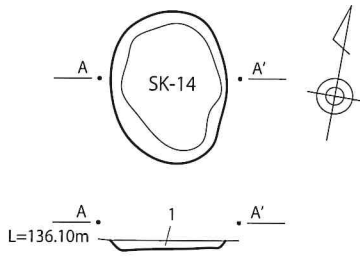
SK-12 Asec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。As-C 軽石混土ブロック・Hr-FA 粒・炭化物粒僅か含有。



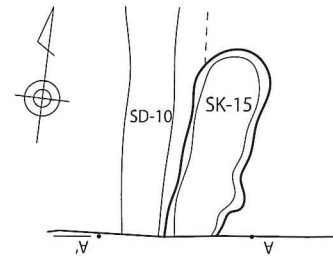
第 19 図 SK-03 ~ 13・18





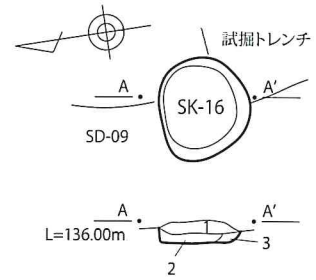
SK-14 Asec

1. 灰褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。



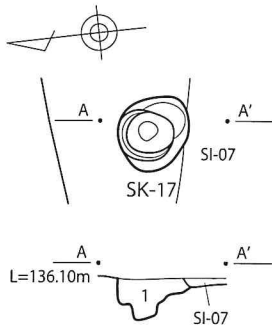
SK-15 Asec

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロックやや多量、黒色粘質土ブロック少量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。鉄分多量、黒色粘質土ブロックやや多量、Hr-FA ブロック少量含有。



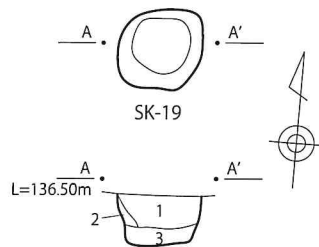
SK-16 Asec

1. 灰褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FAA 粒やや多量含有。
3. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量含有。



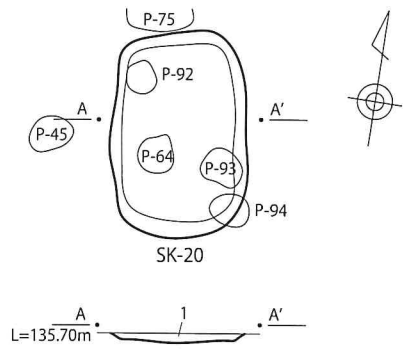
SK-17 Asec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量含有。



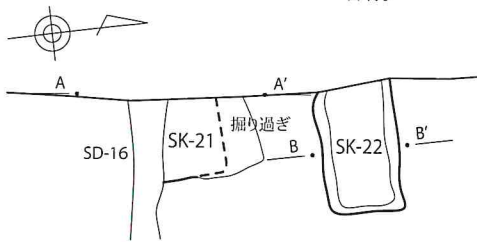
SK-19 Asec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒少量、炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA ブロック・粒やや多量含有。
3. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量含有。



SK-20 Asec

1. 暗褐色 しまり強、粘性弱。As-C 軽石多量含有。



SK-21 Asec

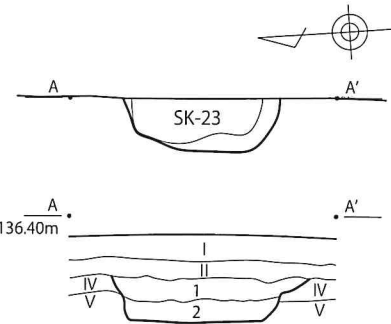
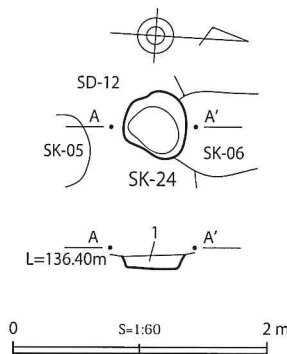
3. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
4. 灰褐色 しまり強、粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
5. 灰褐色 しまり強、粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。

SK-22 Bsec

1. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒子微量含有。

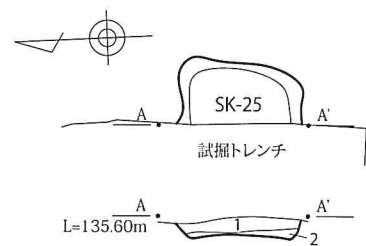
SK-24 Asec

1. にぶい黄褐色 しまり有、粘性やや有。Hr-FA 粒・Hr-FA ブロック多量、黒色粘質土ブロック少量含有。



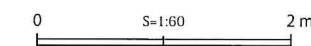
SK-23 Asec

1. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 軽石粒含有。
2. 暗褐色 しまり有、粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

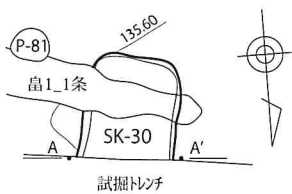
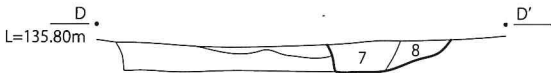
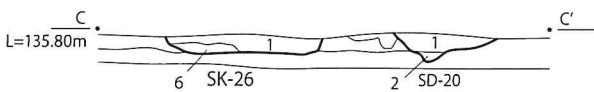
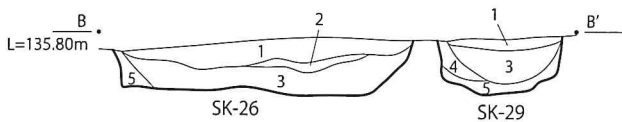
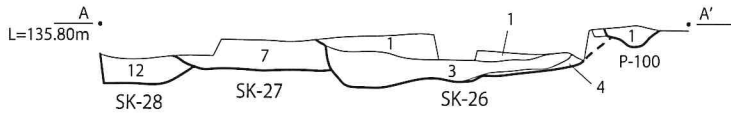
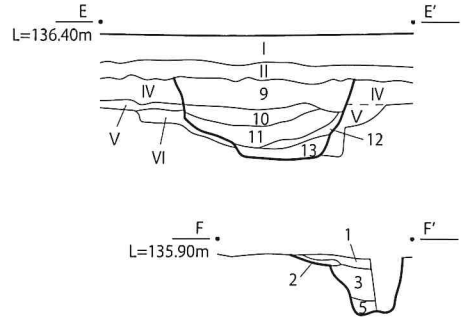
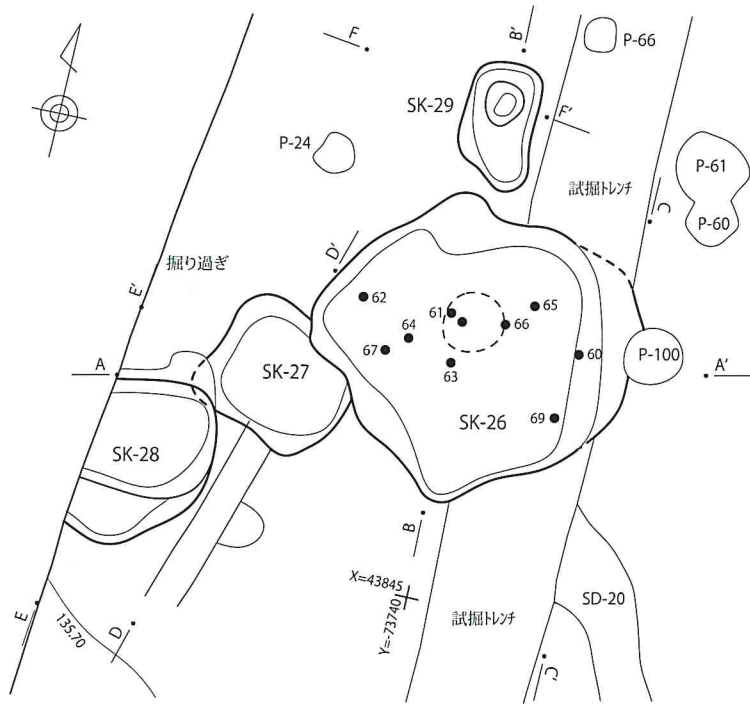


SK-25 Asec

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、As-B 軽石・Hr-FA 粒微量含有。

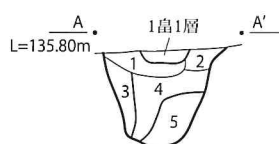
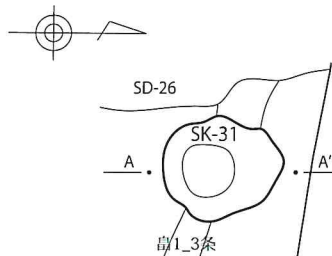


第 20 図 SK-14 ~ 17・19 ~ 25



SK-30 Asec

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック やや多量、白色粒少量含有。



SK-31 Asec

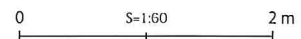
1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒少量、黒色粘質土ブロック微量含有。
2. 黒褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量、焼土粒微量含有。
3. にぶい黄褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒多量含有。
4. 暗褐色 しまりやや有、粘性有。Hr-FA 粒・黒色粘質土ブロックやや多量、灰白色シルトブロック微量含有。
5. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒・黒色粘質土ブロック・灰白色シルトブロック少量含有。

SK-26・27・28・29 A～Esec

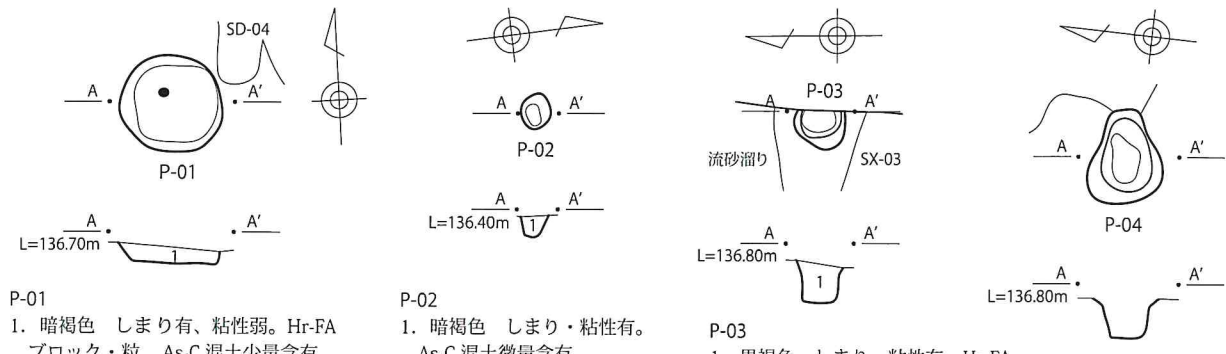
1. 褐灰色 しまり・粘性強。FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
4. 黒褐色 しまり・粘性有。As-B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。
5. 黒褐色 しまり・粘性有。As-B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。
6. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
7. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。
8. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
9. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
10. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FAA 粒微量含有。
11. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
12. 褐灰色 しまり・粘性有。As-B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。
13. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック・As-B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。

SK-29 B・Fsec

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、As-B 軽石・Hr-FA 粒微量含有。
3. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
4. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
5. 褐灰色 しまり・粘性有。As-B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。



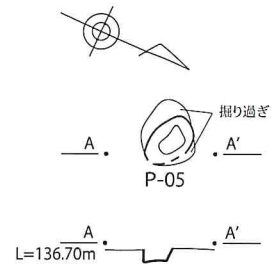
第 21 図 SK-26 ~ 31



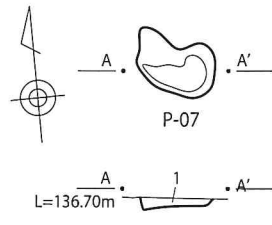
P-01  
1. 暗褐色 しまり有、粘性弱。Hr-FA ブロック・粒、As-C 混土少量含有。

P-02  
1. 暗褐色 しまり・粘性有。As-C 混土微量含有。

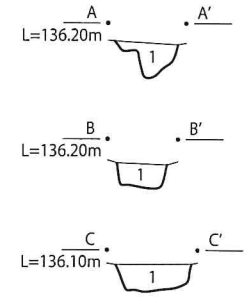
P-03  
1. 黒褐色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック・粒少量含有。



P-06  
1. にぶい黄褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロック多量含有。

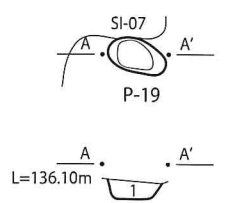
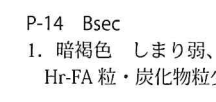
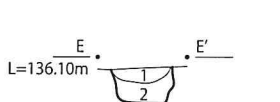
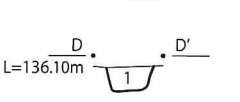
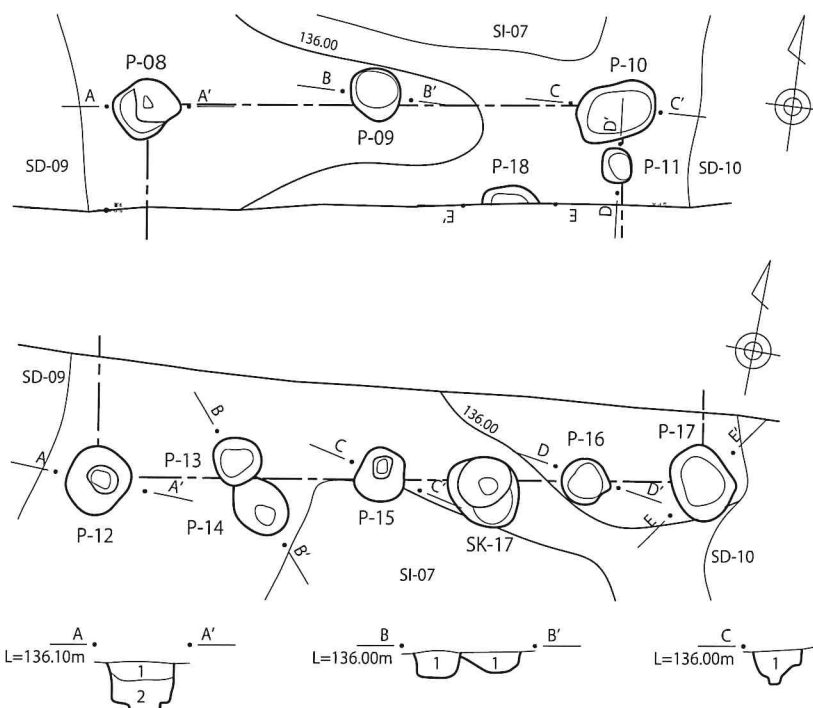


P-07  
1. 褐色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、焼土小ブロック・粒微量含有。



P-08 ~ 11 A ~ Dec, P-15 Csec・P-19 Asec  
1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。

P-18 Esec  
1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。  
2. 黒褐色 しまり・粘性弱。As-C 軽石混土ブロックやや多量、Hr-FA 粒微量含有。



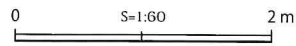
P-12 Asec  
1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック少量、炭化物粒微量含有。  
2. 黒褐色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量含有。

P-13 Bsec  
1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。

P-14 Bsec  
1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロックやや多量、Hr-FA 粒・炭化物粒少量含有。

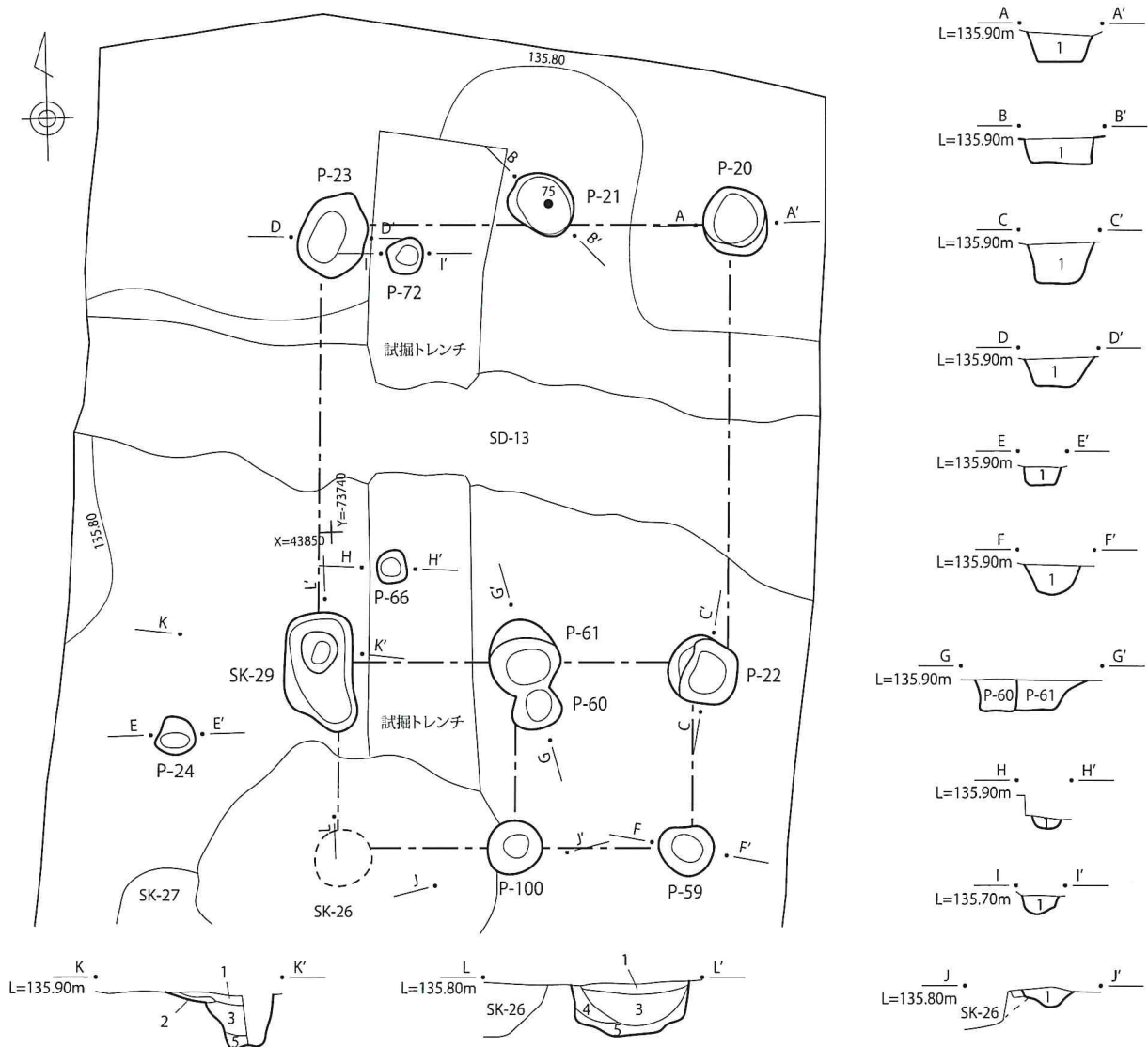
P-16 Dsec  
1. 暗褐色 しまりやや有、粘性有。Hr-FA ブロック・粒やや多量、黒色粘質土ブロック少量含有。

P-17 Eec  
1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロックやや多量、炭化物粒微量含有。  
2. 黒褐色 しまりやや有、粘性有。Hr-FA ブロック・黒色粘質土ブロックやや多量含有。



第 22 図 P-01 ~ 19





SK-29 K・Lsec

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、As-B 軽石・Hr-FA 粒微量含有。
3. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
4. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、FA 粒微量含有。
5. 褐灰色 しまり・粘性有。As-B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。

P-20 ~ 24 A ~ Esec

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒微量、赤色鉄分粒含有。

P-59 Fsec

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。

P-66 Hsec

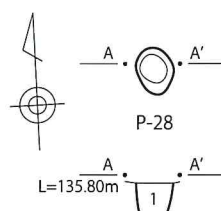
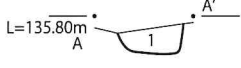
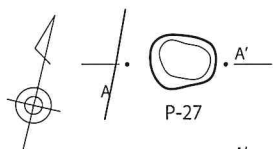
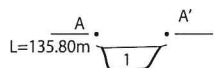
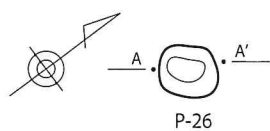
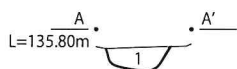
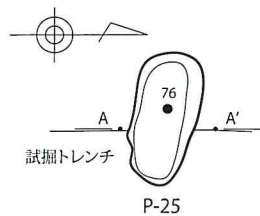
1. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

P-72 Isec

1. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。

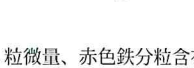
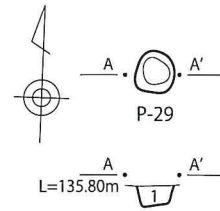
P-100 Jsec

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

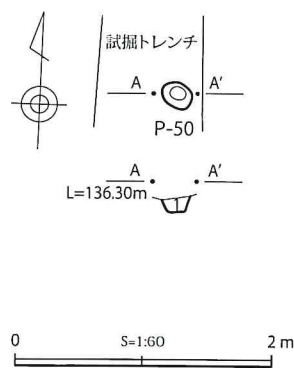
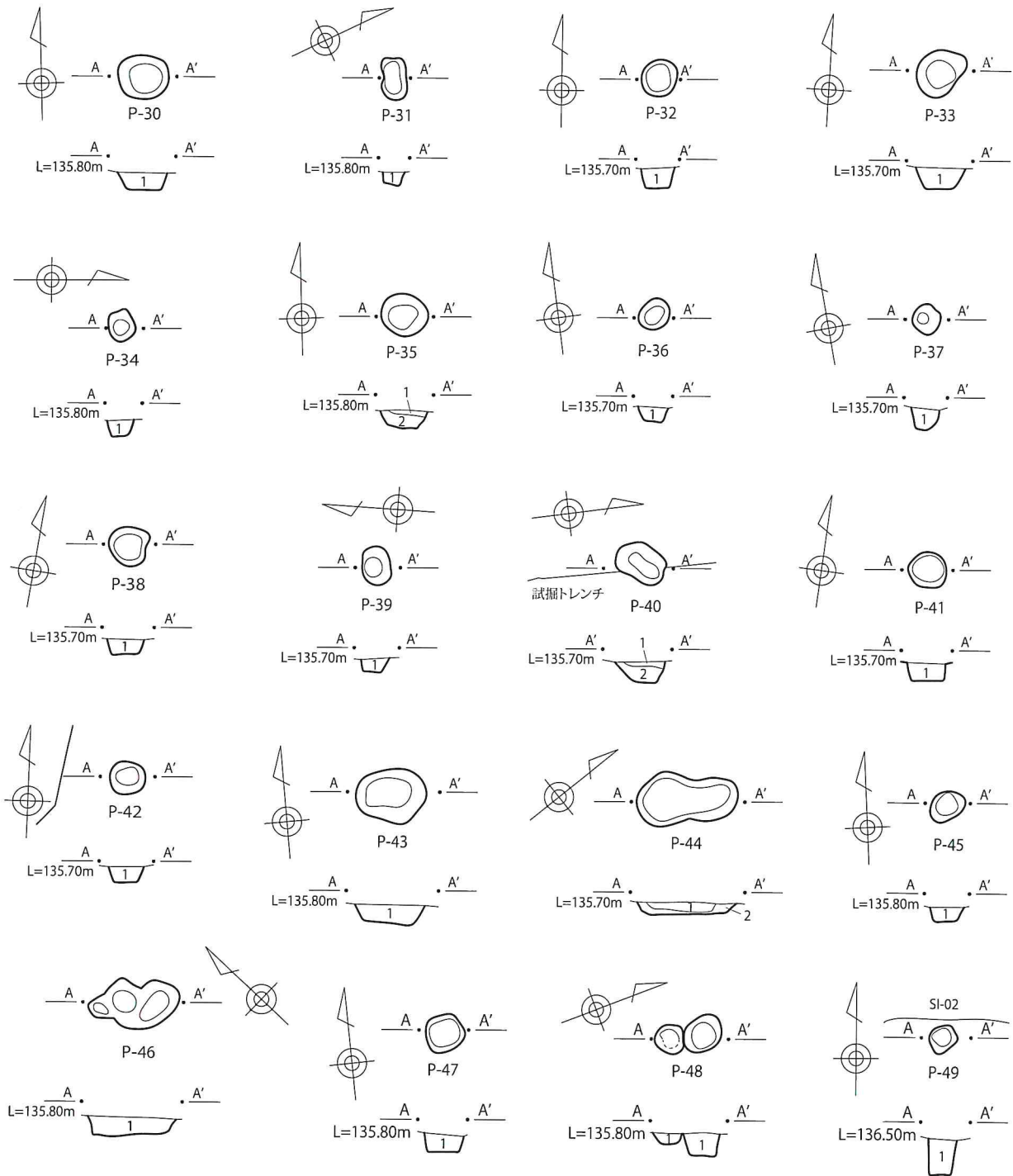


P-25 ~ 29

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒微量、赤色鉄分粒含有。



第23図 P-20 ~ 29・59 ~ 61・66・72・100



P-30 ~ 34 · 36 ~ 39 · 41 ~ 43 · 45

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒微量、赤色鉄分粒含有。

P-35

1. 暗褐色 しまり有、粘性弱。Hr-FA 小ブロック・粒少量、As-B 混微量含有。

2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒微量、赤色鉄分粒含有。

P-40

1. 暗褐色 しまり・粘性有。炭化土少量含有。  
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒微量、赤色鉄分粒含有。

P44

1. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量含有。  
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒微量、赤色鉄分粒含有。

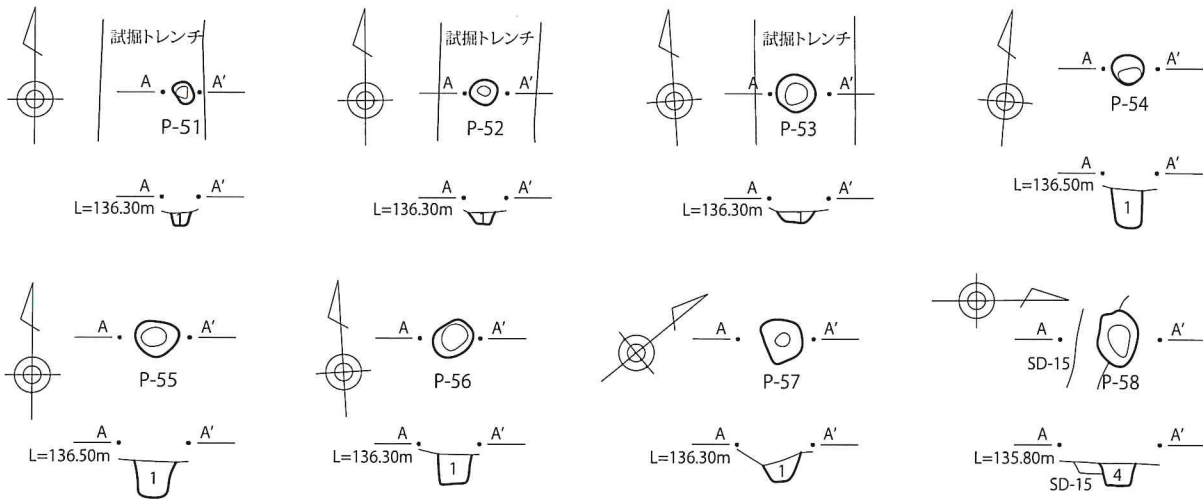
P-46 ~ 48

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック含有。

P49 · 50

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。

第 24 図 P-30 ~ 50



P-51

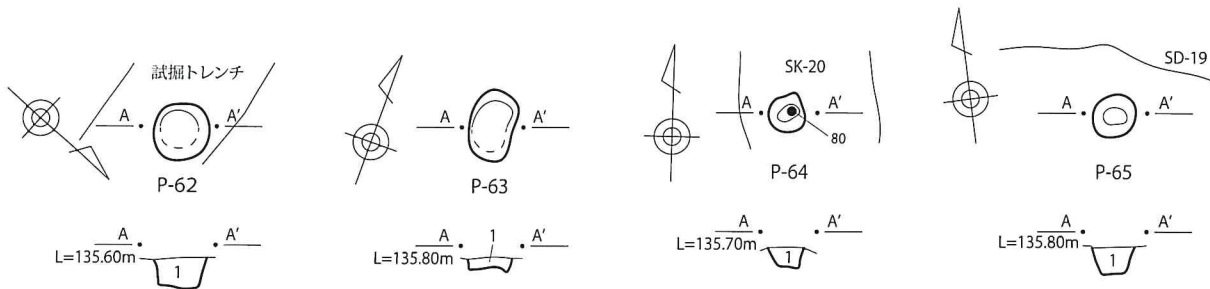
1. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量含有。

P-52 ~ 57

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。

P-58

4. 褐灰色 しまり・粘性強。FA 粒微量含有。



P-62

1. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。

P-64

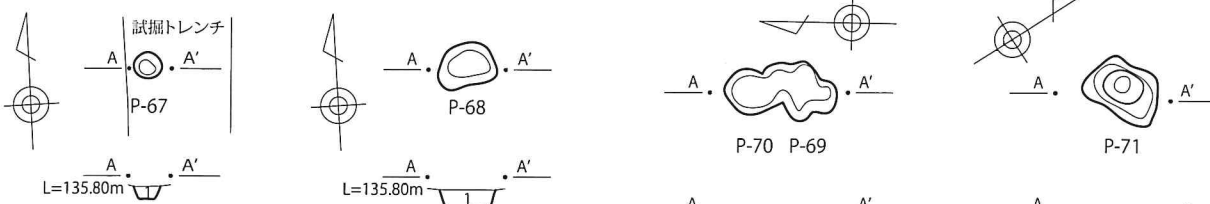
1. 褐灰色 しまり有、粘性強。FA 粒微量含有。

P-63

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。

P-65

1. 褐灰色 しまり有、粘性強。FA ブロック多量、FA 粒微量含有。



P-67

1. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA ブロック・B 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。

P-69・70

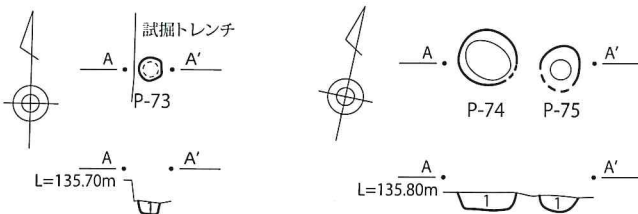
1. 褐灰色 しまり・粘性強。FA ブロック微量含有。  
2. 褐灰色 しまり・粘性強。FA 粒微量含有。  
3. 褐灰色 しまり・粘性強。B 軽石少量、FA 粒微量含有。

P-68

1. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA 粒微量含有。

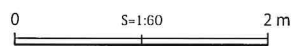
P-71・73・74

1. 褐灰色 しまり・粘性強。FA 粒微量含有。



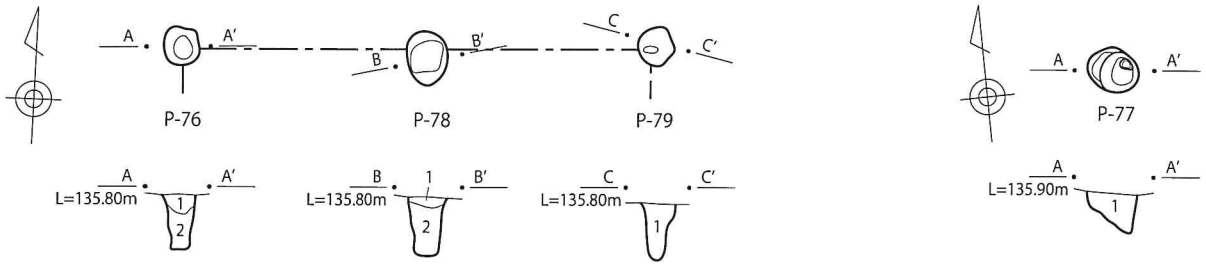
P-75

1. 褐灰色 しまり・粘性強。FA ブロック多量、FA 粒微量含有。



第 25 図 P-51 ~ 58・62 ~ 65・67 ~ 71・73 ~ 75





P-76

1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒やや多量含有。
2. 黒褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。

P-77

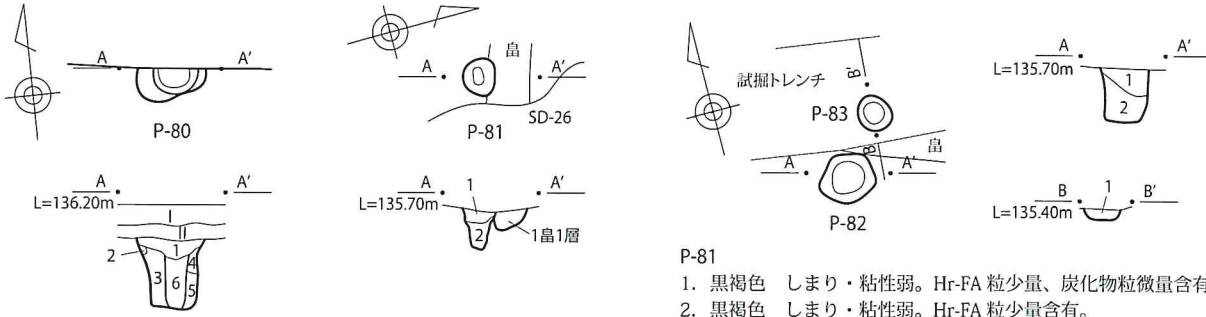
1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。

P-78

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒やや多量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量含有。

P-79

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。FHr-FA ブロック・粒多量、炭化物粒微量含有。



P-80

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量含有。
2. にぶい黄褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒多量含有。
3. にぶい黄褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒やや多量、黒色粘質土ブロック少量含有。
4. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒少量含有。
5. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒やや多量、黒色粘質土ブロック少量含有。
6. 黒褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。

P-81

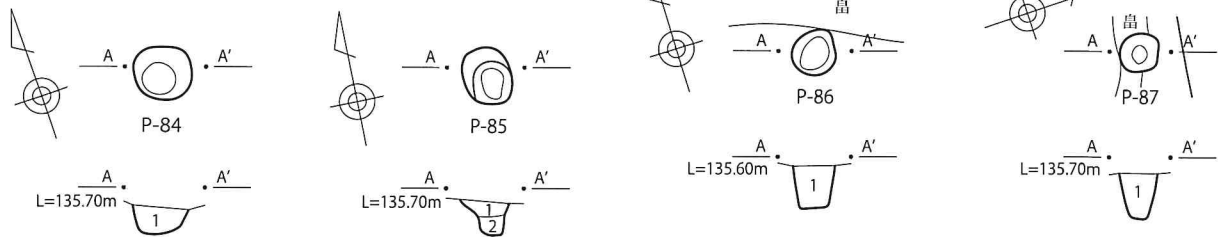
1. 黒褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。
2. 黒褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量含有。

P-82

1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・焼土粒少量含有。

P-83

1. にぶい黄褐色土 粘性やや有、しまり弱。Hr-FA ブロック多量含有。



P-84

1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。FA 粒・FA ブロック少量、炭化物粒微量含有。

P-86

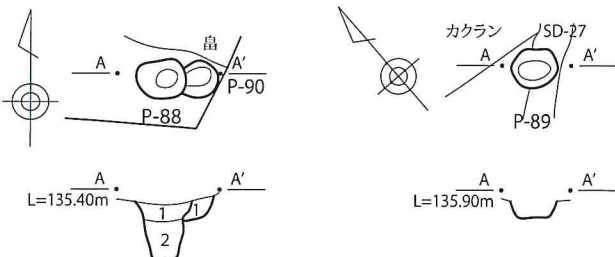
1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒やや多量、炭化物粒微量含有。

P-85

1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。FA 粒少量、炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。FA ブロック斑状にやや多量、炭化物粒微量含有。

P-87

1. 黒褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒少量、焼土粒微量含有。

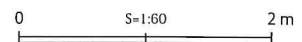


P-88

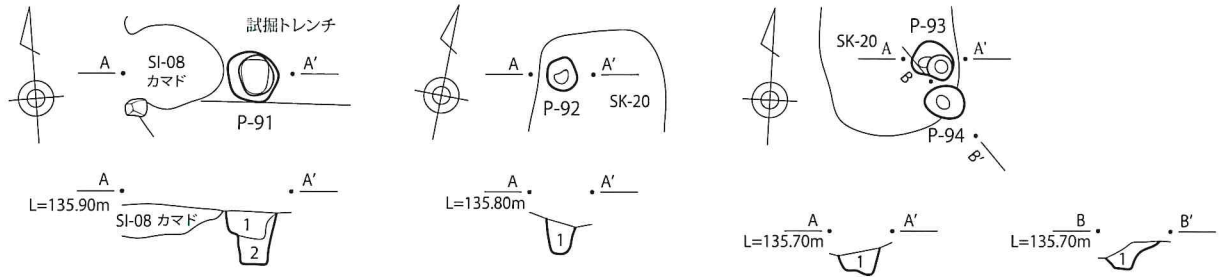
1. 黒褐色 しまり弱、粘性やや有。焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 黒褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒・焼土粒・炭化物粒微量含有。

P-89

1. 黒褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。



第 26 図 P-76 ~ 90



P-91

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含有。

P-92

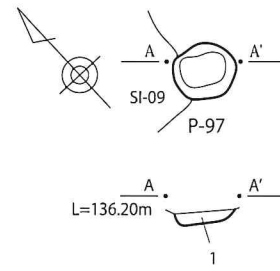
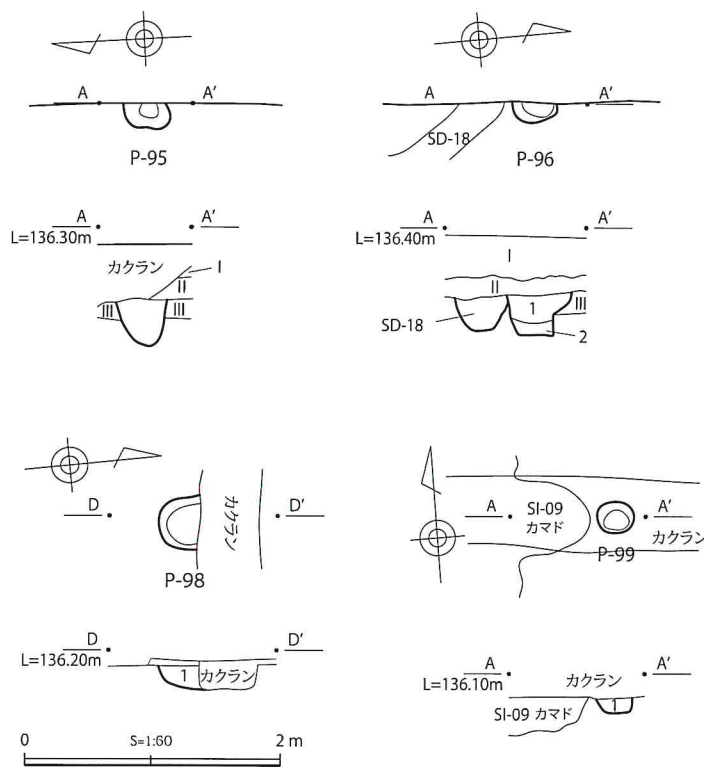
1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。

P-93

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。

P-94

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。



P-95

1. 褐灰色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。

P-96

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。

P-97

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

P-98

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

P-99

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

第 27 図 P-91 ~ 99

P-21 覆土中から土師器台付甕の台部 1 点 (第 40 図 75) が出土している。

P-76・78・79 は調査区東部西寄り、SI-08 の南東側に東西に直線的に並んで確認され、さらに調査区外南へ展開する可能性もある。断面形状は筒型の同一形状を成し、掘立柱建物を構成する可能性が高いと判断した。棟桁方向は不明であるが、全長 3.7 m、柱間 1.8 m を測り、主軸方向 N-87° -E である。

調査区東部に確認された SK-31、P-80 は単独遺構として扱っているが、確認された土坑・ピットの中で最もしっかりした掘り方を成し、土層断面に柱痕が認められることから調査区外へ展開する掘立柱建物を構成する可能性が高いと考えられる。

P-91・99 はそれぞれ SI-08・09 カマド煙道正面に接する位置にあり、カマド煙道を覆うような住居に付随する施設が考えられるが、他の事例を踏まえた検討が必要であろう。

その他にも柱穴らしき形態を持つものもあるが、建物施設を構成する配列は認められなかった。

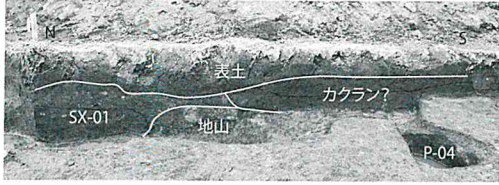
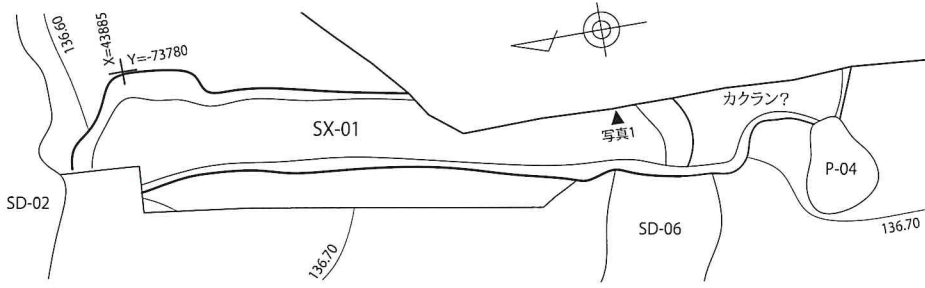
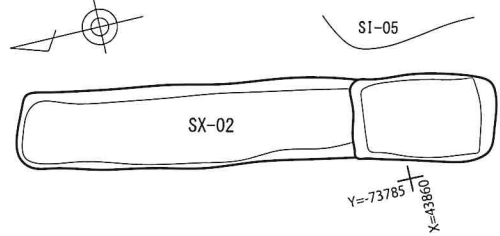


写真1 SX-01



SX-02

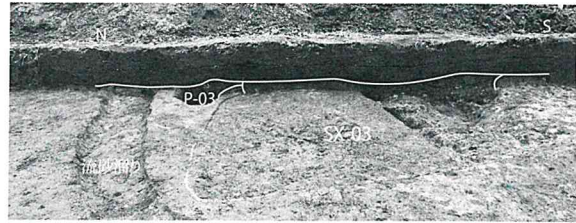
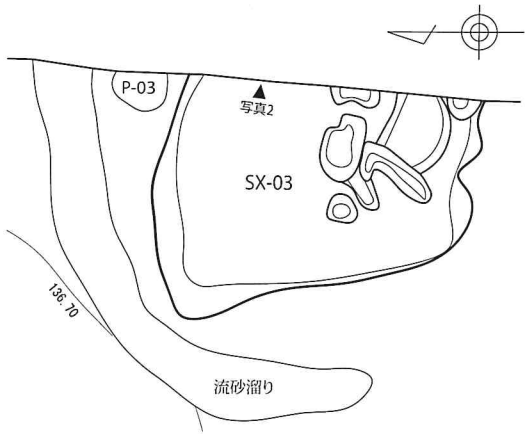
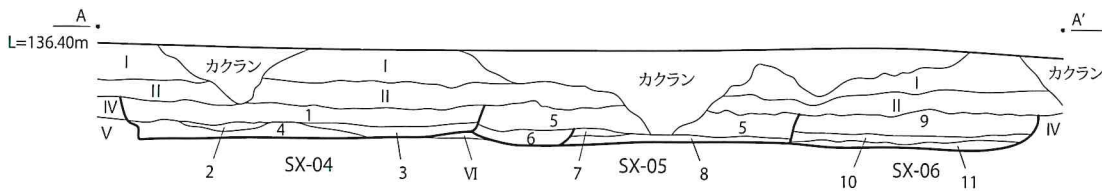
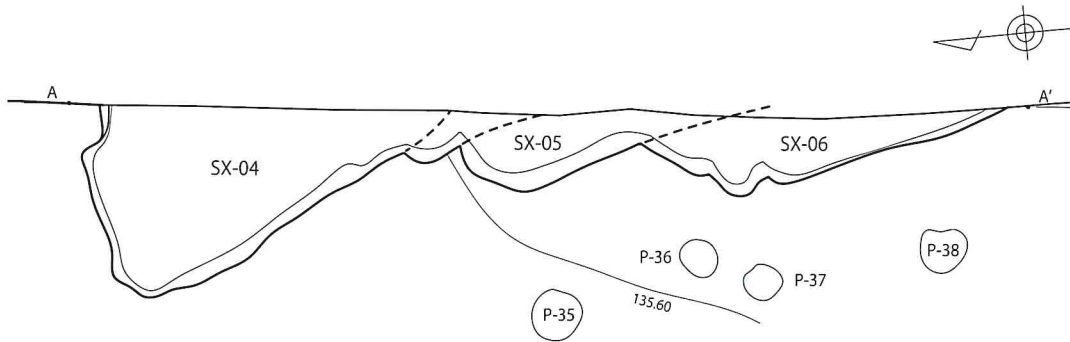


写真2 SX-03



SX-04・05・06 Asec

- |        |                                   |         |                                   |
|--------|-----------------------------------|---------|-----------------------------------|
| 1. 褐灰色 | しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。              | 7. 褐灰色  | しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。 |
| 2. 褐灰色 | しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。 | 8. 褐灰色  | しまり・粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。    |
| 3. 褐灰色 | しまり・粘性有。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。 | 9. 褐灰色  | しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。              |
| 4. 褐灰色 | しまり・粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。    | 10. 褐灰色 | しまり・粘性有。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。 |
| 5. 褐灰色 | しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。              | 11. 褐灰色 | しまり・粘性有。As-C 軽石少量、Hr-FA 粒微量含有。    |
| 6. 褐灰色 | しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。              |         |                                   |

第 28 図 SX-01 ~ 06



第2表 土坑 (SK) 一覧表

(重複: &lt;=より古、&gt;=より新 / 計測単位: cm)

番号	位置 挿図	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物	備考
			断面形状	長軸	短軸	深さ	未掲載遺物	
1	北西部 5・18	> SK-02	円形	143	129	42	2点/第38図49・50	単層で人為堆積の可能性が高い
			逆台形	方位	-		土師器片1、須恵器片4	
2	北西部 5・18	< SK-01	方形?	355	136	42	3点/第38図51・52・53	住居掘り方の可能性が高い
			不整形	方位	N-81°-E		土師器片3、須恵器片8	
3	北西部 5・19	なし	円形	87	80	23	1点/第38図54	覆土はAs-B含有黒褐色土主体
			逆台形	方位	-		土師器片1、須恵器片3	
4	南西部 6・19	なし	方形?	193	20	28	-	遺構のほとんどは調査区外西 覆土はAs-B含有黒褐色土主体
			逆台形	方位	N-2°-E		出土遺物なし	
5	南西部 6・19	> SD-12	長楕円形	190	64	13	1点/第38図55	覆土はAs-B含有黒褐色土主体
			逆台形	方位	N-0°-E		土師器片2、須恵器片3	
6	南西部 6・19	> SK-24・SD-12	長楕円形	196	64	21	-	覆土はAs-B含有黒褐色土主体
			逆台形	方位	N-7°-E		土師器片5	
7	南西部 6・19	なし	不整形	70	61	12	-	
			逆台形	方位	N-14°-W		出土遺物なし	
8	南西部 6・19	> SK-18	隅丸方形	92	88	12	-	
			逆台形	方位	N-42°-W		土師器片9	
9	南西部 6・19	> SK-18	楕円形	139	104	7	-	
			皿状	方位	N-58°-E		出土遺物なし	
10	南西部 6・19	SK-13との関係は不明	?	140	133	45	2点/第38図56・57	遺構の大半は調査区外南
			逆台形	方位	N-9°-W		土師器片4、須恵器片1	
11	南西部 6・19	SK-18との関係は不明	不整形	50	43	15	-	
			逆台形	方位	-		出土遺物なし	
12	南西部 6・19	なし	不整形	55	38	11	-	
			逆台形	方位	-		出土遺物なし	
13	南西部 6・19	SK-10との関係は不明	楕円形	51	44	12	1点/第39図58	
			逆台形	方位	N-48°-W		土師器片十数	
14	南西部 6・20	なし	楕円形	121	88	8	-	
			皿状	方位	N-16°-W		出土遺物なし	
15	南西部 6・20	SD-10との関係は不明	長楕円形	153	54	30	-	遺構の大半は調査区外南
			箱状	方位	N-8°-E		出土遺物なし	
16	南西部 6・20	< SD-09	楕円形	78	70	12	-	遺構の大半は調査区外南
			逆台形	方位	N-85°-E		出土遺物なし	
17	南西部 6・20	> SI-07	楕円形	59	53	33	-	底面に柱痕あり。P-12~17と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-80°-E		出土遺物なし	
18	南西部 6・19	< SK-08	?	153	128	30	1点/第38図59	遺構のほとんどは調査区外南
			逆凸形	方位	-		出なし	
19	南西部 6・20	なし	隅丸方形	67	63	41	-	
			箱状	方位	N-4°-W		出土遺物なし	
20	南東部 8・20	> P-64・92~94	隅丸方形	165	103	8	-	
			皿状	方位	N-8°-W		出土遺物なし	
21	南東部 8・20	< SD-16	方形?	62	50	26	-	遺構のほとんどは調査区外西
			逆台形	方位	-		出土遺物なし	
22	南東部 8・20	なし	長方形?	101	60	13	-	遺構の大半は調査区外西
			逆台形	方位	N-88°-E		出土遺物なし	
23	南東部 8・20	なし	?	122	40	37	-	遺構のほとんどは調査区外西
			逆台形	方位	-		出土遺物なし	
24	南東部 8・20	< SD-12 > SK-06	不整形	51	47	11	-	
			逆台形	方位	-		出土遺物なし	
25	南東部 8・20	なし	方形?	97	47	15	-	遺構の大半は試掘トレンチ
			逆台形	方位	-		出土遺物なし	
26	南東部 8・21	< P-100 > SK-27	不整系	240	225	38	12点/第39図60~71	
			逆台形	方位	-		土師器片数十、須恵器片数十	
27	南東部 8・21	< SK-26 > SK-28	不整系	113	99	30	-	
			逆台形	方位	N-63°-W		土師器片10、須恵器片5	
28	南東部 8・21	> SK-27	不整形	140	93	65	-	
			逆台形	方位	-		土師器片7、須恵器片数十	
29	南東部 8・21	なし	楕円形	99	55	46	-	北寄りに柱痕あり、P-20~23・59・61・100と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			箱形	方位	N-2°-E		土師器片2、須恵器片5	

番号	位置 挿図	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物	備考
			断面形状	長軸	短軸	深さ	未掲載遺物	
30	東部 8・21	< 畠	長方形?	82	73	13	—	畠より新しいことから近世以降と考えられる
			箱形	方位	N-11° -E		須惠器片 1	
31	東部 8・21	< 畠	円形	94	82	78	—	畠より新しいことから近世以降と考えられる
			逆台形	方位	—		土師器片 3	

第3表 ピット (P) 一覧表

(重複: <=より古、>=より新 / 計測単位: cm)

番号	位置 挿図	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物	備考
			断面形状	長軸	短軸	深さ	未掲載遺物	
1	北西部 5・22	なし	円形	78	76	17	1点/第40図72	
			逆台形	方位	—		なし	
2	北西部 5・22	なし	円形	26	26	17	—	
			箱形	方位	—		出土遺物なし	
3	北西部 5・22	なし	円形?	40	32	34	—	
			箱形	方位	—		出土遺物なし	
4	北西部 5・22	なし	瓢箪形	75	59	31	—	
			箱形	方位	N-82° -E		出土遺物なし	
5	北西部 5・22	なし	楕円形	40	29	11	—	
			箱形	方位	N-78° -W		出土遺物なし	
6	南西部 6・22	なし	円形	37	33	10	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
7	北西部 5・22	なし	不整形	68	42	9	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
8	南西部 6・22	なし	隅丸方形	45	37	29	1点/第40図73	P-9・10と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆凸形	方位	N-83° -E		土師器片 1	
9	南西部 6・22	なし	円形	42	40	20	—	P-8・10と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			箱形	方位	N-83° -E		出土遺物なし	
10	南西部 6・22	なし	隅丸方形	63	43	22	—	P-8・9と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-83° -E		出土遺物なし	
11	南西部 6・22	なし	円形	27	23	21	—	
			箱形	方位	—		出土遺物なし	
12	南西部 6・22	なし	円形	53	47	41	—	SK-17、P-13・15・16・17と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆凸形	方位	N-80° -E		出土遺物なし	
13	南西部 6・22	< P-14	円形	38	38	20	—	SK-17、P-12・15・16・17と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			箱形	方位	N-80° -E		出土遺物なし	
14	南西部 6・22	> P-13	楕円形	48	39	16	—	
			逆台形	方位	N-48° -W		土師器片 1	
15	南西部 6・22	なし	隅丸方形	41	39	28	—	SK-17、P-12・13・16・17と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆凸形	方位	N-80° -E		出土遺物なし	
16	南西部 6・22	なし	円形	39	36	20	—	SK-17、P-12・13・15・17と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			箱形	方位	N-80° -E		出土遺物なし	
17	南西部 6・22	なし	隅丸方形	58	46	29	—	SK-17、P-12・13・15・16と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			箱形	方位	N-80° -E		出土遺物なし	
18	南西部 6・22	なし	楕円形	45	13	33	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
19	南西部 6・22	SI-07との関 係は不明	楕円形	47	26	16	—	
			逆台形	方位	N-82° -W		出土遺物なし	
20	南東部 8・23	なし	円形	58	55	25	1点/第40図74	SK-29、P-21～23・59・61・100と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-2° -E		土師器片 10、須惠器片 5	
21	南東部 8・23	なし	楕円形	58	48	22	1点/第40図75	SK-29、P-20・22～23・59・61・100と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-2° -E		須惠器片 1	
22	南東部 8・23	なし	円形	59	58	35	—	SK-29、P-20・21・23・59・61・100と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-2° -E		出土遺物なし	
23	南東部 8・23	なし	楕円形	72	58	25	—	SK-29、P-20・22・59・61・100と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-2° -E		出土遺物なし	
24	南東部 8・23	なし	円形	32	31	15	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
25	南東部 8・23	なし	楕円形	108	51	19	2点/第40図76・77	
			逆台形	方位	N-79° -W		土師器片数十、須惠器片数十	

番号	位置 挿図	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物	備考
			断面形状	長軸	短軸	深さ	未掲載遺物	
26	南東部 8・23	なし	円形	47	42	18	—	
			逆台形	方位	—		土師器片 1	
27	南東部 8・23	なし	円形	52	43	24	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
28	南東部 8・23	なし	楕円形	37	30	24	1点/第40図78	柱穴の可能性あり
			筒形	方位	—		須恵器片数 2	
29	南東部 8・23	なし	楕円形	33	31	17	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
30	南東部 8・24	なし	楕円形	46	42	17	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
31	南東部 8・24	なし	楕円形	40	25	13	—	
			逆台形	方位	N-67° -W		出土遺物なし	
32	南東部 8・24	なし	円形	35	34	20	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
33	南東部 8・24	なし	楕円形	52	38	21	—	
			逆台形	方位	N-39° -E		出土遺物なし	
34	南東部 8・24	なし	楕円形	28	23	16	—	
			逆台形	方位	N-70° -E		出土遺物なし	
35	南東部 8・24	なし	楕円形	45	41	17	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
36	南東部 8・24	なし	円形	30	30	15	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
37	南東部 8・24	なし	円形	30	27	22	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
38	南東部 8・24	なし	円形	38	36	15	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
39	南東部 8・24	なし	楕円形	37	28	14	—	
			逆台形	方位	N-77° -E		出土遺物なし	
40	南東部 8・24	なし	楕円形	50	33	8	1点/第40図79	
			逆台形	方位	N-36° -E		土師器片数十、須恵器片数十	
41	南東部 8・24	なし	円形	36	34	17	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
42	南東部 8・24	なし	円形	31	31	14	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
43	南東部 8・24	なし	円形	68	52	20	—	
			逆台形	方位	N-84° -E		出土遺物なし	
44	南東部 8・24	なし	瓢箪形	97	50	12	—	
			逆台形	方位	N-33° -E		出土遺物なし	
45	南東部 8・24	なし	円形	33	30	14	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
46	南東部 8・24	なし	不整形	85	48	19	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
47	南東部 8・24	なし	方形	37	37	18	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
48	南東部 8・24	なし	円形	36	36	21	—	+ 1基 (28 × 27 × 11cm)
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
49	南西部 6・24	なし	円形	38	27	35	—	柱穴の可能性あり
			筒形	方位	—		土師器片 4	
50	南西部 6・24	なし	円形	22	21	12	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
51	南西部 6・25	なし	楕円形	17	11	10	—	
			逆台形	方位	N-30° -W		出土遺物なし	
52	南西部 6・25	なし	円形	22	20	10	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
53	南西部 6・25	なし	円形	31	30	9	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
54	南西部 6・25	なし	円形	25	24	31	—	柱穴の可能性あり
			筒形	方位	—		なし	
55	南西部 6・25	なし	円形	33	28	29	—	柱穴の可能性あり
			筒形	方位	—		出土遺物なし	



番号	位置 挿図	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物	備考
			断面形状	長軸	短軸	深さ	未掲載遺物	
56	南西部 6・25	なし	円形	32	30	24	—	柱穴の可能性あり
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
57	南西部 6・25	> SD-15	方形?	35	30	23	—	
			逆台形	方位	N-72° -W		出土遺物なし	
58	南西部 6・25	> SD-15	楕円形	43	32	18	—	
			逆台形	方位	N-82° -W		出土遺物なし	
59	南東部 8・23	なし	円形	47	42	25	—	SK-29、P-20-23・61・100 と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-2° -E		出土遺物なし	
60	南東部 8・23	> P-61	円形	41	35	27	—	
			箱形	方位	—		出土遺物なし	
61	南東部 8・23	< P-60	円形	65	60	25	—	SK-29、P-20-23・59・100 と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-2° -E		出土遺物なし	
62	南東部 8・25	なし	円形	45	42	25	—	付近から羽口片、碗形鉄滓出土 試掘トレンチ内
			箱形	方位	—		出土遺物なし	
63	南東部 8・25	なし	楕円形	55	35	8	—	
			?	方位	N-4° -W		出土遺物なし	
64	南東部 8・25	< SK-20	円形	31	28	16	1点/第40図80	
			逆台形	方位	—		なし	
65	南東部 8・25	なし	円形	34	34	22	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
66	南東部 8・23	なし	円形	28	25	10	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
67	南東部 8・25	なし	円形	22	20	10	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
68	南東部 8・25	なし	楕円形	46	38	10	—	
			逆台形	方位	—		須恵器片 1	
69	南東部 8・25	> P-70	不整形	59	47	21	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
70	南東部 8・25	< P-69	楕円形	46	36	19	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
71	南東部 8・25	なし	楕円形	62	40	34	—	
			不整形	方位	N-65° -E		土師器片 1、須恵器片 2	
72	南東部 8・23	なし	円形	30	30	15	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
73	南東部 8・25	なし	円形	18	18	11	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
74	南東部 8・25	なし	円形	46	43	14	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
75	南東部 8・25	なし	円形	30	27	13	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
76	東部 9・26	なし	円形	30	28	43	—	P-78・79 と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			筒形	方位	—		須恵器片 1	
77	東部 9・26	なし	円形	40	35	33	—	
			不整形	方位	—		出土遺物なし	
78	東部 9・26	なし	楕円形	43	32	47	—	P-76・79 と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			筒形	方位	N-13° -W		出土遺物なし	
79	東部 9・26	なし	円形	31	30	46	—	P-76・78 と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
80	東部 9・26	なし	楕円形	54	32	56	—	土層断面に柱痕
			筒形	方位	N-76° -E		出土遺物なし	
81	東部 9・26	> 畠	円形	29	25	32	—	畠より新しいことから近世以降と考えられる
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
82	東部 9・26	なし	円形	45	39	43	—	
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
83	東部 9・26	なし	円形	28	27	9	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
84	東部 9・26	なし	円形	44	42	23	—	
			逆台形	方位	—		土師器片 1	
85	東部 9・26	なし	楕円形	47	38	28	—	
			筒形	方位	N-12° -W		出土遺物なし	

番号	位置 挿図	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物	備考
			断面形状	長軸	短軸	深さ	未掲載遺物	
86	東部 9・26	なし	円形	36	34	34	—	
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
87	東部 9・26	> 畠	円形	30	30	36	—	畠より新しいことから近世以降と考えられる
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
88	東部 9・26	> P-90	円形	37	31	46	—	
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
89	東部 9・26	> SD-27	円形	36	31	13	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
90	東部 9・26	< P-88	円形	29	29	20	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
91	東部 9・27	SI-08 との関 係は不明	円形	40	40	42	—	カマド煙道と接し、焼土粒・炭化粒含有
			筒形	方位	—		須恵器片 1	
92	南東部 8・27	< SK-20	円形	26	23	14	—	
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
93	南東部 8・27	< SK-20	不整形円形	33	31	21	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
94	南東部 8・27	< SK-20	円形	32	26	22	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
95	南東部 8・27	なし	?	37	20	36	—	大半は調査区外東
			筒形	方位	—		出土遺物なし	
96	南東部 8・27	> SD-18	?	35	17	34	—	
			箱形	方位	—		出土遺物なし	
97	北東部 7・27	> SI-09	円形	50	45	13	—	
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
98	北東部 7・27	なし	円形?	43	30	19	—	
			逆台形?	方位	—		出土遺物なし	
99	北東部 7・27	SI-09 との関 係は不明	円形	29	25	12	—	カマド煙道と接している
			逆台形	方位	—		出土遺物なし	
100	南東部 8・23	< SK-26	円形	45	45	14	—	SK-29、P-20-23・59・61 と掘立柱建物を構成する可能性が高い
			逆台形	方位	N-2° -E		須恵器片 1	

第4表 性格不明遺構 (SX) 一覧表

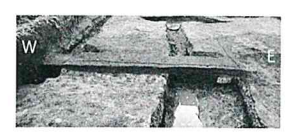
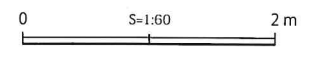
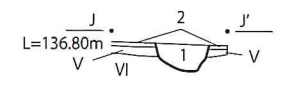
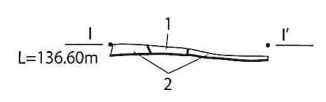
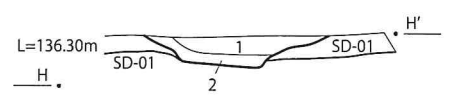
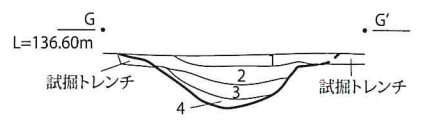
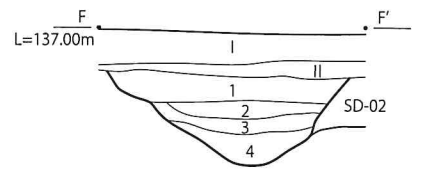
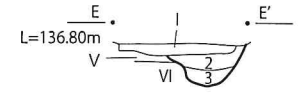
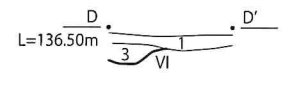
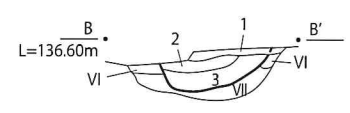
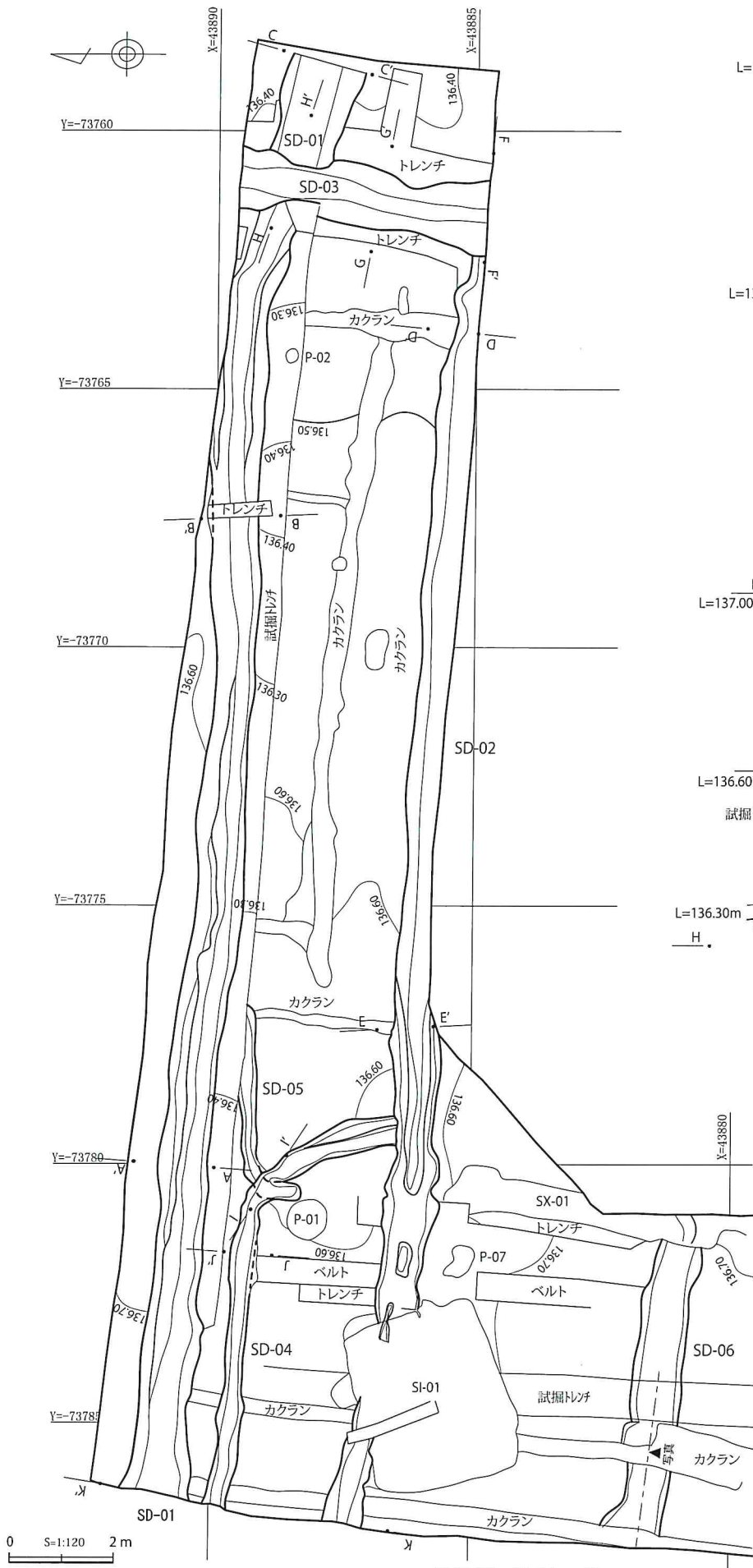
(重複: <=より古、>=より新 / 計測単位: cm)

番号	位置 挿図	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物	備考
			断面形状	長軸	短軸	深さ	未掲載遺物	
1	北西部 5・28	SD-06 との関 係は不明。	長方形	490	63	—	—	I層直下から掘り込まれる
			箱形	方位	N-10° -E		なし	
2	北西部 5・28	なし	長方形	369	77	—	—	
			箱形	方位	N-13° -E		なし	
3	北西部 5・28	なし	不整形	261	194	—	—	
			不整形	方位	N-13° -E		なし	
4	南西部 8・28	> SX-05	不整形	278	163	33	—	底面は平坦
			箱形	方位	N-28° -W		土師器片十数、須恵器片 4	
5	南西部 8・28	< SX-04 > SX-06	不整形	202	78	25	—	底面は平坦
			箱形	方位	N-14° -W		なし	
6	南西部 8・28	< SX-05	不整形	275	66	28	—	底面は平坦
			箱形	方位	N-14° -W		なし	

### 第3節 溝 (SD)

SD-01 (遺構: 第4・5・29・30 図、図版 15 / 遺物: 第40 図、第5表、図版 22)

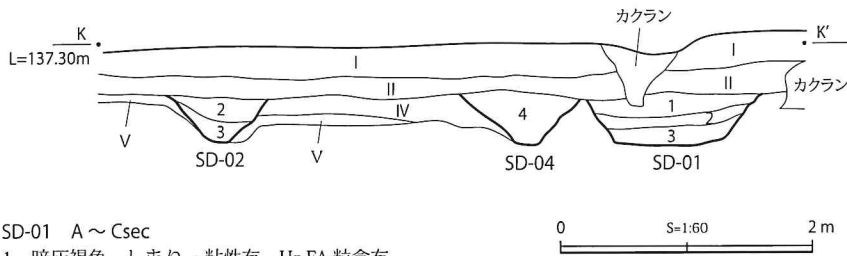
位置: 調査区北西部の北辺に検出された。 重複: SD-03 に切られる。 形態・確認規模: 調査区北辺に沿って西走。全長(東西) 27 × 上幅 0.8 ~ 1.4 m、深さ 30 ~ 41 cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。 主軸方向: N-95° -E。 覆土: Hr-FA ブロック・粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。



SD-06 土層断面

第 29 図 SD-01 ~ 06





SD-01・02・04 Ksec

1. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・軽石粒少量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・軽石粒微量含有。
3. 黒褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量含有。
4. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 軽石粒微量含有。

SD-01 A～Csec

1. 暗灰褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒含有。
2. 暗灰褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・軽石粒含有。
3. 暗灰褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・軽石粒少量含有。

SD-02 D・Esec

1. 黒褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・軽石粒少量含有。
2. 暗褐色 しまり有、粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量、軽石粒少量含有。

SD-03 Fsec

1. 黒褐色 しまり有、粘性弱。Hr-FA 粒・軽石粒少量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・軽石粒僅か含有。As-C 混在黒色土微量含有。
4. 暗褐色 しまり有、粘性強。Hr-FA 軽石粒微量含有。

SD-03 Gsec

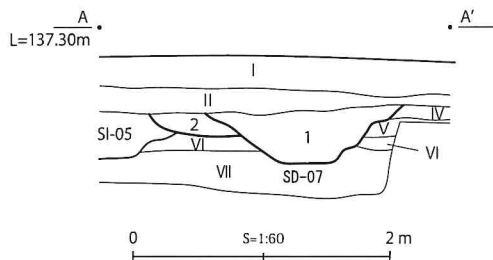
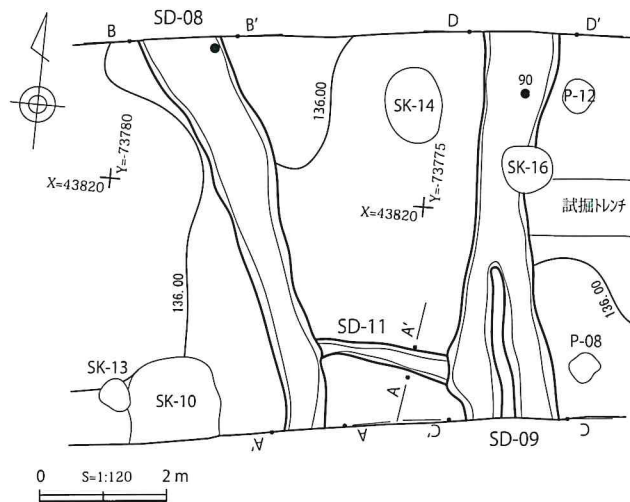
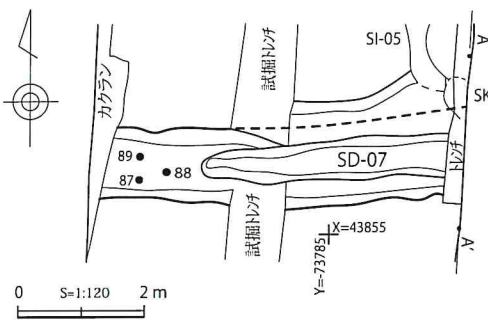
1. 黒褐色 しまり有、粘性弱。Hr-FA 粒少量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒含有。As-C 混在黒色土少量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒・軽石粒微量含有。
4. 暗褐色 しまり有、粘性強。Hr-FA 軽石粒微量含有。

SD-03 Hsec

1. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 軽石粒含有。
2. 黒褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒少量含有。

SD-04・05 I・Jsec

1. 暗灰褐色 しまり普通、粘性弱。Hr-FA 粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり有、粘性弱。As-C 混在黒色土少量、Hr-FA 粒微量含有。



SD-07 Asec

1. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。

SD-08 A・Bsec

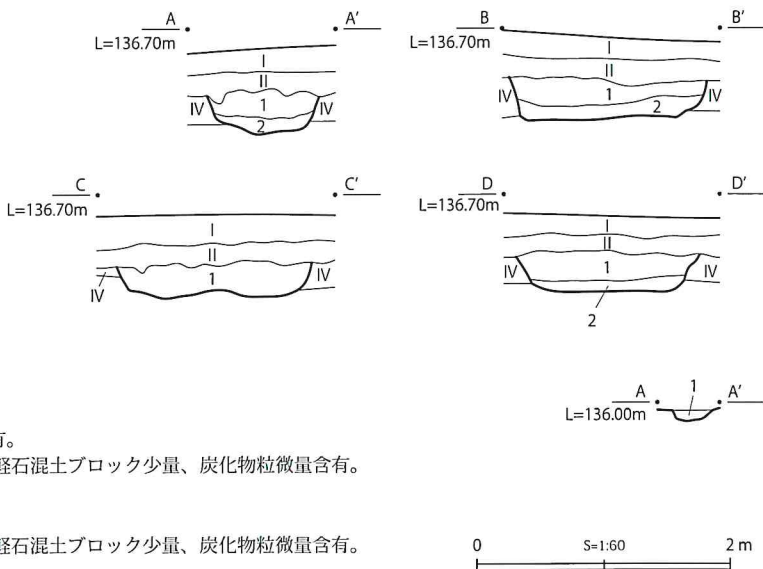
1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・鉄分少量含有。
2. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒やや多量、黒色粘質土ブロック少量、炭化物粒微量含有。

SD-09 C・Dasec

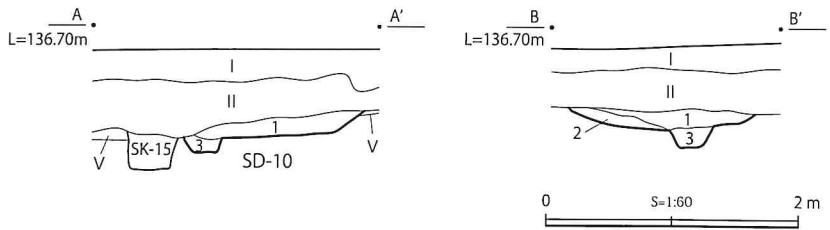
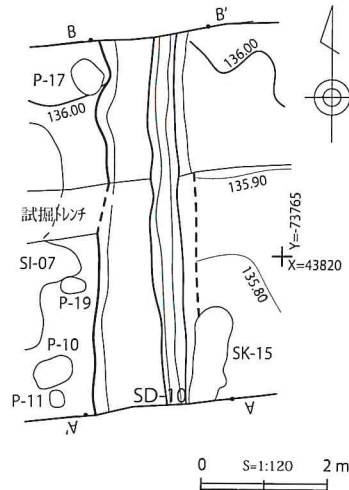
1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒・鉄分少量含有。
2. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒・As-C 軽石混土ブロック少量、炭化物粒微量含有。

SD-11 Asec

1. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒・As-C 軽石混土ブロック少量、炭化物粒微量含有。

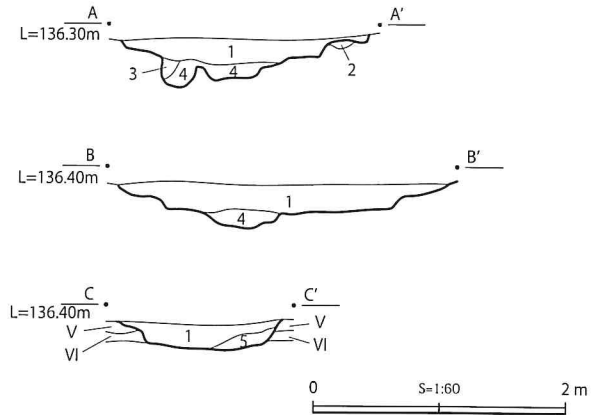
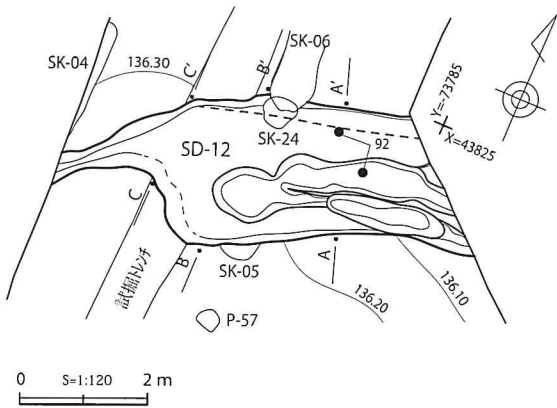


第 30 図 SD-01 ~ 05・07 ~ 09・11



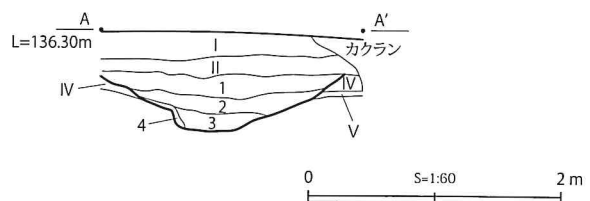
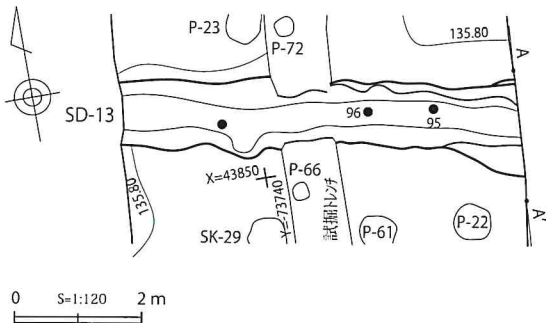
SD-10 A・Bsec

1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA 粒・砂質粒少量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロックやや多量、砂質粒少量、炭化物粒微量含有。
3. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。砂質粒やや多量、炭化物粒微量含有。



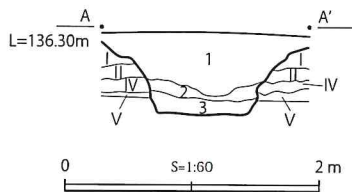
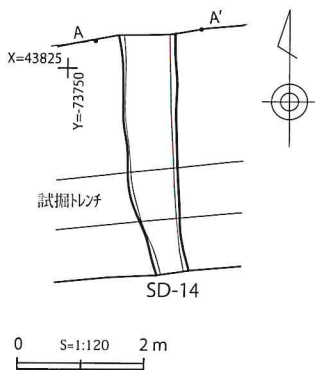
SD-12 A ~ Csec

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒少量、炭化物粒微量含有。
2. にぶい黄褐色 しまりやや有、粘性弱。Hr-FA ブロック・粒多量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒やや多量、炭化物粒微量含有。
4. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒やや多量、黒色粘質土ブロック少量含有。
5. 黒色土 粘性・しまり弱。As-C 軽石混土ブロックやや多量、Hr-FA 粒微量含有。



SD-13 Asec

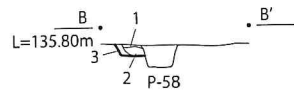
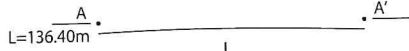
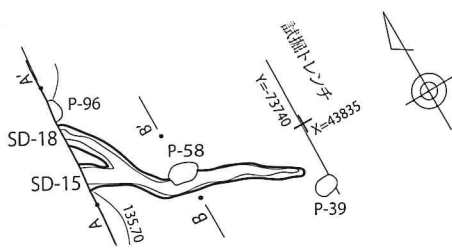
1. 褐灰色 しまり・粘性強。As-C 軽石・Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
3. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
4. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。



SD-14 Asec

1. にぶい褐色 しまり・粘性強。表土。
2. にぶい褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

第 31 図 SD-10・12 ~ 14



**SD-15・18 Asec**

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
2. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
4. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
5. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

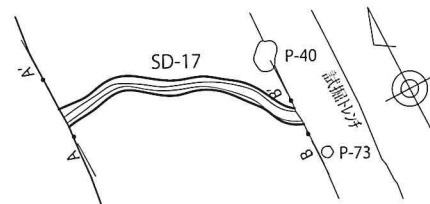
**SD-15 Bsec**

1. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。



**SD-16 Asec**

1. 褐灰色 しまり有、粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。

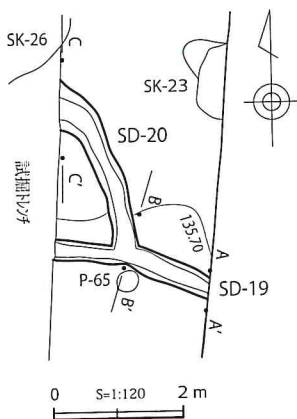


**SD-17 Asec**

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
2. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA 小ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。

**SD-17 Bsec**

1. 灰褐色 しまり・粘性強。FA ブロック少量、FA 粒微量含有。



**SD-19 Asec**

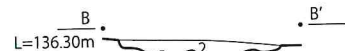
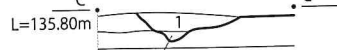
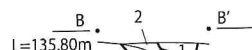
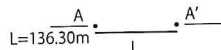
1. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒微量含有。
2. 褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 小ブロック多量含有。

**SD-19・20 Bsec**

1. 褐灰色 しまり・粘性強。Hr-FA 粒微量含有。
2. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック多量、Hr-FA 粒微量含有。

**SD-20、SK-26 Csec**

1. 灰褐色 しまり・粘性強。Hr-FA ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 灰褐色 しまり・粘性有。As-C 軽石?少量、Hr-FA 粒微量含有。

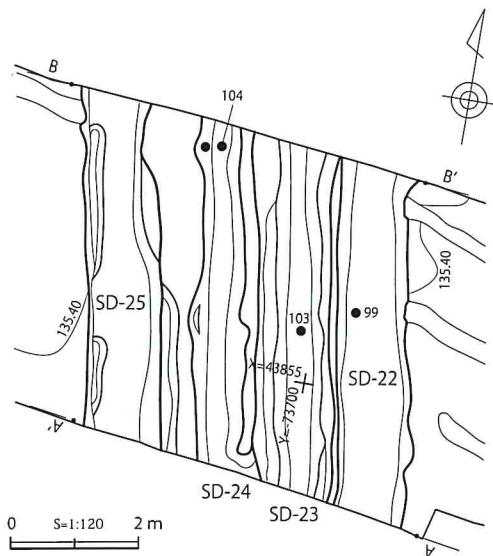


**SD-21 A~Csec**

1. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA ブロック・粒やや多量、炭化物粒微量含有。
3. 黒褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒微量含有。

第 32 図 SD-15 ~ 21





SD-22 A·Bsec

1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。白色粒少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒・白色粒微量含有。
3. にぶい黄褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA ブロック多量含有。
4. 暗褐色 しまり・粘性有。Hr-FA 粒少量、黒色粘質土ブロック微量含有。
5. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒少量含有。
6. 黒褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒・As-C 軽石混土ブロック少量含有。

SD-23 A·Bsec

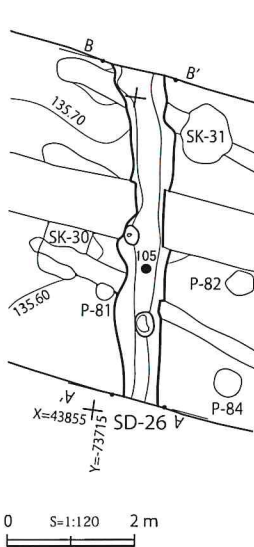
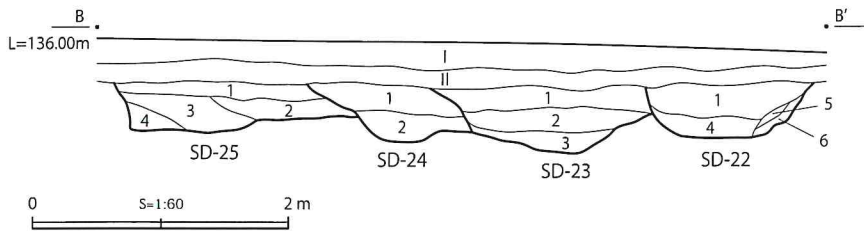
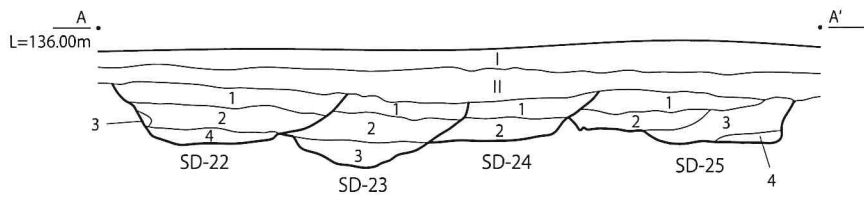
1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。白色粒少量、Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。白色粒少量、Hr-FA 粒微量含有。
3. 暗褐色 しまり・粘性有。白色粒少量、Hr-FA 粒微量含有。

SD-24 A·Bsec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。白色粒少量、Hr-FA 粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。白色粒少量、Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。

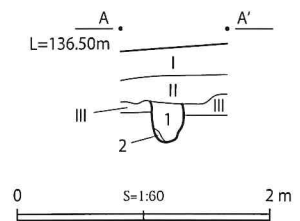
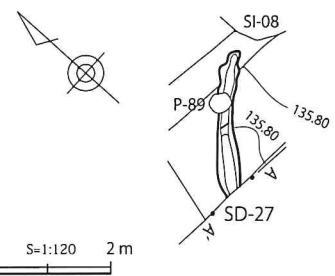
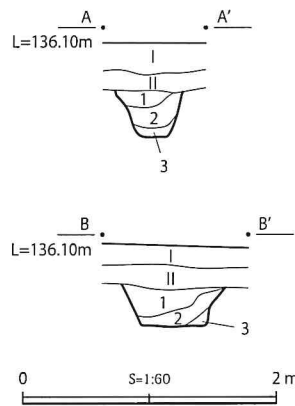
SD-25 A·Bsec

1. 暗褐色 しまりやや有、粘性弱。白色粒少量、Hr-FA 粒・炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA 粒やや多量、白色粒微量含有。
3. 黒褐色 しまり・粘性弱。As-C 軽石混土ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。
4. 黒褐色 しまり・粘性やや有。As-C 軽石混土ブロック・黒色粘質土ブロック少量、Hr-FA 粒微量含有。



SD-26 A·Bsec

1. 黒褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒・白色粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒少量、白色粒微量含有。
3. 黒褐色 しまり弱、粘性やや有。Hr-FA ブロック少量含有。



SD-27 Asec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量、炭化物粒微量含有。
2. 暗褐色 しまり・粘性やや有。Hr-FA 粒・黒色粘質土ブロック少量含有。

第 33 図 SD-22 ~ 27

遺物:出土遺物は少なく、いずれも覆土中からの出土。掲載遺物3点、未掲載遺物は須恵器片3点。備考:SD-02と平行し、SD-03と直交する。

SD-02 (遺構:第4・5・29・30図、図版15/遺物:第40図、第5表、図版22)

位置:調査区北西部の北辺に検出された。重複:SI-01を切り、SD-03に切られる。SD-04との関係は不明。形態・確認規模:調査区北辺に沿って西走。全長(東西)24×上幅0.6~0.8m、深さ33~37cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向:N-95°-E。覆土:Hr-FAブロック・粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。SD-01覆土に類似。遺物:出土遺物は少なく、いずれも覆土中からの出土。掲載遺物2点、未掲載遺物は土師器片3点、須恵器片3点。備考:SD-01と平行し、SD-03と直交する。

SD-03 (遺構:第4・5・29・30図、図版15)

位置:調査区北西部の東端に検出された。重複:SI-01・02を切る。形態・確認規模:調査区北西部東端を横断するように南走。全長4.8×上幅1.0~1.9m、深さ43~75cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向:N-171°-W。覆土:Hr-FA粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物:出土遺物は少なく、いずれも覆土中からの出土。掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器片1点。備考:SD-01・02と直交する。

SD-04 (遺構:第4・5・29・30図、図版15/遺物:第40図、第5表、図版22)

位置:調査区北西部の北西に検出された。重複:SD-05に切られる。SD-02との関係は不明。形態・確認規模:SD-01の南を並走して6m程の地点で大きく南変する。全長9.2×上幅0.4~0.9m、深さ9~40cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向:N-95~165°-E。覆土:Hr-FA粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物:出土遺物は極少なく掲載遺物1点のみ。備考:SD-02に接して途切れていることから同時存在した可能性が考えられる。

SD-05 (遺構:第4・5・29・30図、図版15)

位置:調査区北西部の北西に検出された。重複:SD-04を切る。SD-01との関係は不明。形態・確認規模:SD-01の南を並走し、東端部が削平され不明瞭であるが、両端部が鉤型に屈曲している。全長4.4m×上幅30cm、深さ8cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向:N-86°-E。覆土:Hr-FA粒含有暗灰褐色土を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。遺物:出土遺物なし。

SD-06 (遺構:第4・5・29図、図版15)

位置:調査区北西部の北西に検出された。重複:SI-01との関係は不明。形態・確認規模:SD-01・02の南を並走し、両端部が削平され不明瞭であるが、調査区外へ延びているものと思われる。全長5.5×上幅1.0cm、深さ8cm程を測る。断面形状は皿を成す。主軸方向:N-83°-W。覆土:II層類似土の単層。自然か人為堆積かは判断し難い。遺物:出土遺物なし。

SD-07 (遺構:第4・5・30図、図版15/遺物:第40図、第5表、図版22)

位置:調査区北西部の南端に検出された。重複:SI-05、土坑を切る。形態・確認規模:調査区南端

を横断するように東走。全長 5.5 × 上幅 1.1 ~ 1.5 m、深さ 46 cm 程を測る。断面形状は逆台形を成す。  
主軸方向: N-89° -E。 覆土: Hr-FA 粒微量含有暗褐色土を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。

遺物: 出土遺物は少なく、いずれも底面付近から出土。掲載遺物 3 点、未掲載遺物は土師器片 5 点、須恵器片 6 点。いずれも底面付近から出土。備考: 調査区南東部の SD-13 と接続する可能性も考えられる。

SD-08 (遺構: 第 4・6・30 図、図版 16)

位置: 調査区南西部の南側中央に検出された。重複: SD-11 との関係は不明。形態・確認規模: 調査区南を横断するように南走。全長 6.6 × 上幅 0.9 ~ 1.5 m、深さ 30 ~ 35 cm 程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向: N-116° -E。覆土: Hr-FA 粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物: いずれも底面付近から出土。掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器片十数点、須恵器片 2 点。備考: SD-12 に接続する可能性も考えられる。

SD-09 (遺構: 第 4・6・30 図、図版 16 / 遺物: 第 41 図、第 5 表、図版 22)

位置: 調査区南西部の南側中央に検出された。重複: SK-16 を切る。SD-11 との関係は不明。形態・確認規模: 調査区南を横断するように南走し、南側は二又に分かれている。全長 6.1 × 上幅 1.0 ~ 1.5 m、深さ 28 ~ 30 cm 程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向: N-177° -E。覆土: Hr-FA 粒、炭化粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物: いずれも底面付近から出土。掲載遺物 2 点、未掲載遺物は土師器片十数点。備考: SD-10 と平行する。

SD-10 (遺構: 第 4・6・31 図、図版 16)

位置: 調査区南西部の東端に検出された。重複: SK-15 との関係は不明。形態・確認規模: 調査区東端を横断するように南走。全長 6.0 × 上幅 1.4 m、深さ 29 ~ 34 cm 程を測る。断面形状は中央部が逆台形に凹む漏斗状を成す。主軸方向: N-177° -E。覆土: Hr-FA 粒、砂粒、炭化粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物: 出土遺物は少なく、いずれも覆土中からの出土。掲載遺物なし。未掲載遺物は土師器片 3 点、須恵器片 3 点。備考: SD-09 と平行する。

SD-11 (遺構: 第 4・6・30 図、図版 16)

位置: 調査区南西部の南側中央に検出された。重複: SD-11 との関係は不明。形態・確認規模: SD-08 と SD-09 を繋ぐように東走。全長 2.1 × 上幅 0.3 m、深さ 8 cm 程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向: N-96° -E。覆土: Hr-FA 粒、炭化粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物: 出土遺物なし。

SD-12 (遺構: 第 4・6・31 図、図版 16 / 遺物: 第 41 図、第 5 表、図版 22)

位置: 調査区南西部の南西に検出された。重複: SK-5・6・24 に切られる。形態・確認規模: 調査区南西を横断するように東走し、東側は複数の溝が重なり合うように複雑な形状を成す。全長 6.5 × 上幅 0.3 ~ 2.1 m、深さ 25 ~ 42 cm 程を測る。断面形状は浅い逆台形を成し、東側南寄りに土坑・溝状の掘り込みが認められる。主軸方向: N-50 ~ 71° -E。覆土: Hr-FA ブロック・粒、炭化粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物: いずれも覆土中からの出土。掲載遺物 3 点、未掲載遺物は土師器片十数点、須恵器片十数点。備考: 複雑な形状は別遺構が重複している状況とも考えられる。



SD-13 (遺構：第4・8・31図、図版16／遺物：第41図、第5表、図版22)

位置：調査区南東部の北端に検出された。重複：なし。形態・確認規模：調査区北端を横断するように東走。全長6.3×上幅1.0～1.9m、深さ45cm程を測る。断面形状は逆台形を成し、中央部がやや凹む。主軸方向：N-101°-E。覆土：Hr-FA粒含有灰褐色土を主体とする自然堆積と判断される。

遺物：いずれも底面付近から出土。掲載遺物4点、未掲載遺物は土師器片十数点、須恵器片十数点。備考：調査区南東部のSD-07と接続する可能性も考えられる。

SD-14 (遺構：第4・8・31図)

位置：調査区南東部の西端に検出された。重複：なし。形態・確認規模：調査区西端を横断するように南走するが、南端は立ち上がっている。全長3.8×上幅0.5～1.6m、深さ57cm程を測る。断面形状は逆台形を成し、I層から掘り込まれている。主軸方向：N-6°-W。覆土：Hr-FAブロック・粒、含有灰褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物：出土遺物なし。備考：攪乱と判断される。

SD-15・18 (遺構：第4・8・32図、図版16)

位置：調査区南東部の中央に検出された。重複：P-58に切られる。双方の関係は不明。形態・確認規模：調査区西端から0.8m程で合流し、中央部で浅くなり途切れる。全長3.6×上幅0.2～0.6m、深さ25cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向：N-150～120°-E。覆土：Hr-FA粒含有褐灰色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物：出土遺物なし。

SD-16 (遺構：第4・8・32図、図版16)

位置：調査区南東部の南寄りに検出された。重複：SK-21を切る。形態・確認規模：調査区南寄りを横断するように東西に弓状に走る。全長5.9×上幅0.5～0.7m、深さ22～34cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向：N-97～83°-E。覆土：Hr-FA粒含有褐灰色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物：出土遺物なし。

SD-17 (遺構：第4・8・32図、図版16)

位置：調査区南東部の南寄りに検出された。重複：なし。形態・確認規模：調査区西端から中央にかけて東西に弓状に走る。全長4.0×上幅0.3～0.6m、深さ3～20cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向：N-82～139°-E。覆土：Hr-FA粒含有褐灰色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物：出土遺物なし。

SD-19 (遺構：第4・8・32図、図版17)

位置：調査区南東部の北寄りに検出された。重複：SD-20を切る。形態・確認規模：調査区中央から東端にかけて東西に走る。全長2.3×上幅0.3～0.8m、深さ13～22cm程を測る。断面形状は逆台形を成す。主軸方向：N-98～112°-E。覆土：Hr-FA粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。遺物：出土遺物なし。

SD-20 (遺構：第4・8・32図、図版17／遺物：第42図、第5表、図版22)

位置：調査区南東部の北寄りに検出された。重複：SD-19に切られる。形態・確認規模：調査区中

央から SD-19 にかけて南北に走る。全長 2.7 × 上幅 0.3 ~ 0.6 m、深さ 123 cm 程を測る。断面形状は逆台形を成す。 主軸方向 : N-18° -W。 覆土 : Hr-FA 粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。 遺物 : 出土遺物は極少なく掲載遺物 2 点のみ。

SD-21 (遺構 : 第 4・6・32 図、図版 17)

位置 : 調査区南西部の南端西寄りに検出された。 重複 : なし。 形態・確認規模 : SK-08 ~ 11・13・18 の西北を囲うように鉤型に走り、南端は調査区外へ、西端は浅くなり途切れている。全長 7.6 × 上幅 0.5 ~ 1.1 m、深さ 15 ~ 33 cm 程を測る。断面形状は浅い逆台形を成し、底面に凸凹が認められる。 主軸方向 : N-6° -W。 覆土 : Hr-FA ブロック・粒、含有灰褐色土を主体とする自然堆積と判断される。 遺物 : 出土遺物は少なく、いずれも覆土中からの出土。掲載遺物なし。未掲載遺物は土師器片数点。 備考 : 東側が削平され不明であるが、区画溝と考えられる。

SD-22 ~ 25 (遺構 : 第 4・9・33 図、図版 17 / 遺物 : 第 42 図、第 5 表、図版 22)

位置 : 調査区東部の東寄りに検出された。 重複 : 畠を切る。 形態・確認規模 : 調査区東寄りを横断するように隣接し合って平行に南走。SD-22 (東) から SD-25 (西) へ順に造り替えられている。全長はいずれも 5.9 m、上幅は最も新しい SD-22 で 1.3 ~ 1.8 m を測る。断面形状はいずれも逆台形を成し、底面の標高差は南端部で最も古い SD-25 を基準にすると SD-24 が -9 cm、SD-23 が -18 cm、SD-22 が -6 cm を測る。 主軸方向 : N-170° -E。 覆土 : いずれも Hr-FA 粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断され、大きな差は認められない。 遺物 : 出土遺物は少なく、いずれも覆土中からの出土。掲載遺物 6 点、未掲載遺物は土師器片 7 点、須恵器片 3 点。 備考 : 畠より新しいことから近世以降と考えられる。

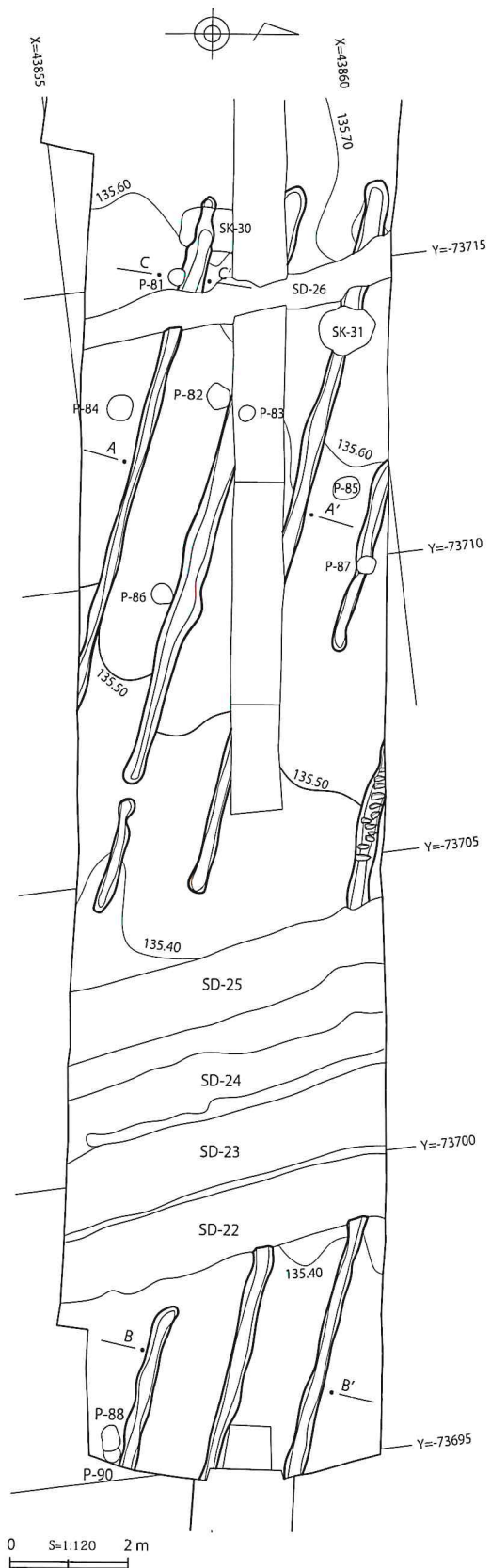
SD-26 (遺構 : 第 4・9・33 図、図版 17 / 遺物 : 第 42 図、第 5 表、図版 22)

位置 : 調査区南東部の中央に検出された。 重複 : 畠との関係は不明。 形態・確認規模 : 調査区中央を横断するように南走。全長 5.4 × 上幅 0.5 ~ 0.7 m、深さ 22 ~ 34 cm 程を測る。断面形状は逆台形を成す。 主軸方向 : N-174° -E。 覆土 : Hr-FA 粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。 遺物 : いずれも覆土中からの出土。掲載遺物 1 点、未掲載遺物は土師器片十数点、須恵器片 4 点。 備考 : SD-22 ~ 25 とほぼ平行で覆土も類似する。

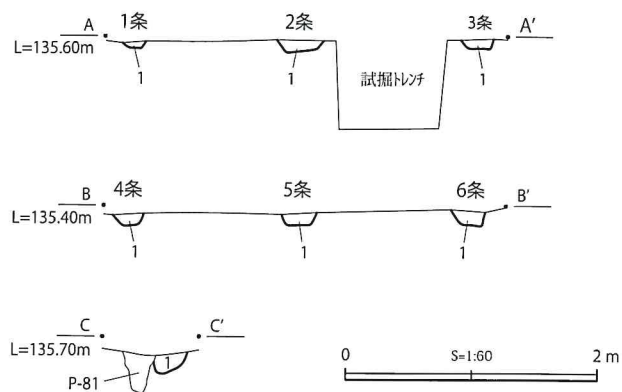
SD-27 (遺構 : 第 4・9・33 図、図版 17)

位置 : 調査区東部の西端に検出された。 重複 : P-89 に切られる。 形態・確認規模 : SI-08 の南西から調査区南西角に向かって南走。全長 1.2 × 上幅 0.3 m、深さ 32 cm 程を測る。断面形状は逆台形を成すが、南半分は一段深くなっている。 主軸方向 : N-82 ~ 139° -E。 覆土 : Hr-FA 粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と判断される。 遺物 : 出土遺物は少なく、いずれも覆土中からの出土。掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器片 5 点、須恵器片 4 点。

いくつかの溝からは奈良・平安時代、中世の遺物が出土しているが、出土遺物は全て流れ込みと考えられること、覆土堆積状況にも大差がないことから時期判定は難しい。



第34図 畠



1 畠 A-Csec

1. 暗褐色 しまり・粘性弱。Hr-FA 粒少量含有。

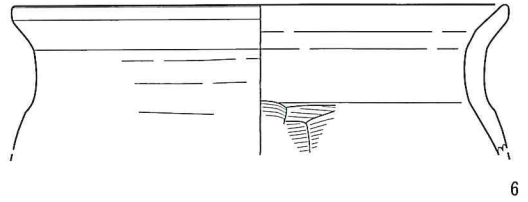
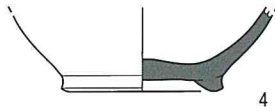
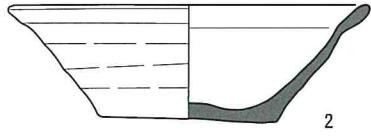
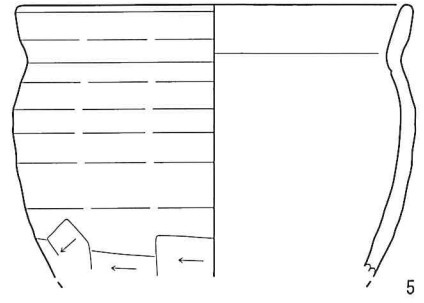
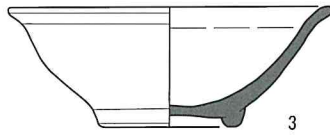
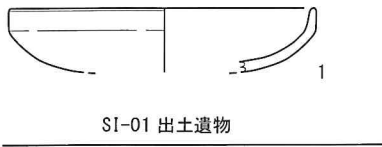
#### 第4節 畠 (遺構：第4・9・34図、図版)

**位置：**調査区東部の東半分部に検出された。**重複：**SK-30・31を切り、P-81・87、SD-22～25に切られる。SD-26との関係は不明。**形態・確認規模：**調査区北東から南西にかけて調査区中央部に5本、東端部に3本の作(溝)が平行に並び、大きく2ヶ所に分かれる。中央部は全長13.0×幅5.5m、東端部は全長5.0×幅3.0mを測る。作(溝)の規模は上幅20～38×深さ6～17cm程で、断面形状は逆台形を成す。**主軸方向：**N-69°-W。**覆土：**Hr-FA粒含有暗褐色土を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。**遺物：**いずれも覆土中からの出土。掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器片15点、須恵器片4点、陶磁器(近世)3点。**備考：**出土遺物から近世以降と考えられる。

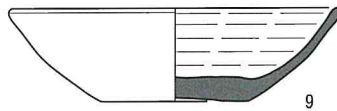
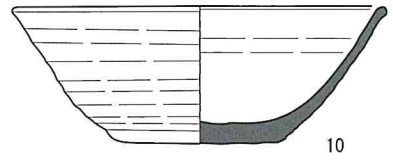
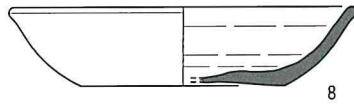
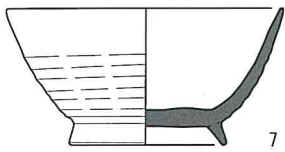
#### 第5節 遺構外出土遺物 (遺物：第42～44図、第5表、図版23)

遺構外出土遺物は総体的に少なく、掲載遺物29点、未掲載遺物は北西部で土師器片1点、須恵器片1点、陶器片2点が、南西部で土師器片数十点、須恵器片数十点、灰釉陶器小片1点、陶器片1点が、北東部で土師器片6点、須恵器片7点が、南東部で土師器片7点、須恵器片十数点、陶器片1点が出土のみである。出土遺物の帰属時期はやはり住居と同時期の9世紀後半か

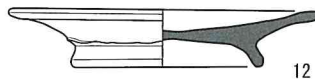
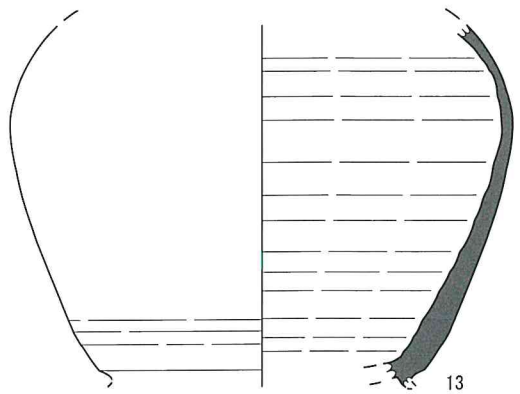
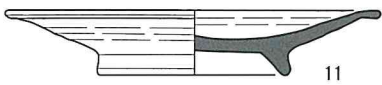




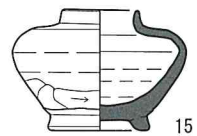
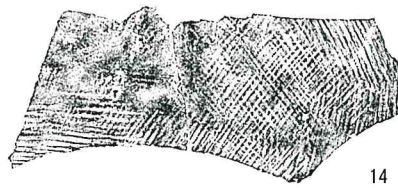
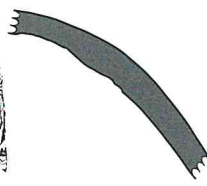
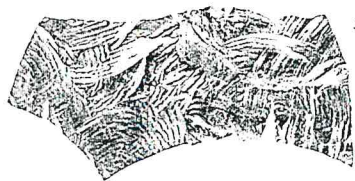
SI-02 出土遺物



SI-05 出土遺物



0 S=1:3 10 cm  
14 以外

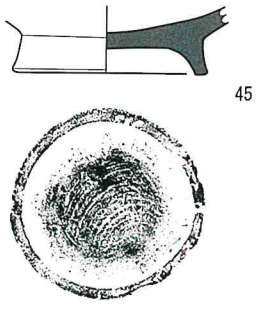


0 S=1:4 10 cm

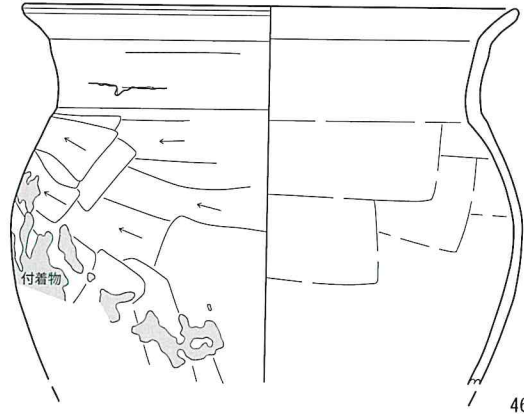
SI-06 出土遺物

14 S=1/4

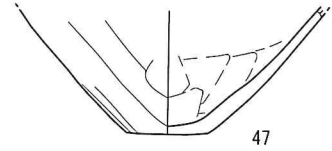
第 35 圖 SI-01·02·05·06 出土遺物



45

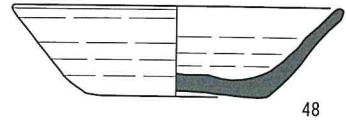


46



47

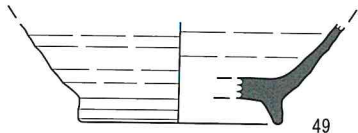
SI-09 出土遺物



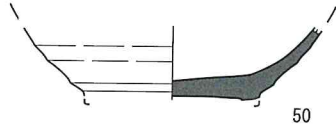
48



SI-10 出土遺物



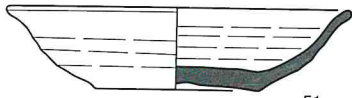
49



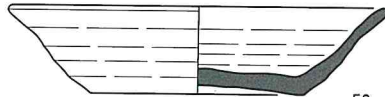
50



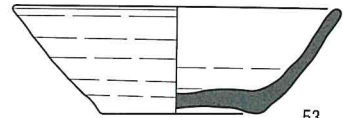
SK-01 出土遺物



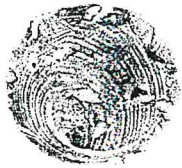
51



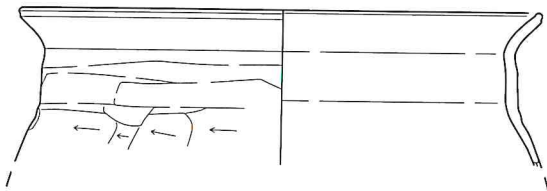
52



53



SK-02 出土遺物



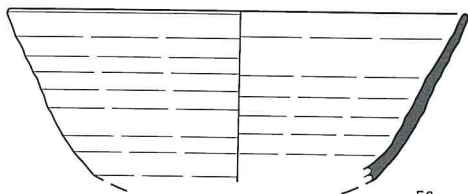
54

SK-03 出土遺物

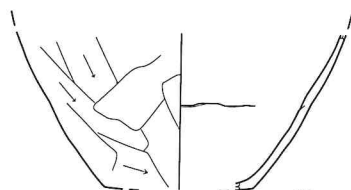


55

SK-05 出土遺物

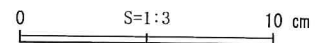


56

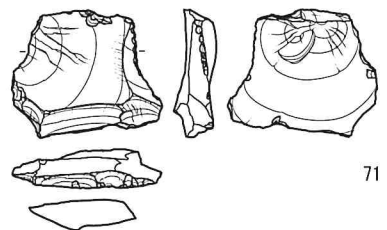
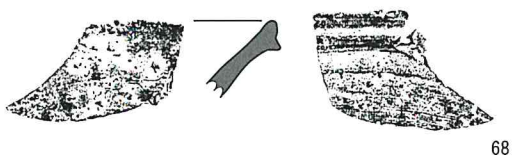
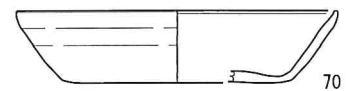
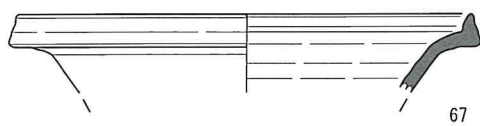
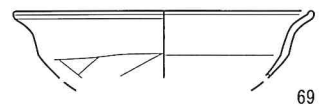
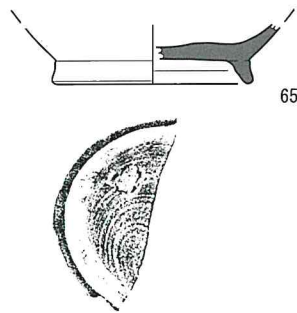
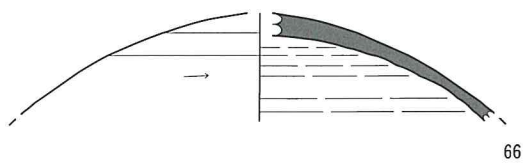
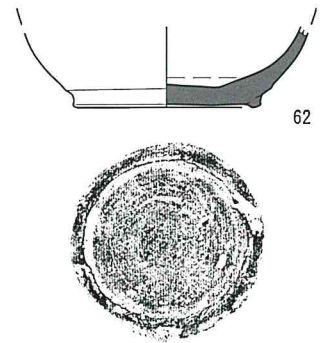
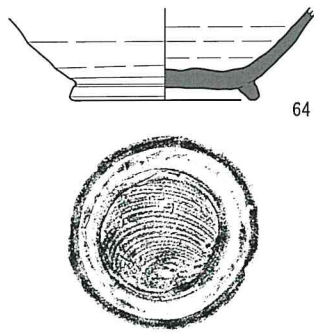
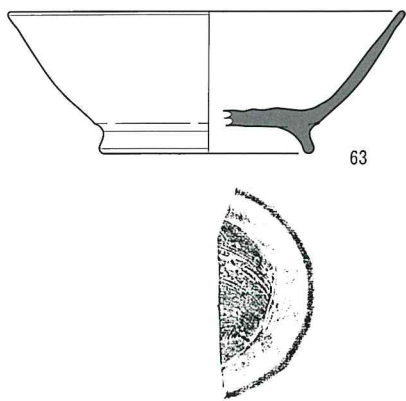
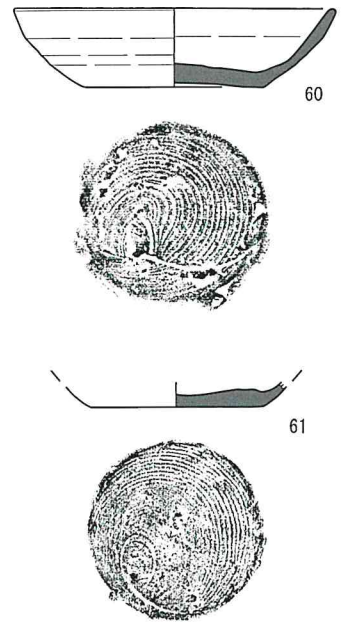
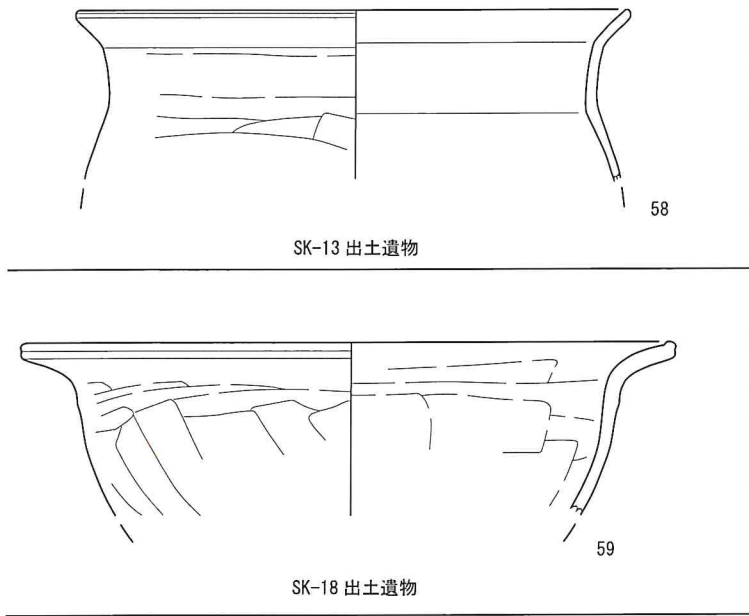


57

SK-10 出土遺物



第 38 図 SI-09・10、SK-01・02・03・05・10 出土遺物



0 S=1:3 10 cm

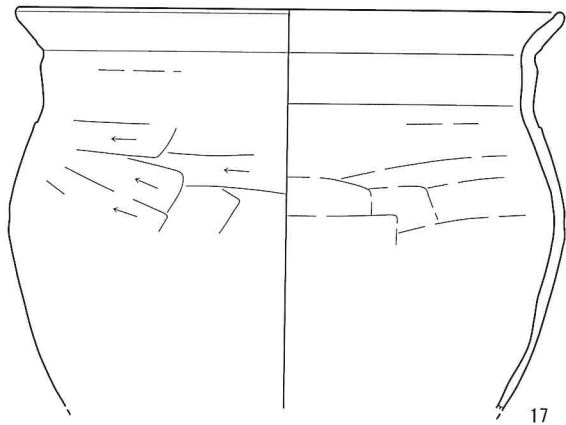
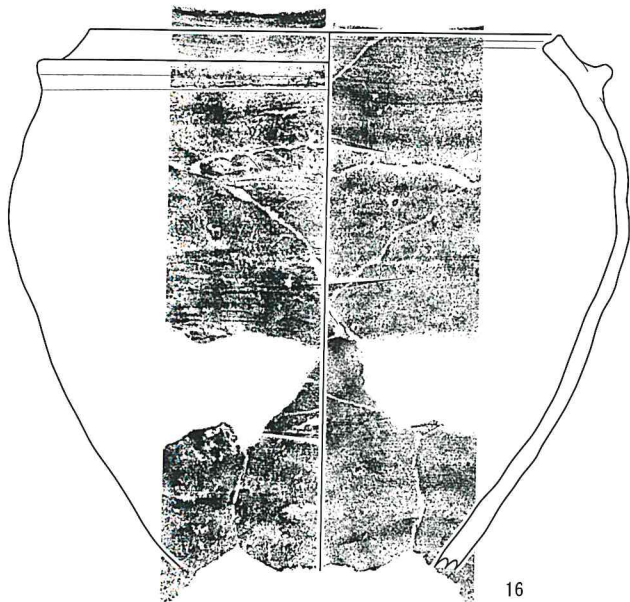
71 以外

0 S=1:2 5 cm

SK-26 出土遺物

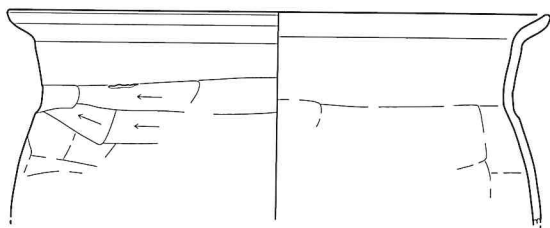
第 39 圖 SK-13·18·26 出土遺物





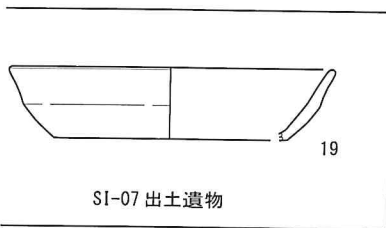
16

17



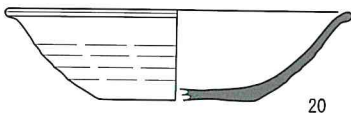
18

SI-06 出土遺物

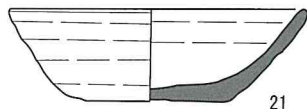


19

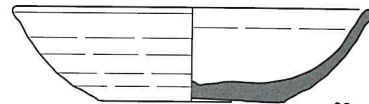
SI-07 出土遺物



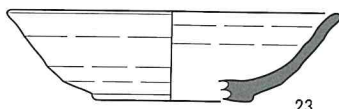
20



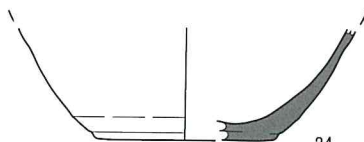
21



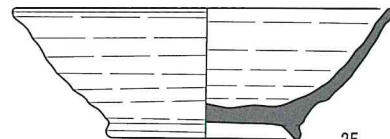
22



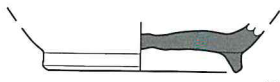
23



24



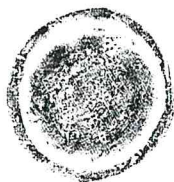
25



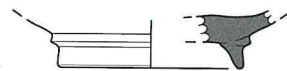
26



27



28



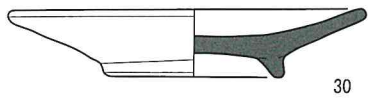
29



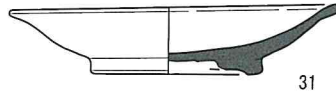
SI-08 出土遺物

0 S=1:3 10 cm

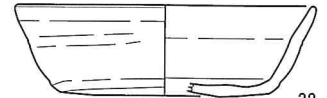
第 36 图 SI-06·07·08 出土遺物



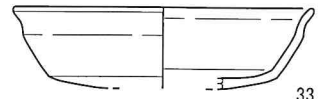
30



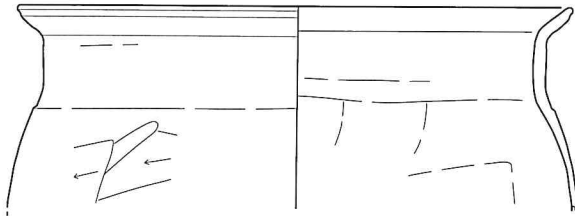
31



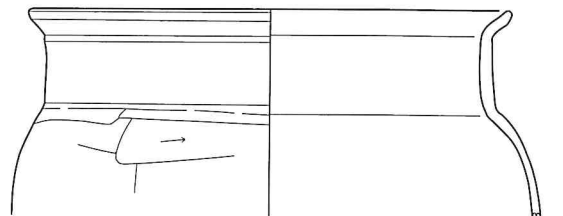
32



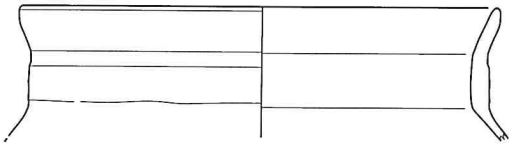
33



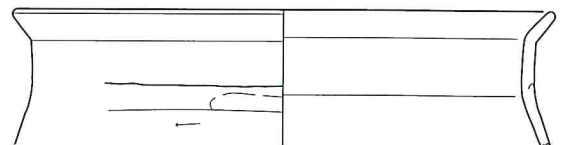
34



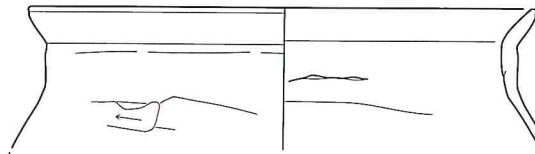
35



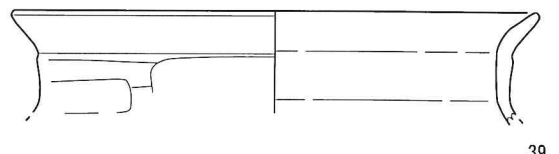
36



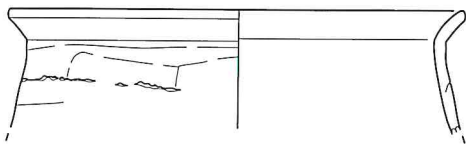
37



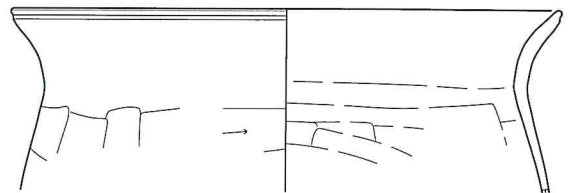
38



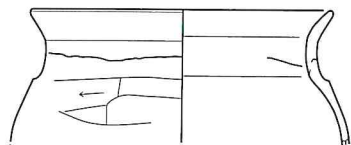
39



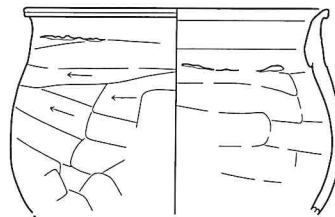
40



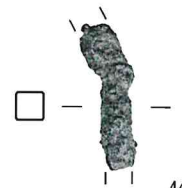
41



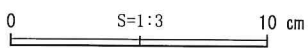
42



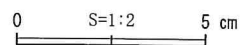
43



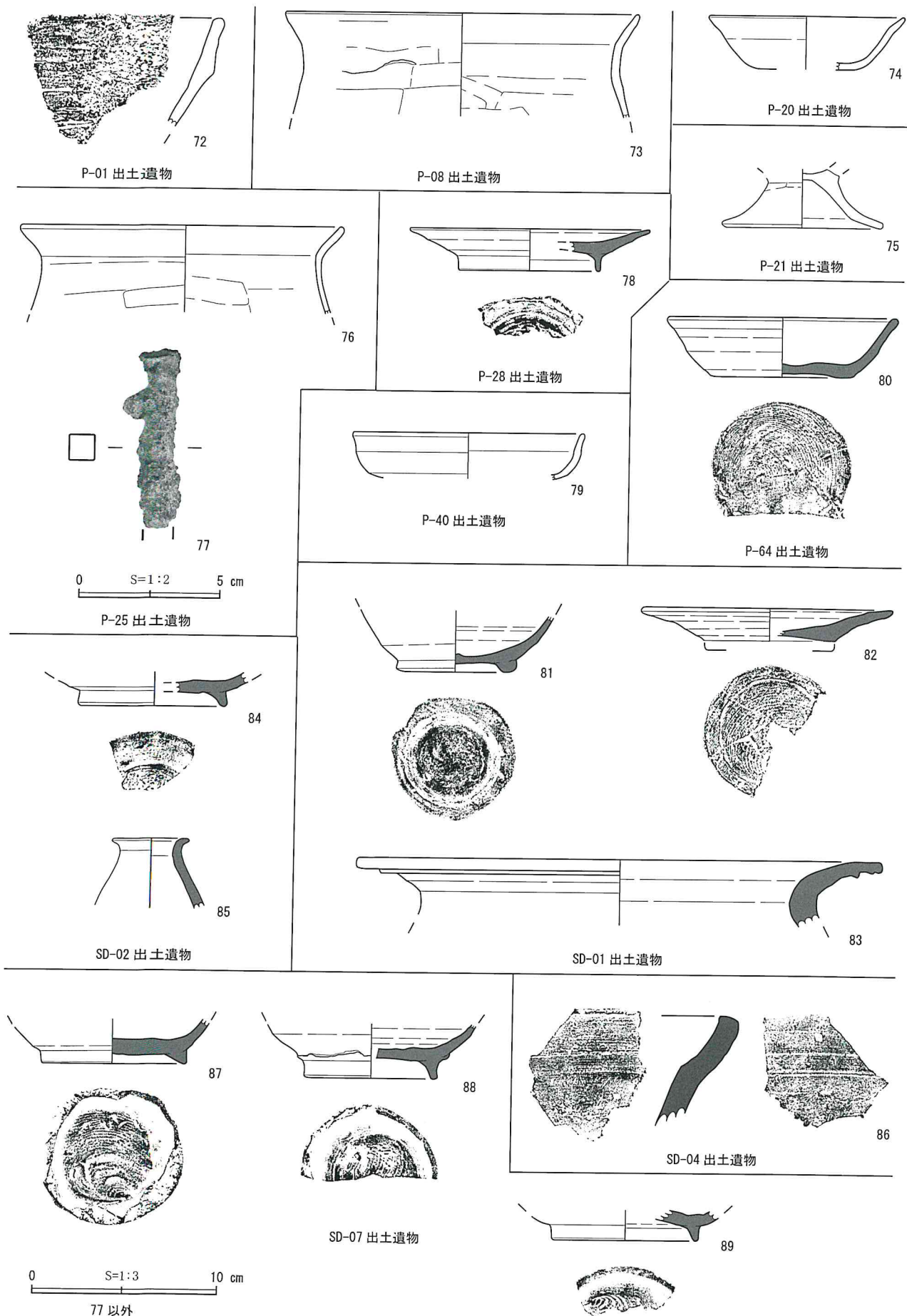
44



44 以外

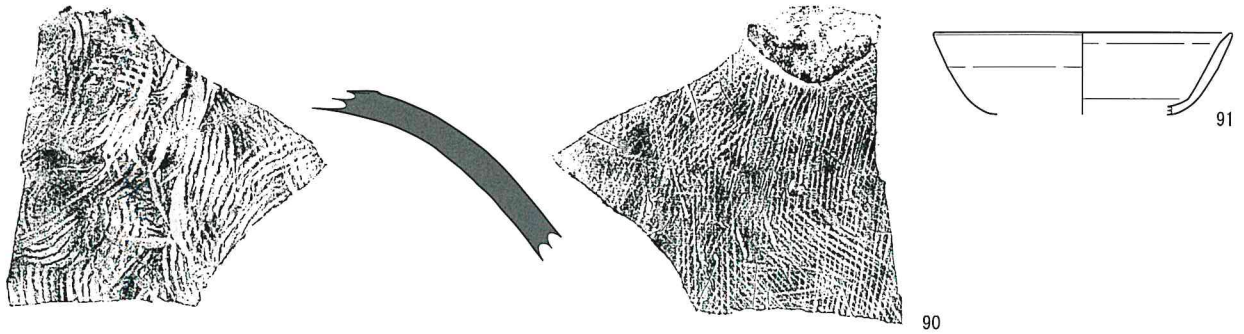


SI-08 出土遺物  
第 37 図 SI-08 出土遺物

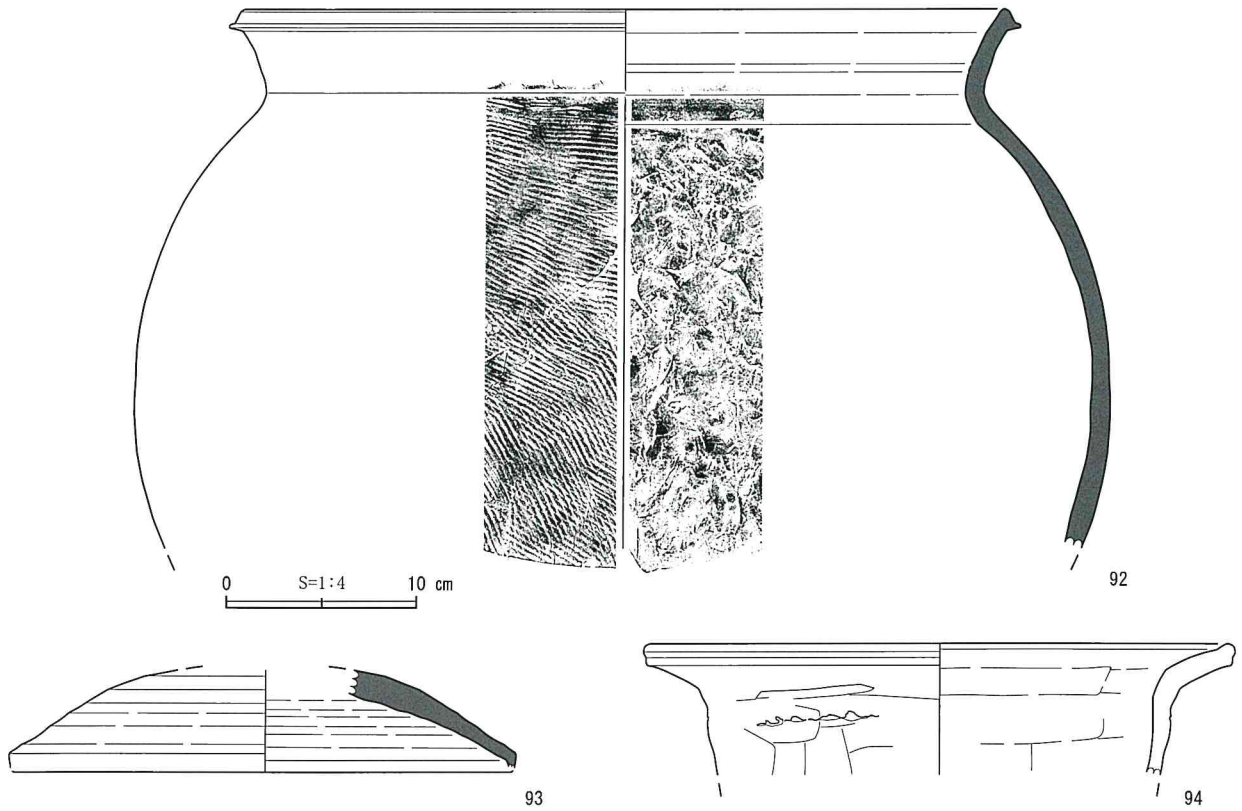


第40圖 P-01·08·20·21·25·28·40·64、SD-01·02·07 出土遺物

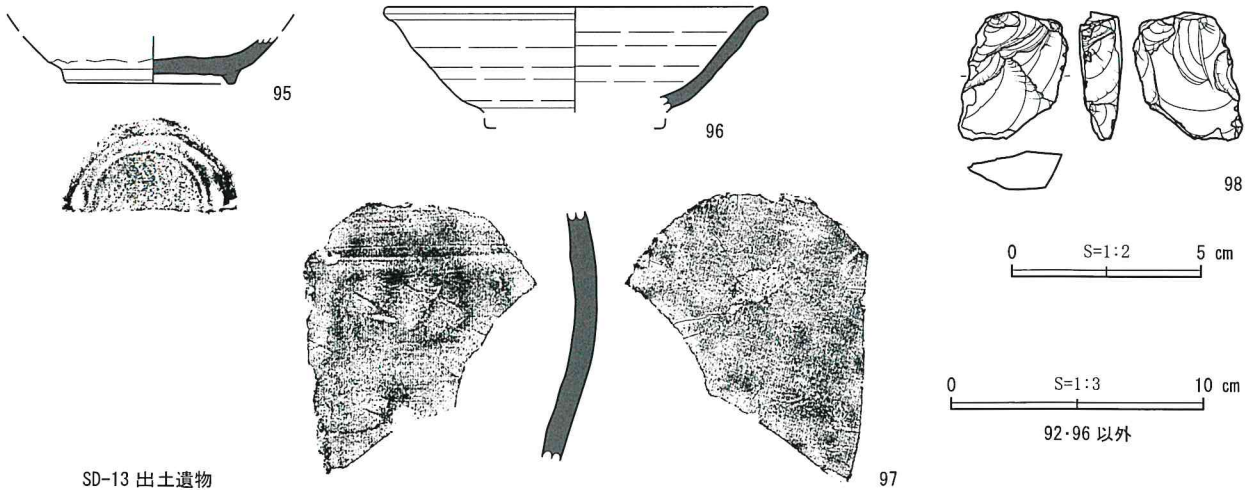




SD-09 出土遺物

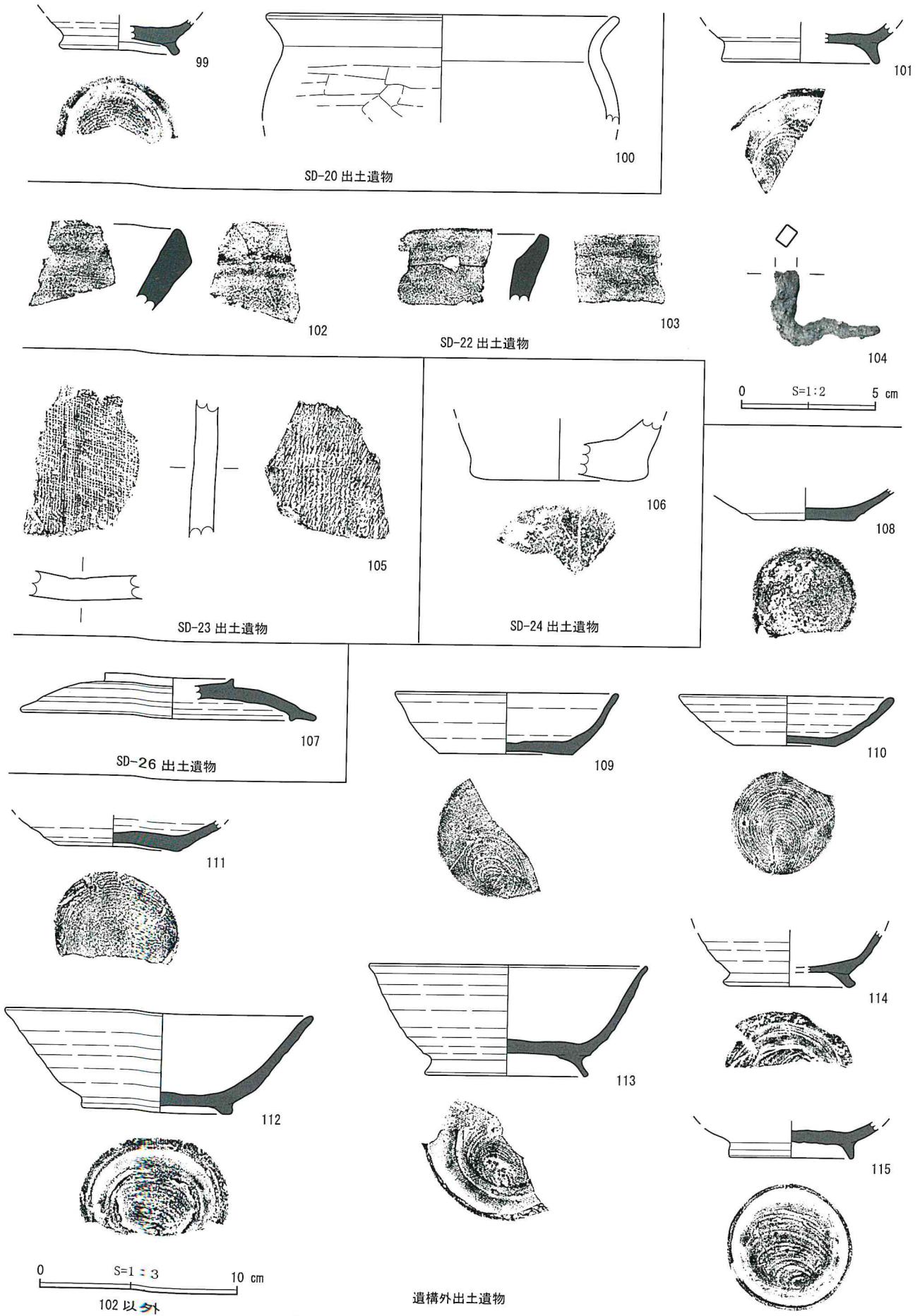


SD-12 出土遺物

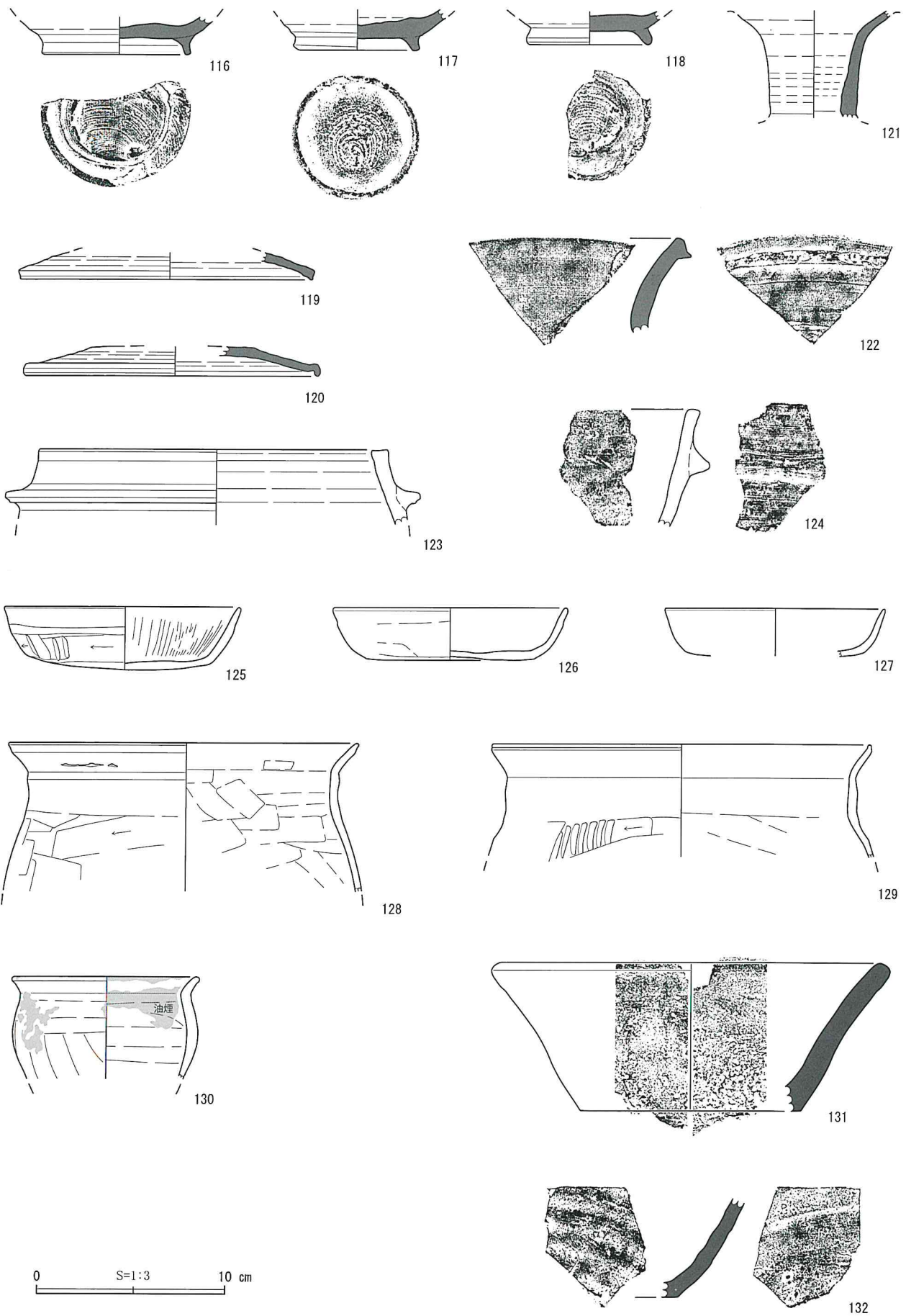


SD-13 出土遺物

第 41 圖 SD-09·12·13 出土遺物

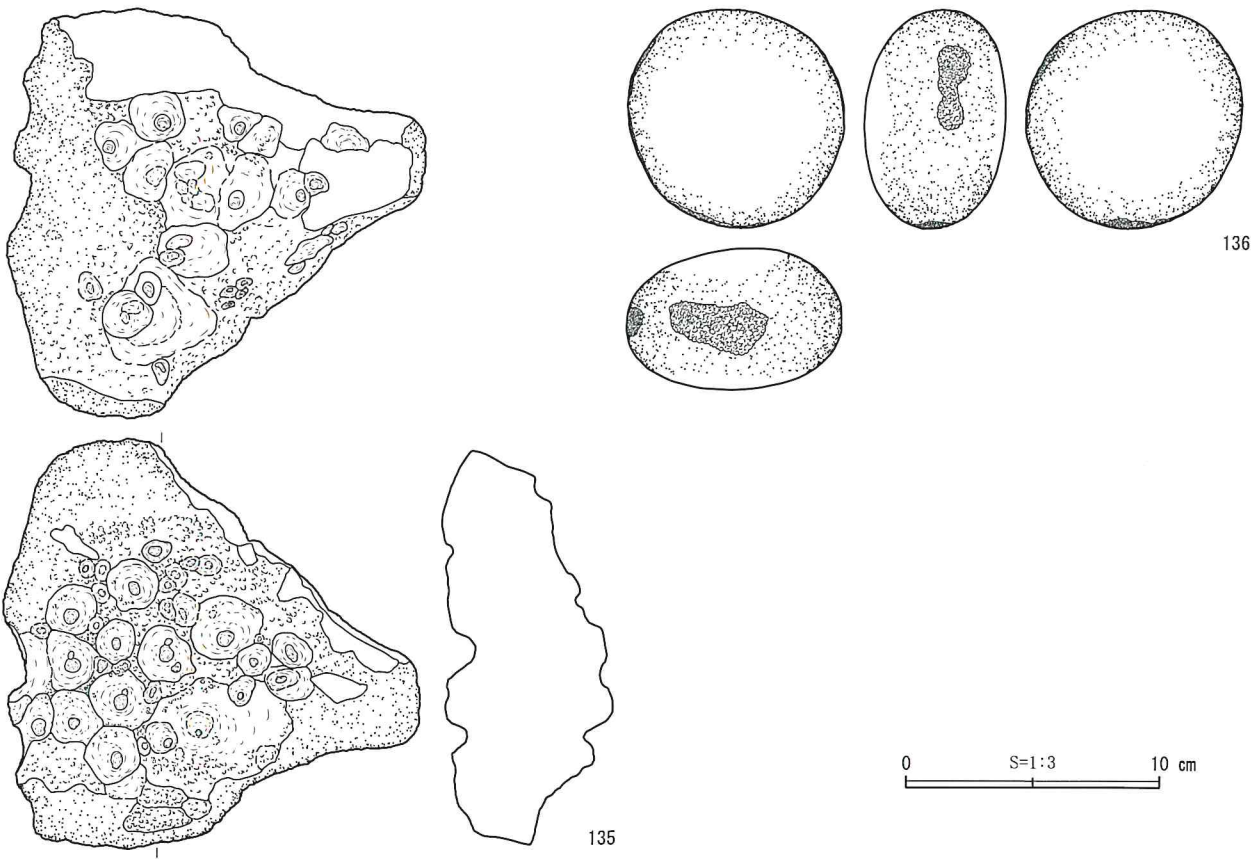
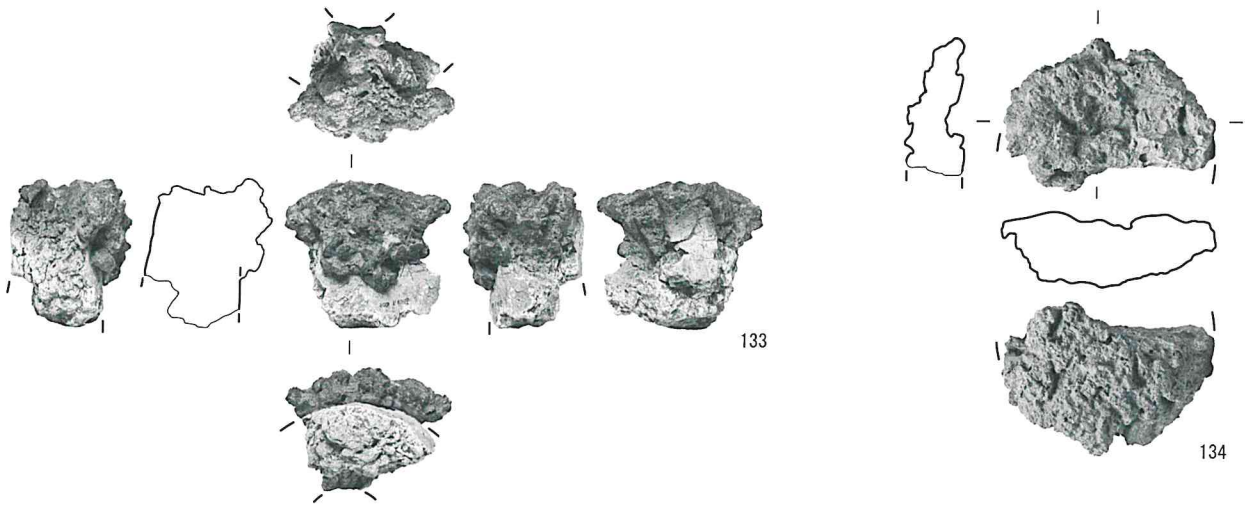


第 42 圖 SD-20·22·23·24·26、遺構外出土遺物



第 43 図 遺構外出土遺物





第 44 図 遺構外出土遺物

ら10世紀前半を中心とするが、遺構覆土中からの出土遺物も含め8世紀代のものも少なからず出土しており、調査範囲外にこの時期の集落が存在することは十分に想像される。ただし、国分僧寺に隣接する地域にあり瓦片も出土していることを考えると二次使用の可能性もある。また、数少ないが、縄文時代・中世・近代の遺物も見られる。

特出すべき遺物としては羽口（第44図133）、椀形鉄滓（重量：132g、第44図134）が上げられるが、いずれも試掘トレンチの埋土中からの出土で出土地点の特定は困難であり、関連する遺構も確認されていない。

## 第6節 まとめ

今回の調査における遺構数は総体的に少ない印象を受けるが、新設道路建設部分に限られた範囲の調査であり遺跡の全体像を反映したものとは言えない。遺構の全容が判明したのは住居5軒、掘立柱建物1棟のみで、土坑・ピットは単独遺構としての形態は確認できているものの時期・性格とも不明瞭である。さらに溝については短い走向のものが多く、不明な点を多く残す結果であった。とは言え、各遺構は調査区全体に広く分布しており、主要遺構である住居、掘立柱建物、一部の土坑は9世紀後半から10世紀前半に帰属するものと推定されること、前節で触れたように8世紀代の遺物も少なからず見られることから調査範囲外にこの時期の遺構が隠れている可能性が高く、広範囲に奈良平安時代の集落が形成されていることが推測される。

特出すべき遺物ではSI-06中央部床直から出土した須恵器小壺（第35図15、図1）、遺構外出土の羽口片（第44図133）、椀形鉄滓（第44図134）が挙げられる。特に須恵器小壺については同じ須恵器短径壺の中に大きさが2倍程の似かよったものは数多く見受けられるが、器形・法量ともに類似するものは知り得る限りでは旧群馬町の国府南部遺跡群Ⅱ出土の小壺（図1）<sup>註1</sup>、旧吉井町のヌカリ沢A窯址出土の短径壺（図1）<sup>註1</sup>、松井田工業団地遺跡出土の小型壺（図1）<sup>註2</sup>、愛知県の黒笹40号窯（図1）出土の小形短頸壺の3点が見られる程度である。やはり類似例が多いのは緑釉・二彩・三彩陶器小壺で、彩色小壺を模倣して作られたとの印象を強く受ける。とは言え、県内でも彩色・施釉陶器は出土例が少なく、全国的にも官衙・寺院・祭祀などに関連性が強い特殊な遺跡からの出土に限られている。なお、隣接する元総社蒼海遺跡群、下斉田遺跡群<sup>註1</sup>など彩色・施釉陶器小壺が出土している遺跡はあるが、形態が把握できるものは数が限られている。県内では前橋市の桧峯遺跡出土の三彩（図1）、上西原遺跡出土の三彩（図1）、安中市の松井田工業団地遺跡出土の二彩、富岡市の貫前神社に伝わる三彩などの類似例があるが、口縁の立上り・肩の張り・高台の形状から上西原遺跡出土の三彩（図1）、松井田工業団地遺跡出土の二彩（図1）、奈良県平城京左京九条三坊十坪出土の二彩小壺（図1）、千葉県木更津市宮脇遺跡出土の三彩小壺（図1）が最も酷似する事例と考えられる。しかし、初見事例として資料調査が不十分であり、今後も資料調査と研究が必要であろう。

羽口と椀形鉄滓は遺構外出土ではあるが、元総社蒼海遺跡群など隣接する遺跡で鍛冶遺構が数多く見つかっており、本遺跡でも調査対象外となった範囲に鍛冶遺構が隠れている可能性が高い。さらに前述した須恵器小壺が住居内床直から出土していることも併せて考えると、時期を含め元総社蒼海遺跡群との類似性が窺えることから国府や国分僧寺など特殊・主要遺跡との関連性が示唆される集落であり、遺跡としての重要性は高いと考えられる。

以上が、今回の調査における「まとめ」として示せる成果である。内容的には不十分と思われるが、この地域を検討する上で貴重な資料を得られたことは間違いのないであろう。今後、さらに詳細な資料調査と周辺遺跡を加えた分析・研究が行われることを期待しつつ終わりとする。

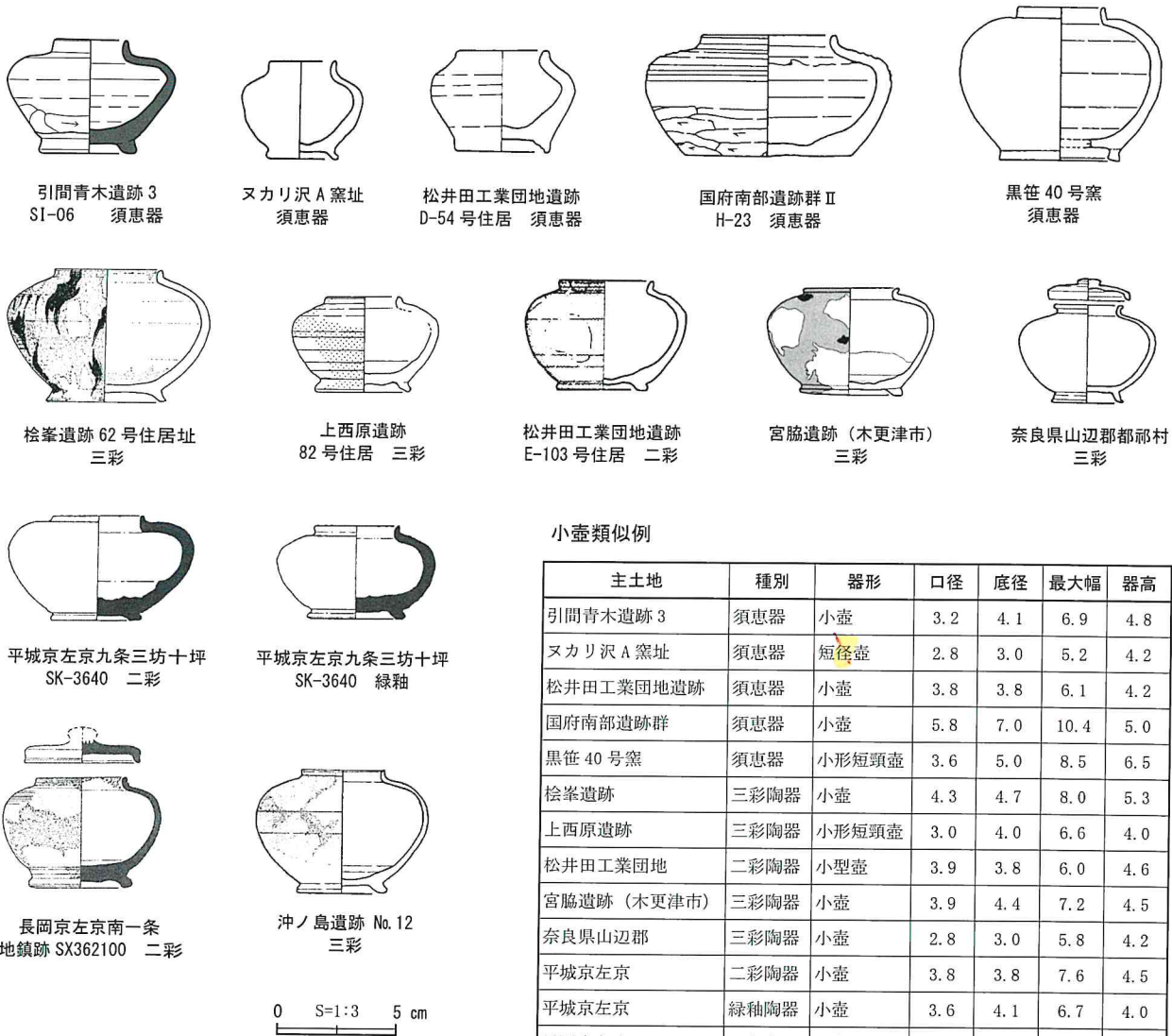


図 1 小壺類似例

小壺類似例

主土地	種別	器形	口径	底径	最大幅	器高
引間青木遺跡 3	須恵器	小壺	3.2	4.1	6.9	4.8
ヌカリ沢 A 窯址	須恵器	短径壺	2.8	3.0	5.2	4.2
松井田工業団地遺跡	須恵器	小壺	3.8	3.8	6.1	4.2
国府南部遺跡群	須恵器	小壺	5.8	7.0	10.4	5.0
黒笹 40 号窯	須恵器	小形短頸壺	3.6	5.0	8.5	6.5
桧峯遺跡	三彩陶器	小壺	4.3	4.7	8.0	5.3
上西原遺跡	三彩陶器	小形短頸壺	3.0	4.0	6.6	4.0
松井田工業団地	二彩陶器	小型壺	3.9	3.8	6.0	4.6
宮脇遺跡 (木更津市)	三彩陶器	小壺	3.9	4.4	7.2	4.5
奈良県山辺郡	三彩陶器	小壺	2.8	3.0	5.8	4.2
平城京左京	二彩陶器	小壺	3.8	3.8	7.6	4.5
平城京左京	緑釉陶器	小壺	3.6	4.1	6.7	4.0
長岡京左京	二彩陶器	小壺	3.8	4.3	6.6	4.6
沖ノ島遺跡	三彩陶器	小壺	3.5	3.8	7.3	5.2

註 1. 清水豊氏よりご教示頂いた。  
 註 2. 高橋実果氏よりご教示頂いた。

※引用参考文献

「桧峯遺跡」前橋市教育委員会 1981  
 「上西原遺跡」群馬県教育委員会 1999  
 「ヌカリ沢 A 窯址」吉井町教育委員会 1995  
 「松井田工業団地遺跡」松井田町教育委員会 1990  
 「国府南部遺跡群 I・II」群馬町教育委員会 2000  
 「下斉田遺跡群」高崎市教育委員会 2013  
 「元総社蒼海遺跡群 (13)」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008  
 「黒笹 40・89 号古窯跡／黒笹 G2 号古窯跡／立楠古窯跡」愛知県埋蔵文化財センター 1994  
 「平城京左京九条三坊十坪」奈良国立文化財研究所編 1986  
 「京都府遺跡調査概報第 74 冊」京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997  
 甲斐博幸「宮脇遺跡出土の奈良三彩小壺」『木更津市文化財調査集報 7』木更津市教委 2002



第5表 出土遺物観察表

掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴
				口径	底径	器高				
1	SI-01	一括	土師器 杯	(12.0)	—	<2.6>	口～底 部破片	にぶい橙	雲母・角閃石・軽石・ 砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラケズ リ 内：ヘラナデ
2	SI-02	No.5 カマド	須恵器 杯	14.2	7.0	4.7	4/5	外：褐灰 内：褐灰	長石・角閃石・軽石・ 砂粒 普通/酸化	外：底部回転系切り、左回転
3	SI-02	No.4	須恵器 碗	(13.0)	5.5	4.8	口～底 部	外：にぶい橙 内：灰黄褐	長石・雲母・片岩・砂 粒 良好/酸化気味	外：底部回転系切り、高台貼付、高台歪 み
4	SI-02	カマド	須恵器 碗	—	(6.4)	<3.3>	体～底 部	外：にぶい橙 内：褐灰	長石・雲母・砂粒 良好/酸化	外：底部回転系切り、高台貼付 右回転
5	SI-02	No.1 カマド	土師器 小型甕	(16.0)	—	<9.9>	口～体 部	灰白	石英・砂粒 普通	外：口縁～体部ヘラナデ、体部下位ヘラ ケズリ 内：ヘラナデ
6	SI-02	一括	土師器 甕	(20.0)	—	<5.7>	口縁部 破片	橙	角閃石・軽石・砂粒 良好	外：口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
7	SI-05	No.1	須恵器 高台付杯	(10.8)	(6.1)	5.5	2/3	灰白	長石・砂粒 良好/還元	外：高台貼付
8	SI-06	一括	須恵器 杯	(13.8)	(8.2)	3.2	口～底 部 1/5	灰	長石・砂粒 良好/還元	外：底部回転系切り
9	SI-06	No.11	須恵器 杯	(13.2)	5.9	3.7	2/3	灰白	細砂粒 良好	外：底部回転系切り 右回転
10	SI-06	No.8 一括	須恵器 碗	15.0	6.9	<5.5>	3/4	橙	雲母・片岩・砂粒 普通/酸化	外：底部回転系切り（2回?）、高台マメ ツ 右回転 内：底部「+」ヘラ記号? 右回転
11	SI-06	No.10	須恵器 皿	14.8	7.5	2.6	4/5	灰	長石・砂粒 良好/還元	外：底部回転系切り、高台貼付 内外：一部自然釉、右回転
12	SI-06	No.5	須恵器 皿	(12.4)	7.6	2.4	1/2	灰白	細砂粒 良好/酸化気味	外：底部回転系切り、高台貼付 左回転
13	SI-09	一括	須恵器 壺	—	—	<14.5>	体部大 型破片	灰	長石・石英・粗砂粒 良好	外：体部ヘラナデ、体部下端ヘラケズリ、 高台欠損 内：ロクロ調整
14	SI-06	一括	須恵器 甕	—	—	—	体部破 片	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐	長石・砂粒 良好/やや酸化気味	外：平行叩き 内：叩き
15	SI-06	No.6・7	須恵器 小壺	(3.1)	4.1	(4.8)	口～底 部	灰	白色粒・細砂粒 良好/還元	外：体部下位ヘラケズリ、高台貼付 左回転 最大径：6.9 cm
16	SI-06	No.1 カマド	羽釜	18.6	—	<21.4>	口～体 部 1/3	外：にぶい黄橙 内：褐灰	雲母・砂粒 普通	外：ヘラナデ 内：ヘラナデ
17	SI-06	No.12・貯 穴・一括	土師器 甕	(22.0)	—	<15.9>	口～体 部	橙	長石・雲母・砂粒 普通	外：口縁～頸部ヘラナデ、体部以下ヘラ ケズリ 内：ヘラナデ
18	SI-06	No.4 一括	土師器 甕	(21.6)	—	<8.3>	口～体 部破片	橙	雲母・砂粒 良好	外：口縁～頸部ヘラナデ、体部ヘラケズ リ 内：ヘラナデ
19	SI-07	カマド	土師器 杯	(12.8)	(9.0)	2.9	口～底 部破片	にぶい橙	角閃石・軽石・砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、体部無調整、底部 ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部 ヘラナデ
20	SI-08	No.3	須恵器 杯	(13.5)	(6.0)	3.6	1/3	灰白	長石・砂粒 良好/還元	外：底部回転系切り 内：火だすき 右回転
21	SI-08	No.9 一括	須恵器 杯	11.9	6.2	3.7	口～底 部 1/3	灰	長石・雲母・片岩・砂 粒 普通/酸化気味	外：底部回転系切り 右回転
22	SI-08	No.8 一括	須恵器 杯	(14.2)	(7.3)	3.7	口～底 部 1/2	灰白	細砂粒 普通/酸化気味	外：底部回転系切り 右回転
23	SI-08	No.12	須恵器 杯	(13.0)	(6.0)	3.5	口～底 部 1/3	外：灰黄 内：にぶい黄	雲母・片岩・砂粒 普通/酸化気味	外：底部回転系切り
24	SI-08	No.4	須恵器 杯	—	(6.8)	<4.5>	体～底 部 1/5	灰黄	長石・片岩・砂粒 良好/やや還元気味	外：底部回転系切り? 2度切り?
25	SI-08	No.6 一括	須恵器 碗	15.1	7.4	5.2	3/4	灰白	長石・砂粒 普通/酸化気味	外：底部回転系切り、高台貼付 右回転
26	SI-08	貯穴	須恵器 碗	—	(7.2)	<1.9>	底部	灰白	長石・黒色溶岩石・砂粒 良好/やや還元気味	外：底部回転系切り、高台貼付
27	SI-08	No.2	須恵器 碗	—	6.6	<1.8>	底部	灰白	長石・細砂粒 良好/酸化気味	外：底部回転系切り、高台貼付 右回転
28	SI-08	No.16	須恵器 碗	—	6.6	<1.4>	底部	浅黄	長石・石英・砂粒 良好/酸化気味	外：底部回転系切り、高台貼付 内：全面剥離 右回転?

掲載 No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴
				口径	底径	器高				
29	SI-08	一括	須恵器 碗	—	(7.3)	<2.3>	底部 1/5	褐灰	長石・砂粒 良好 / 還元	外：底部回転系切り、高台貼付
30	SI-08	No. 1	須恵器 皿	14.1	7.0	2.7	ほぼ完 形	外：灰白 内：にぶい黄橙	長石・黒色溶岩石・砂 粒 良好 / 還元	外：底部回転系切り、高台貼付 右回転
31	SI-08	No. 10 一括	須恵器 皿	13.2	(6.8)	2.7	ほぼ完 形	灰白	長石・雲母・片岩・砂 粒 良好	外：体部下端回転ヘラケズリ、高台貼付
32	SI-08	No. 5	土師器 坏	(12.0)	(8.2)	3.7	1/6	にぶい橙	細砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底 部外周ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、 体部以下ヘラナデ
33	SI-08	No. 7	土師器 坏	(12.0)	(9.1)	3.3	口～底 部破片	にぶい橙	角閃石・軽石・砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底 部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体 部以下ヘラナデ
34	SI-08	カマド 一括	土師器 甕	(22.0)	—	<8.1>	口～体 部破片	橙	雲母・砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体 部ヘラケズリ 内：口縁ヨコナデ、体部 ヘラナデ No. 11 と同一
35	SI-08	No. 17・一 括・調束	土師器 甕	19.4	—	<8.3>	口～体 部	橙	長石・砂粒 普通	外：口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
36	SI-08	貯穴	土師器 甕	(19.0)	—	<5.2>	口縁部 破片	橙	長石・角閃石・砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体 部ヘラケズリ 内：口縁ヨコナデ、体部 ヘラナデ
37	SI-08	No. 20	土師器 甕	(21.6)	—	<5.6>	口縁部 破片	外：明赤褐 内：橙	雲母・砂粒 普通	外：口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
38	SI-08	No. 18	土師器 甕	(20.0)	—	<5.7>	口～体 部破片	にぶい橙	長石・雲母・砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体 部ヘラケズリ 内：口縁ヨコナデ、体部 ヘラナデ
39	SI-08	No. 13	土師器 甕	(21.0)	—	<4.5>	口縁部 破片	にぶい黄橙	長石・雲母・砂粒 良好	外：体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ マ メツ
40	SI-08	No. 14・15	土師器 甕	(18.0)	—	<4.7>	口縁部 破片	にぶい橙	雲母・砂粒 普通	外：口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
41	SI-08	床下土坑 掘	土師器 甕	(22.0)	—	<7.3>	口縁部 破片	にぶい橙	雲母・細砂粒 普通	外：口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
42	SI-08	一括	土師器 甕	(11.8)	—	<5.5>	口縁部 破片	外：橙 内：にぶい褐	雲母・砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体 部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
43	SI-08	No. 19	土師器 甕	(12.0)	—	<8.2>	口～体 部破片	にぶい橙	長石・雲母・砂粒 普通	外：頸部無調整、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
掲載 No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)			残存	色調	胎土 焼成	備考
長	幅	厚	重							
44	SI-08	一括	鉄製品 釘	(4.0)	0.7	0.7	(3.7)	—		攪乱出土の可能性あり
掲載 No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴
口径	底径	器高								
45	SI-09	No. 1	須恵器 碗	—	7.5	<2.1>	底部	外：にぶい橙 内：褐灰	雲母・片岩・砂粒 良好 / 酸化	外：底部回転系切り、高台貼付
46	SI-09	No. 2・一括	土師器 甕	(20.0)	—	<15.1>	口～体部 大型破片	にぶい橙	角閃石・軽石・細砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体 部ヘラケズリ、付着物 内：ヘラナデ
47	SI-09	No. 3・カマド 掘方	土師器 甕	—	3.2	<5.0>	底部破 片	外：灰黄褐 内：橙	雲母・砂粒 普通	外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ
48	SI-10	No. 1	須恵器 坏	13.2	7.2	3.6	ほぼ完 形	外：灰黄 内：褐灰	長石・砂粒 普通 / 還元	外：底部回転系切り
49	SK-01	一括	須恵器 碗	—	(8.0)	<3.9>	体～底 部破片	黄灰	長石・細砂粒 良好 / 還元	外：高台貼付 右回転
50	SK-01	No. 1	須恵器 碗	—	(7.0)	<2.8>	底部 2/3	外：褐灰 内：褐灰	長石・雲母・細砂粒 良好 / 還元気味	外：底部回転系切り、高台剥離 いぶし、右回転
51	SK-02	No. 1・3	須恵器 坏	13.5	6.3	3.3	完形	外：黄灰 内：灰	長石・チャート・砂粒 良好	外：底部回転系切り 右回転
52	SK-02	No. 2	須恵器 坏	(15.0)	(8.4)	3.5	1/4	外：灰白 内：灰黄	細砂粒 良好	外：底部回転系切り
53	SK-02	No. 6	須恵器 坏	13.1	6.6	4.2	9/10	灰黄	石英・雲母・片岩・砂 粒 普通 / 酸化気味	外：底部回転系切り 左回転



掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴	
				口径	底径	器高					
54	SK-03	一括	土師器 甕	(20.6)	—	<6.2>	口縁部 破片	にぶい橙	雲母・砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁ヨコナデ、体部ヘラナデ	
55	SK-05	一括	土師器 甕	(16.0)	—	<6.3>	口縁部 破片	にぶい黄橙	雲母・砂粒 普通	外：口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
56	SK-10	一括・調査区南西	須恵器 碗	—	—	<6.8>	口～体 部1/2	灰白	長石・細砂粒 良好 / やや酸化気味		
57	SK-10	No. 1	土師器 甕	—	(6.0)	<6.2>	体～底 部破片	外：灰褐 内：にぶい褐	雲母・砂粒 普通	外：ヘラケズリ 内：ナデ	
58	SK-13	No. 1	土師器 甕	(22.0)	—	<6.7>	口縁部 破片	橙	雲母・砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
59	SK-18	No. 1	土師器 鉢	(26.0)	—	<6.9>	口～体 部	外：にぶい黄橙 内：にぶい橙	長石・角閃石・軽石・ 砂粒 普通	外：口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
60	SK-26	No. 2	須恵器 坏	(12.8)	7.2	3.1	2/3	外：灰 内：黄灰	砂粒 良好 / 酸化気味	外：底部回転糸切り いぶし、右回転	
61	SK-26	No. 6	須恵器 坏	—	6.9	<1.0>	底部	灰白	砂粒 良好 / 還元	外：底部回転糸切り 右回転	
62	SK-26	No. 7	須恵器 坏	—	7.0	<3.2>	底部	灰黄	長石・雲母・片岩・砂 粒 良好 / 還元	外：底部回転糸切り、高台貼付 内：重ね焼き痕、左回転	
63	SK-26	No. 10	須恵器 碗	(15.5)	(7.9)	5.7	体～底 部	灰黄	長石・砂粒 良好 / やや酸化気味	外：底部回転糸切り、高台貼付 左回転	
64	SK-26	No. 9	須恵器 碗	—	7.6	<3.7>	体～底 部	褐灰	長石・片岩・角閃石・ 軽石・砂粒 良好 / 酸化気味	外：底部回転糸切り、高台貼付 いぶし、右回転	
65	SK-26	No. 1	須恵器 碗	—	(8.0)	<2.4>	底部	灰黄	長石・砂粒 良好 / やや酸化気味	外：底部回転糸切り、高台貼付 右回転	
66	SK-26	No. 4	須恵器 蓋	—	—	<4.1>	天～体 部	灰白	長石・細砂粒 良好 / 還元	外：回転ヘラケズリ 右回転	
67	SK-26	No. 8	須恵器 甕	(18.0)	—	<3.2>	口縁部 破片	黄灰	長石・砂粒 良好 / 酸化気味	いぶし	
68	SK-26	一括	須恵器 甕	—	—	<3.1>	口縁部 破片	褐灰	雲母・細砂粒 良好 / 還元	外：ヘラナデ 内：自然袖付着	
69	SK-26	No. 3	土師器 坏	(12.0)	—	<2.7>	口～体 部破片	にぶい橙	雲母・細砂粒 普通	外：口縁部ヘラナデ、体部以下ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
70	SK-26・27	一括	土師器 坏	(12.8)	(9.1)	<2.9>	口～底 部破片	橙	雲母・細砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)			残存	色調	石 材	備 考	
71	SK-26	一括	石器 スクレイパー	長：3.37 / 幅：3.96 / 厚：1.12 / 重：11.19			完形		黒色頁岩		
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴	
72	P-1	一括	縄文 鉢	—	—	<6.1>	口縁部 破片	にぶい黄橙	長石・粗砂粒 普通	外：条痕 粗製	
73	P-8	一括	土師器 甕	(20.0)	—	<5.7>	口～体 部破片	橙	雲母・砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
74	P-20	一括	土師器 坏	(11.0)	(5.4)	<3.0>	口～底 部破片	橙	雲母・砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
75	P-21	No. 1	土師器 台付甕	—	9.0	<2.9>	台部	にぶい橙	雲母・砂粒 良好	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	
76	P-25	No. 1	土師器 甕	(17.6)	—	<4.8>	口縁部 破片	橙	雲母・細砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)				残存	備 考		
77	P-25	一括	鉄製品 釘	<6.5>	0.95	0.95	<14.1>	—			



掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴	
				口径	底径	器高					
78	P-28	一括	須恵器 皿	(13.4)	(7.9)	<2.3>	口～底 部 1/3	灰白	長石・砂粒 良好 / 還元	外：底部回転糸切り、高台貼付	
79	P-40	一括	土師器 坏	(13.0)	(11.0)	<2.6>	口～底 部破片	にぶい赤褐	雲母・砂粒 普通	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底 部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
80	P-64	No. 1	須恵器 坏	(12.9)	(7.7)	3.4	2/3	灰黄	長石・片岩・砂粒 普通 / やや酸化気味	外：底部回転糸切り 右回転	
81	SD-01	一括	須恵器 碗	—	6.7	<3.4>	体～底 部	灰白	長石・雲母・砂粒 普通 / やや酸化気味	外：底部回転糸切り、高台貼付 右回転	
82	SD-01	一括	須恵器 皿	(14.0)	(7.3)	<1.9>	口～底 部 2/5	にぶい黄橙	角閃石・軽石・砂粒 良好 / 弱酸化	外：口縁～体部ヘラナデ、底部回転糸切り、 高台剥離 内：ヘラナデ 右回転	
83	SD-01	一括	須恵器 甕	(29.2)	—	<3.7>	口縁部 破片	灰黄	長石・砂粒 良好	外：ヘラナデ 内：ヘラナデ 自然釉	
84	SD-02	一括	須恵器 碗	—	(8.0)	<1.9>	底部破 片	黄灰	長石・砂粒 良好	外：高台貼付	
85	SD-02	一括	須恵器 瓶	(2.0)	—	<3.3>	口縁部 破片	灰白	長石・砂粒 普通 / 還元		
86	SD-04	一括	中世陶器 鍋	—	—	<5.5>	口縁部 破片	灰	石英・雲母・砂粒 良好	外：ヘラナデ 内：ヘラナデ	
87	SD-07	No. 1	須恵器 碗	—	7.8	<2.3>	底部	灰白	砂粒 良好	外：底部回転糸切り、高台貼付 右回転	
88	SD-07	No. 2	須恵器 碗	—	(7.6)	<3.0>	底部破 片	黄灰	長石・砂粒 良好	外：底部回転糸切り、高台貼付 右回転	
89	SD-07	No. 3	須恵器 碗	—	(8.1)	<1.3>	底部破 片	灰白	長石・砂粒 良好	外：底部回転糸切り、高台貼付	
90	SD-09	No. 1	須恵器 甕	—	—	<6.3>	体部破 片	黄灰	粗砂粒 良好	外：平行叩き 内：叩き	
91	SD-09	一括	土師器 坏	(12.0)	—	<3.3>	口～体 部破片	にぶい橙	雲母・細砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、体部以下無調整 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	
92	SD-12	No. 1・2・ 一括	須恵器 甕	(40.8)	—	<28.7>	口～体 部	灰	長石・細砂粒 良好	外：口縁部ロクロ調整、体部平行叩き 内：口縁部ロクロ調整、体部叩き	
93	SD-12	一括	須恵器 蓋	—	—	<4.0>	1/8	灰白	細砂粒 良好 / やや酸化気味	外：天井部回転ヘラケズリ 重ね焼き痕 (変色)	
94	SD-12	一括	土師器 甕	(23.6)	—	<5.2>	口縁部 破片	にぶい橙	長石・雲母・砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	
95	SD-13	No. 1	須恵器 碗	—	6.7	<1.9>	底部 1/2	灰白	雲母・砂粒 普通	外：高台貼付	
96	SD-13	No. 2	須恵器 碗	(15.2)	—	<4.2>	1/4	灰白	石英・小石・砂粒 普通		
97	SD-13	一括	須恵器 甕	—	—	<10.0>	体部破 片	灰白	長石・砂粒 良好	外：ヘラナデ 内：ヘラナデ	
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)				残存	色調	胎土 焼成	備考
98	SD-13	一括	石器 剥片	長：3.39 / 幅：2.90 / 厚： 1.11 / 重：11.52				完形		黒色頁岩	二次加工
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴	
99	SD-20	一括	須恵器 碗	—	(6.6)	<1.9>	底部 1/2	にぶい黄橙	角閃石・軽石・砂粒 普通 / 酸化	外：底部回転糸切り、高台貼付	
100	SD-20	一括	土師器 甕	(20.0)	—	<6.1>	口～体 部破片	外：にぶい橙 内：橙	雲母・砂粒 良好	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部体部ヘラナデ	
101	SD-22	No. 1	須恵器 碗	—	(9.0)	<1.8>	底部破 片	灰	長石・砂粒 良好	外：高台貼付	
102	SD-22	一括	中世陶器 鍋	—	—	<4.5>	口縁部 破片	灰白	雲母・砂粒 普通		
103	SD-22	一括	中世陶器 鍋	—	—	<3.8>	口縁部 破片	黄灰	長石・細砂粒 普通	いぶし	
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)				残存	色調	胎土 焼成	備考
104	SD-22	一括	鉄製品 釘	(5.7)	0.7	0.5	(5.3)	—			

掲載 No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴
				口径	底径	器高				
105	SD-23	No. 1	平瓦	長:(7.8) / 幅:(6.2) / 厚: 1.3 / 重:106			破片	灰白	長石・砂粒 良好 / 弱酸化	上:布目 下:縄目
106	SD-24	No. 2	縄文 鉢	—	(10.0)	<3.1>	底部破 片	にぶい黄橙	角閃石・軽石・粗砂粒 普通	底部木葉痕
107	SD-26	No. 1	須恵器 蓋	(16.0)	2.3	(6.6)	天~口 縁部 1/4	灰白	長石・細砂粒 良好	外:天井部回転ヘラケズリ、摘み貼付
108	調査区	南西部 一括	須恵器 碗	—	5.6	<1.8>	底部	外:にぶい黄橙 内:褐灰	雲母・軽石・砂粒 良好 / 酸化	外:高台剥離 内:黒色
109	調査区	南西部 一括	須恵器 坏	(12.5)	(7.5)	3.5	口~底 部 1/2	灰白	長石・細砂粒 良好 / 還元	外:底部回転糸切り 右回転
110	調査区	南西部 一括	須恵器 坏	(12.1)	5.7	2.8	口~底 部	灰白	長石・細砂粒 良好 / やや酸化気味	外:底部回転糸切り 右回転
111	調査区	南東部 一括	須恵器 坏	—	6.2	<1.8>	底部破 片	灰白	長石・細砂粒 良好 / 還元	外:底部回転糸切り 右回転
112	調査区	南東部 一括	須恵器 碗	(16.5)	(7.5)	5.6	口~底 部 1/4	灰黄	長石・粗砂粒 普通 / 酸化気味	外:底部回転糸切り、高台貼付 右回転?
113	調査区	南西部 一括	須恵器 碗	(15.6)	(9.1)	6.2	口~底 部 1/3	外:灰黄 内:褐灰	長石・黒色溶岩・砂粒 良好 / 還元	外:底部回転糸切り、高台貼付 右回転
114	調査区	南西部 一括	須恵器 碗	—	—	<3.2>	底部破 片	外:灰黄 内:褐灰	雲母・砂粒 良好 / 酸化	外:底部回転糸切り、高台貼付 右回転?
115	調査区	北西部 一括	須恵器 碗	—	7.0	<2.1>	底部	灰	長石・砂粒 良好 / 還元	外:底部回転糸切り、高台貼付 右回転
116	表採	一括	須恵器 碗	—	(7.9)	<2.1>	底部破 片	灰白	長石・細砂粒 良好 / やや酸化気味	外:底部回転糸切り、高台貼付 右回転
117	調査区	南東部 一括	須恵器 碗	—	6.7	<2.3>	底部	灰白	長石・砂粒 良好 / 還元	外:底部回転糸切り、高台貼付 右回転
118	調査区	南東部 一括	須恵器 碗	—	(6.6)	<1.8>	底部破 片	外:黄灰 内:灰	長石・細砂粒 良好 / 弱還元	外:底部回転糸切り、高台貼付 いぶし、右回転
119	調査区	南西部 一括	須恵器 蓋	(15.8)	—	<1.5>	口~体 部破片	灰白	長石・細砂粒 普通 / 還元	歪み
120	調査区	南西部 一括	須恵器 蓋	(16.0)	—	<1.7>	口縁部 破片	外:浅黄 内:褐灰	長石・細砂粒 良好 / 還元	外:自然釉 内:重ね焼き痕
121	調査区	北東部 一括	須恵器 長頸壺	—	—	<5.8>	頸部破 片	褐灰	長石・細砂粒 良好	内:ヘラナデ 内外:自然釉
122	調査区	南西部 一括	須恵器 甕	—	—	<5.0>	口縁部 破片	灰白	長石・砂粒 良好 / 還元	
123	調査区	南西部 一括	羽釜	(18.0)	—	<3.9>	口縁部 破片	灰黄	長石・雲母・砂粒 良好 / やや酸化気味	外:ヘラナデ、鏝貼付 内:ヘラナデ
124	調査区	南西部 一括	羽釜	—	—	<6.5>	口縁部 破片	にぶい黄橙	長石・砂粒 良好 / 酸化	外:ヘラナデ、鏝貼付 内:ヘラナデ
125	調査区	南西部 一括	土師器 坏	12.6	9.7	3.5	口~底 部 1/3	橙	角閃石・軽石・砂粒 普通	外:口縁部ヨコナデ、体部以下ヘラケズ リ 内:ヘラナデ、暗文
126	調査区	南西部 一括	土師器 坏	(13.0)	(8.7)	2.9	口~底 部 1/4	橙	長石・雲母・砂粒 普通	外:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底 部ヘラケズリ 内:ヘラナデ
127	調査区	南西部 一括	土師器 坏	(12.1)	(9.8)	<2.7>	口~底 部破片	橙	角閃石・軽石・砂粒 普通	外:マメツ 内:マメツ マメツ
128	調査区	南西部 一括	土師器 甕	(19.0)	—	<8.3>	口~体 部破片	にぶい橙	雲母・細砂粒 普通	外:口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ 内:ヘラナデ
129	調査区	東部 一 括 島 IH	土師器 甕	(21.0)	—	<6.2>	口~体 部破片	にぶい橙	雲母・砂粒 普通	外:口縁ヨコナデ、頸部ヘラナデ、体部 ヘラケズリ 内:ヘラナデ
130	調査区	南西部 一括	土師器 小型甕	10.0	—	<5.7>	口~体 部破片	灰黄褐	雲母・砂粒 普通	外:口縁~体部上位ヘラナデ、体部ヘラ ケズリ 内:ヘラナデ



掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm)			残存	色調	胎土 焼成	成・整形の特徴
				口径	底径	器高				
131	調査区	北西部 一括	中世陶器 鍋	(22.0)	(12.2)	<8.2>	口縁部 破片	黄灰	雲母・片岩・砂粒 良好/酸化	いぶし
132	調査区	北西部 一括	中世陶器 甕	—	—	<5.5>	体～底 部破片	灰	長石・砂粒 良好/還元	外：自然釉
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)				残存	備考	
				長	幅	厚	重			
133	調査区	南西部 P-62 付近	羽口	(6.5)	(6.5)	4.8	(112)	破片	試掘トレンチ埋戻し土内出土	
134	調査区	南西部 P-62 付近	鉄製品 碗形鉄滓	8.5	(6.0)	3.0	(132)	1/2	試掘トレンチ埋戻し土内出土	
掲載No.	遺構	出土状況	種別 器種	計測値 (cm / g)				残存	石材	備考
				長	幅	厚	重			
135	調査区	北西部 一括	石器 多孔石	長：16.31 / 幅：16.28 / 厚：6.82 / 重：1347				完形	輝石安山岩	
136	表採	一括	石器 複合礫器 (敲・磨)	長：8.69 / 幅：8.57 / 厚： 5.62 / 重：611				完形	輝石安山岩	

## 第5章 自然科学分析

### I. 引間青木遺跡3の土層とテフラ

#### 1. はじめに

北関東地方西部に位置する高崎市とその周辺には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺に位置する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載学的な特徴がテフラ・カタログ（たとえば町田・新井，2011）などに収録されており、考古遺跡などでテフラに関する調査分析を行って年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、考古学的な遺物や遺構の年代などのデータを得られるようになっている。

高崎市引間青木遺跡3の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層などが検出されたことから、野外調査（地質調査）を実施してテフラ層を含む土層の記載を行うとともに、室内でのテフラ分析（テフラ検出分析）により指標テフラの検出同定を実施して、遺構や土層の層位や年代を求めることになった。調査分析の対象は、深掘第1～5トレンチの5地点である。

#### 2. 調査分析地点の土層層序

##### (1) 深掘第1トレンチ

深掘第1トレンチでは、下位よりやや黄色がかった灰色シルト層（層厚11 cm以上）、灰色泥層（層厚11 cm）、やや灰色がかった褐色泥層（層厚6 cm）、暗灰色粘質泥層（層厚11 cm）、灰色軽石層（ブロック状、最大層厚4 cm、軽石の最大径12 mm、石質岩片の最大径2 mm）、灰色軽石を多く含む黒灰色泥層（層厚8 cm、軽石の最大径11 mm）、かすかに成層してやや灰色がかった黄色砂質細粒火山灰層（層厚8 cm）、黄褐色土ブロックや青灰色細粒火山灰層ブロック混じり暗灰色土（層厚8 cm）、かすかに成層した暗灰色火山灰質砂層（層厚8 cm）、褐色火山灰質砂層（層厚13 cm）、灰褐色砂質土（層厚21 cm）、表土（層厚8 cm）が認められた（図1）。

このうち、灰色軽石層は、層相から3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石層（As-C，荒牧，1968，新井，1979，坂口，2010）の可能性が高い。また、その上位のかすかに成層してやや灰色がかった黄色砂質細粒火山灰層は、層相から6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，2011）に同定される。また、その上位の土層中にブロック状に認めら



れる青灰色細粒火山灰層は、その層相から、1128（大治3）年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ（As-Kk, 早田, 1991, 2004）と考えられる。したがって、その上位の火山灰質砂層は、本遺跡周辺に大量に降灰した1108（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979 など）の洪水による再堆積物と考えられる。

## （2）深掘第2トレンチ

深掘第2トレンチでは、下位より灰色シルト層ブロック混じり暗灰色泥層（層厚13 cm以上）、黒灰色泥層（層厚15 cm）、灰褐色軽石層（層厚6 cm, 軽石の最大径11 mm, 石質岩片の最大径3 mm）、灰色軽石に富む暗灰色泥層（層厚3 cm, 軽石の最大径11 mm）、灰色軽石を多く含む黒灰色泥層（層厚6 cm）、細かく成層したテフラ層（層厚15.4 cm）、葉理をもつ灰色砂質シルト層（層厚2 cm）、褐色砂層（層厚9 cm）が認められた（図2）。

このうち、細かく成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層（層厚3 cm）、逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層（層厚1 cm）、葉理をもつ灰色砂質細粒火山灰層（層厚4 cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚0.2 cm）、灰色細粒火山灰層（層厚0.6 cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚0.1 cm）、灰色細粒火山灰層（層厚0.3 cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚0.2 cm）、灰色細粒火山灰層（層厚1 cm）、粒径がよく揃った褐色粗粒火山灰層（層厚5 cm）からなる。

このうち、灰褐色軽石層は、層相からAs-Cの可能性が高い。また、その上位の細かく成層したテフラ層は、層相からHr-FAに同定される。それを構成するユニットのうち、最下位の褐色細粒火山灰層は、Soda(1996)のS1降下火山灰層に、その上位の逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層はS7火砕流の灰雲サージ堆積物にそれぞれ対応する可能性が高い。

## （3）深掘第3トレンチ

深掘第3トレンチでは、下位より白色粗粒火山灰を含む凝灰質黄白色シルト層（層厚15 cm以上）、暗褐色泥層（層厚17 cm）、とくに暗い暗灰色泥層（層厚13 cm）、かすかに成層したテフラ層（層厚5 cm）、やや黄色がかかった灰色軽石混じり黒褐色泥層（層厚9 cm, 軽石の最大径11 mm）、黄灰色砂質細粒火山灰層ブロックを含む灰色土（層厚6 cm）、白色軽石混じり灰色土（層厚12 cm, 軽石の最大径12 mm）、成層したテフラ層（層厚2.2 cm）、やや灰色がかかった褐色砂質土（層厚10 cm）、砂を多く含むやや褐色がかかった灰色土（層厚24 cm）、表土（層厚11 cm）が認められた（図3）。

このうち、下位のかすかに成層したテフラ層は、下部が黄灰色軽石層（層厚2 cm, 軽石の最大径11 mm, 石質岩片の最大径2 mm）で、上部が灰色細粒軽石混じり灰色粗粒火山灰層（層厚3 cm, 軽石の最大径3 mm）からなる。このテフラ層は層相からAs-Cの可能性が高い。それより上位の土層中にブロック状に含まれる黄灰色砂質細粒火山灰層は、層位や層相からHr-FAに同定される。さらに、上位の成層したテフラ層は、下部の黄灰色粗粒火山灰層と、上部の青灰色細粒火山灰層（層厚0.2 cm）からなり、As-Bの最下部と考えられる。

## （4）深掘第4トレンチ

深掘第4トレンチでは、下位より灰色泥層（層厚21 cm以上）、灰色泥層（層厚20 cm）、暗灰色泥層（層厚8 cm）、灰色軽石層（層厚6 cm）、灰色軽石を多く含む黒灰色泥層（層厚8 cm, 軽石の最大径12 mm）、細かく成層したテフラ層（層厚16.2 cm）、葉理をもつ黄灰色砂質シルト層（層厚2 cm）、黄灰色砂層（層厚3 cm）、白色軽石混じりで砂を多く含む灰色土（層厚12 cm, 軽石の最大径8 mm）、灰褐色砂質土（層厚31 cm）、表土（層厚14 cm）が認められた（図4）。

このうち、灰色軽石層は層相からAs-Cの可能性が高い。また、成層したテフラ層は、下位よりアズキ色細粒火山灰層（層厚2 cm）、灰色細粒火山灰層（層厚1 cm）、逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層（層厚2 cm）、灰色砂質細粒火山灰層（層厚2 cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚0.2 cm）、かすかに成層した灰色

細粒火山灰層（層厚 2 cm）、乳黄白色細粒火山灰層（層厚 3 cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚 3 cm）、桃色砂質細粒火山灰層（層厚 1 cm）からなる。このテフラ層は、層位や層相から Hr-FA に同定される。それを構成するユニットのうち、最下位のアズキ色細粒火山灰層は、Soda（1996）の S1 降下火山灰層、その直上の灰色細粒火山灰層は S2 降下火山灰層、そして逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層は S7 火砕流の灰雲サージ堆積物にそれぞれ対応する可能性が高い。

#### （5）深掘第 5 トレンチ

深掘第 5 トレンチでは、灰色シルト層（層厚 15 cm 以上）の上位に、黒褐色泥層（層厚 25 cm）、灰色軽石層（層厚 6 cm）、灰色軽石を多く含む黒色泥層（層厚 8 cm、軽石の最大径 11 mm）、細かく成層したテフラ層（層厚 12 cm）、砂を多く含む灰褐色土（層厚 6 cm）、砂混じり灰褐色土（層厚 17 cm）、表土（層厚 20 cm）が認められた（図 5）。

このうち、灰色軽石層は層相から As-C の可能性が高い。また、成層したテフラ層は、下位よりアズキ色細粒火山灰層（層厚 2 cm）、黄灰色砂質細粒火山灰層（層厚 1 cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚 1 cm）、灰色細粒火山灰層（層厚 1 cm）、かすかに成層した黄灰色砂質細粒火山灰層（層厚 2 cm）、かすかに成層した灰色細粒火山灰層（層厚 3 cm）、粒径がよく揃った黄灰色粗粒火山灰層（層厚 2 cm）から構成される。このテフラ層は、層位や層相から Hr-FA に同定される。それを構成するユニットのうち、最下位のアズキ色細粒火山灰層は、Soda（1996）の S1 降下火山灰層、その直上の黄灰色砂質細粒火山灰層は S2 降下火山灰層、そして灰色粗粒火山灰層は S7 火砕流の灰雲サージ堆積物にそれぞれ対応する可能性が高い。

### 3. テフラ検出分析

#### （1）分析試料と分析方法

調査対象となった深掘第 1～5 トレンチのうち、深掘第 1 トレンチ、深掘第 2 トレンチ、深掘第 4 トレンチ、深掘第 5 トレンチの 4 地点で採取された 4 試料を対象として、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラとの同定精度向上のための資料を得た。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料 5 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により 80°C で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

#### （2）分析結果

テフラ検出分析では、スポンジ状に良く発泡した灰白色の軽石（最大径 2.8 mm）や、その細粒物であるスポンジ状軽石型ガラスを検出できた。軽石は深掘第 5 トレンチの試料 1 でのみ、ごくわずかに認められた。一方、火山ガラスはいずれからも検出されたものの、量はさほど多くない。磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石が含まれているが、軽鉱物の長石類が多い。

### 4. 考察

テフラ検出分析の対象となった 4 地点の降下軽石層は、層相および含まれるテフラ粒子の岩相から、いずれも 3 世紀後半に浅間火山から噴出した浅間 C 軽石層（As-C、荒牧、1968、新井、1979、坂口、2010）に同定される。これまでに群馬県内の多くの遺跡で報告されたこのテフラ層に関しては、多くがその二次堆積物の可能性がある。今回、テフラ同定に関する資料を得るとともに、テフラ粒子の産状に関する情報を得たが、今回の分析地点では軽石粒子がひどく風化を受けており、一般的に実施されている粒度分析を行っても、降下当時のテフラの粒径組成を求めることが困難である。これは、堆積後の地下水位の上下変動に伴う風化を受けた結果と思われる。



## 5. まとめ

高崎市弓|間青木遺跡3の発掘調査に際して、野外調査（地質調査）とテフラ分析（テフラ検出分析）を実施した。その結果、下位より浅間C軽石層（As-C、3世紀後半）、榛名ニツ岳渋川テフラ層（Hr-FA、6世紀初頭）、浅間Bテフラ層（As-B、1108年）、浅間粕川テフラ層（As-Kk、1128年）を認めることができた。

### 文献

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル，no. 53，p. 41-52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質。地団研専報，no. 14，p. 1-45.

町田 洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス（第2刷）」。東京大学出版会，336p.

坂口 一（1986）榛名ニツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p. 103-119.

坂口 一（2010）高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡 H22 の水田耕作地と周辺集落との関係—。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」，p. 17-22.

早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究，27，p. 297-312.

早田 勉（1991）浅間火山の生い立ち。佐久考古通信，no. 53，p. 2-7.

Soda, T. (1996) Explosive activities of Haruna volcano and their impacts on human life in the sixth century A.D. Geogr. Rept. Tokyo Metropol. Univ., no. 31, p. 37-52.

早田 勉（2004）火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史—とくに平安時代の噴火について。かみつけの里博物館編「1108—浅間山噴火—中世への胎動」，p. 45-56.

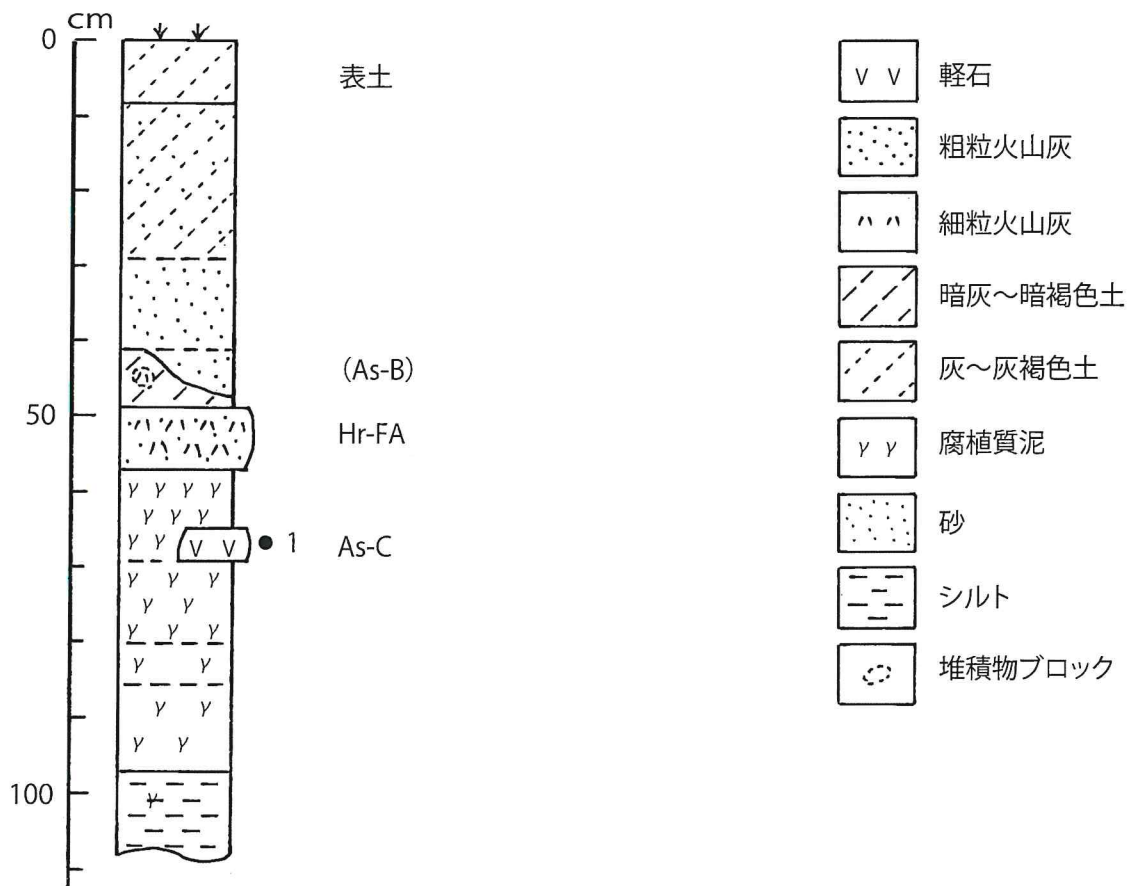


図1 深掘第1トレンチの土層柱状図

●：テフラ分析試料の層位、数字：テフラ分析の試料番号。



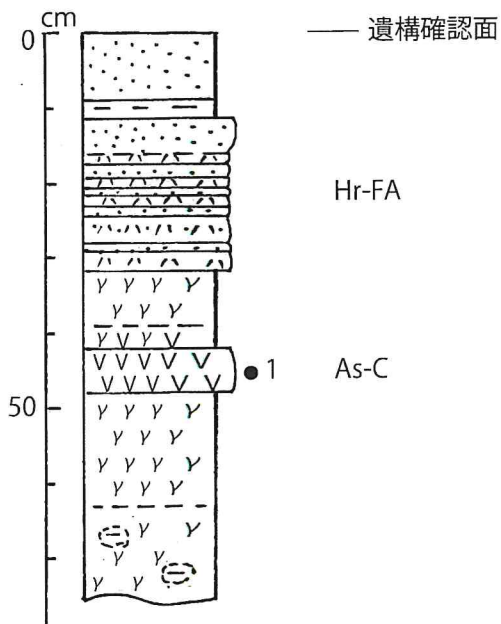


図2 深掘第2トレンチの土層柱状図

●：テフラ分析試料の層位、数字：テフラ分析の試料番号.

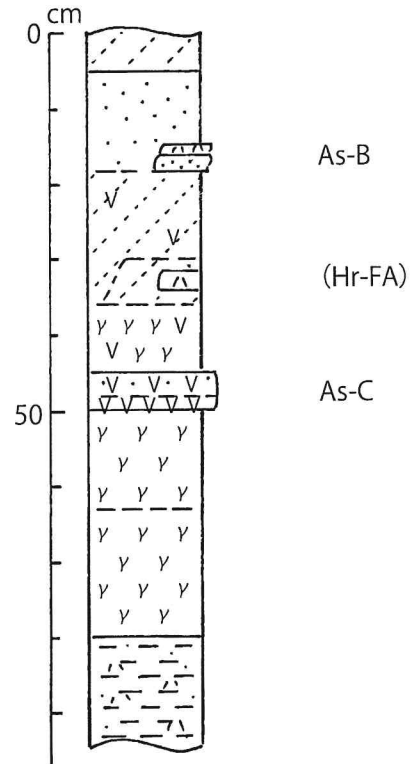


図3 深掘第3トレンチの土層柱状図

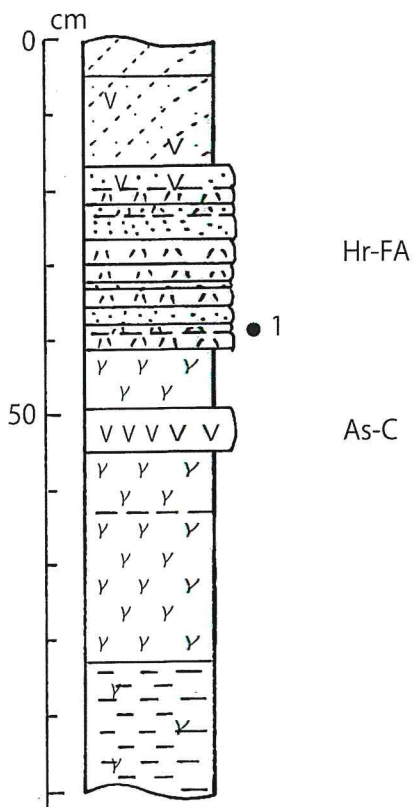


図4 深掘第4トレンチの土層柱状図

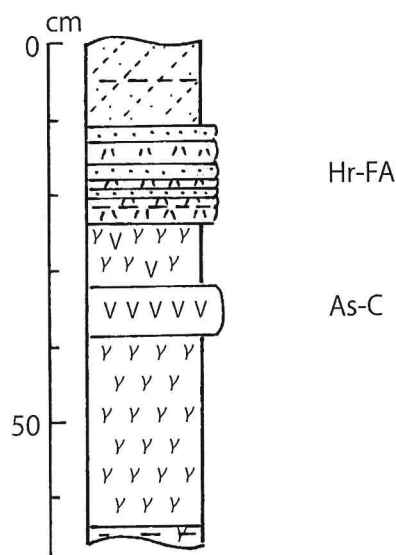


図5 深掘第5トレンチの土層柱状図

●：テフラ分析試料の層位、数字：テフラ分析の試料番号.

表1 テフラ分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物 (不透明鉱物以外)
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
深堀第1トレンチ	1				(*)	pm (sp)	灰白	opx, cpx
深堀第2トレンチ	1				*	pm (sp)	灰白	opx, cpx
深堀第4トレンチ	1				**	pm (sp)	灰白	opx, cpx
深堀第5トレンチ	1	(*)	灰白	2.8mm	**	pm (sp)	灰白	opx, cpx

\*\*\*\*：とくに多い，\*\*\*：多い，\*\*：中程度，\*：少ない，bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，sc：スコリア型，sp：スポンジ状，fb：繊維束状，ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石。重鉱物の（）：量が少ないことを示す。

引間青木遺跡3テフラ分析写真図版

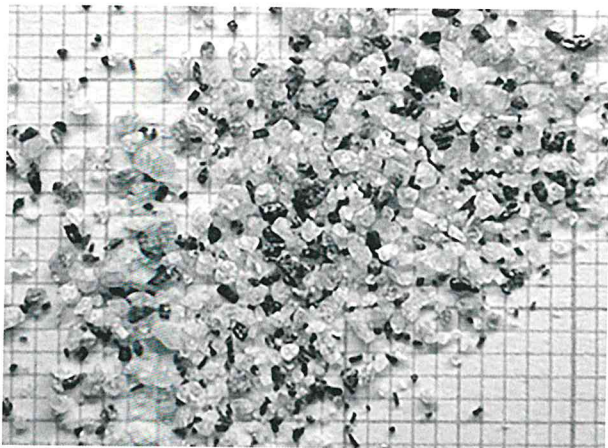


写真1

深堀第1トレンチ・試料1（落射光）良く発泡した灰白色スポンジ状軽石型ガラスがごく少量含まれる。長石類が多く、重鉱物には斜方輝石や単斜輝石が認められる。背後は1mmメッシュ。

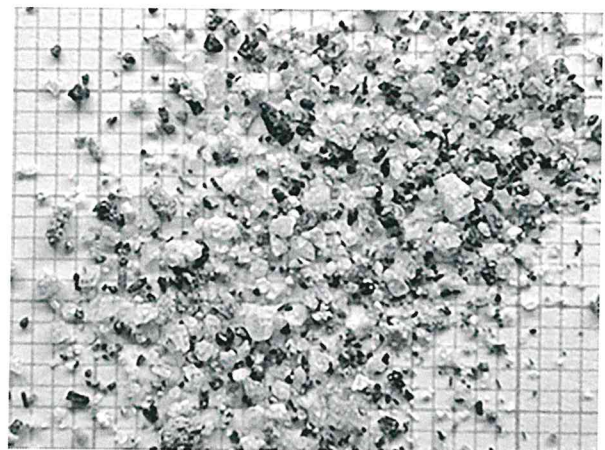


写真2

深堀第5トレンチ・試料1（落射光）スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石のほか、その細粒物であるスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれる。長石類が多く、重鉱物には斜方輝石や単斜輝石が認められる。背後は1mmメッシュ。

## II. 引間青木遺跡3におけるプラント・オパール分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO<sub>2</sub>) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネの消長を検討することで水田跡 (稲作跡) の検証や探査が可能である (藤原・杉山, 1984, 杉山, 2000)。

### 2. 分析試料

分析試料は、深掘第2トレンチと深掘第5トレンチから採取された計4点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

### 3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)。
- 2) 試料約 1 g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6 時間) による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散。
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重) をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。

### 4. 分析結果

検出されたプラント・オパールの分類群は次のとおりである (未分類等を除く)。これらの分類群について定量を行い、その結果を表 1 および図 1 に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

#### [イネ科]

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族 A (チガヤ属など)

#### [イネ科-タケ亜科]

ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

### 5. 考察

#### (1) 稲作跡の検討

稲作跡 (水田跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1 g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山,



2000)。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構や畑遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

#### 1) 深掘第 2 トレンチ

Hr-FA 直下層 (試料 1) と As-C 直下層 (試料 2) について分析を行った。その結果、Hr-FA 直下層 (試料 1) からイネが検出された。密度は 1,100 個 /g と低い値であるが、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

#### 2) 深掘第 5 トレンチ

Hr-FA 直下層 (試料 1) と As-C 直下層 (試料 2) について分析を行った。その結果、やはり Hr-FA 直下層 (試料 1) からイネが検出された。密度は 500 個 /g と低い値であるが、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後世のものが混入したことは考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

#### (2) イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型 (ヒエが含まれる)、ジュズダマ属型 (ハトムギが含まれる) などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

#### (3) 植生と環境の推定

上記以外の分類群では、As-C 直下層ではヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ウシクサ族 A、ミヤコザサ節型なども認められた。Hr-FA 直下層ではイネが出現し、ヨシ属、ネザサ節型は減少している。おもな分類群の推定生産量によると、各層準ともヨシ属が優勢となっている。

以上の結果から、分析対象土層の形成当時にはヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して Hr-FA 直下層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。

#### 6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、Hr-FA 直下層では各地点とも少量ながらイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていた可能性が認められた。各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して Hr-FA 直下層の時期に水田稲作が開始されたと考えられる。

#### 文献

杉山真二・藤原宏志 (1986) 機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—。考古学と自然科学, no. 19, p. 69-84.

杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール)。辻 誠一郎編「考古学と植物学」。同成社, p. 189-213.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) —数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, no. 9, p. 15-29.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) —プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学, no. 17, p. 73-85.

表1 引間青木遺跡3におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: × 100 個 /g)		地点・試料	深掘第2トレンチ		深掘第5トレンチ	
分類群	学名		1	2	1	2
イネ科	Gramineae					
イネ	Oryza sativa		11		5	
ヨシ属	Phragmites		34	51	26	68
キビ族型	Panicaceae type		11	6	10	23
ススキ属型	Miscanthus type		45	62	67	57
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type		45	57	92	68
タケ亜科	Bambusoideae					
ネザサ節型	Pleiolobatus sect. Nezasa		17	130	36	108
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.		11	17		
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi			6	5	6
未分類等	Others		11	11	5	6
植物珪酸体総数	Total		187	340	246	335

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg / m <sup>2</sup> · cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出					
イネ	Oryza sativa	0.33		0.15	
ヨシ属	Phragmites	2.14	3.22	1.62	4.30
ススキ属型	Miscanthus type	0.56	0.77	0.83	0.70
ネザサ節型	Pleiolobatus sect. Nezasa	0.08	0.63	0.17	0.52
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	0.08	0.13		
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi		0.02	0.02	0.02

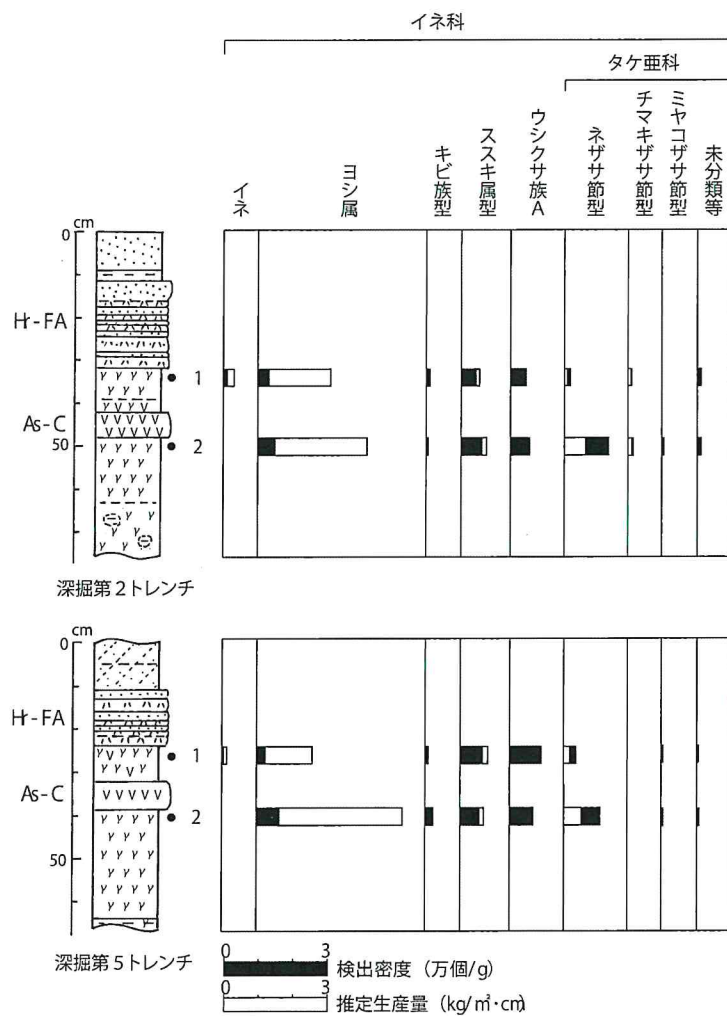
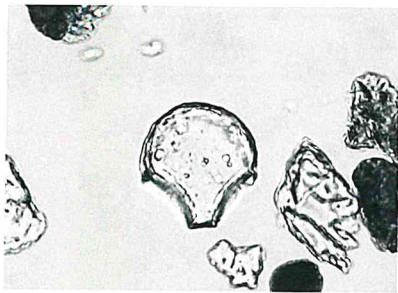


図1 引間青木遺跡3のプラントオパール組成ダイアグラム

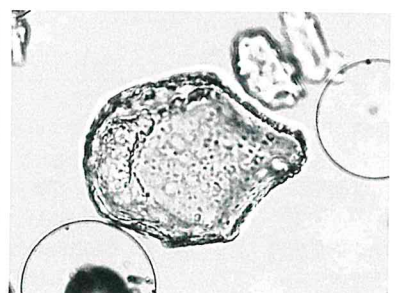
植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真



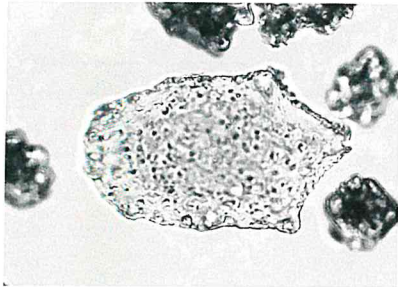
イネ



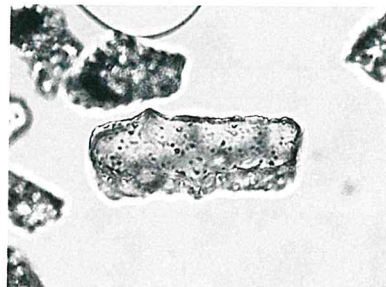
イネ



ヨシ属



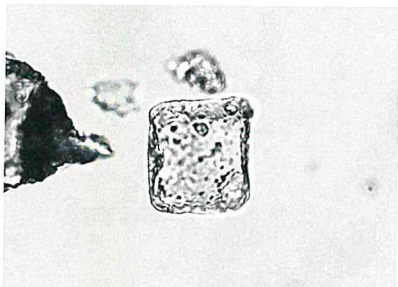
ヨシ属



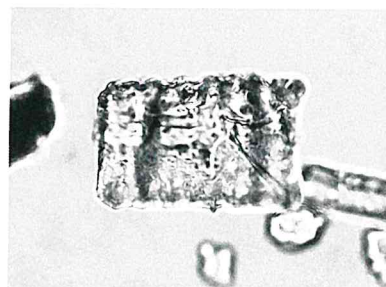
キビ族型



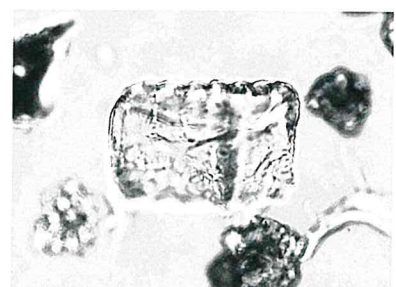
ススキ属型



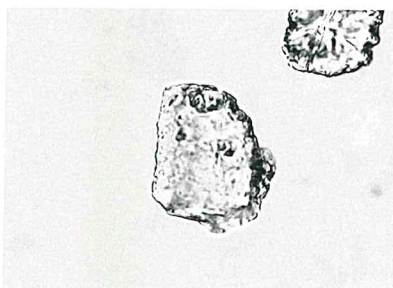
ウシクサ族A



ネザサ節型



ネザサ節型



チマキザサ節型



表皮毛起源



棒状珪酸体

50  $\mu$  m



### Ⅲ. 引間青木遺跡 3 の花粉分析

#### 1. はじめに

花粉分析は第四紀学で多く扱われ、生層序によるゾーン解析で地層を区分し、ゾーン間比較によって植生や環境の変化を復原する方法である。そのために普通は湖沼などの堆積物が対象となり、堆積盆単位など比較的広域な植生・環境の復原を行う方法として用いられる。遺跡調査では遺構内の堆積物など局地的でかつ短時間に形成された堆積物が対象となり、より現地性の高い植生・環境・農耕の復原をデータ比較で行うことが多い(金原・金原, 2013)。また、遺物包含層など、乾燥的環境下の堆積物も対象となり、その分解性も環境指標となる。さらに、風媒花や虫媒花などの散布能力などの差で、狭い範囲の植生に由来する結果が得られることもある。

#### 2. 分析試料

分析試料は、深堀第2トレンチと深堀第5トレンチより採取された試料それぞれ2点の合計4点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

#### 3. 分析方法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに次の手順で行った。

- 1) 試料から1 cm<sup>3</sup>を採量。
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え15分間湯煎。
- 3) 水洗処理の後、0.25 mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン試液を加え1分間湯煎)を施す。
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理。
- 7) 沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製。
- 8) 検鏡・計数。

検鏡は生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本のほか、島倉(1973)および中村(1980)を参照して行った。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。なお、花粉分類では樹木花粉(AP)あるいは非樹木花粉(NAP)となるが、非樹木花粉(NAP)を草本花粉として示した。

#### 4. 分析結果

##### (1) 分類群

分析で認められた分類群は、樹木花粉1、草本花粉3、シダ植物孢子2形態の計6分類群である。これらの学名と和名および粒数を表1に示す。また、極めて密度が低いものの、参考のために計数値で花粉ダイアグラムを図1および図2に示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。同時に寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。検出された分類群は次のとおりである。

##### [樹木花粉]

コナラ属コナラ亜属

## 〔草本花粉〕

イネ科、キク亜科、ヨモギ属

## 〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

## (2) 花粉群集の特徴

### 1) 深堀第2トレンチ

いずれの試料でも花粉密度は極めて低い。より下位の試料2では、草本花粉のヨモギ属、イネ科、キク亜科とシダ植物三条溝孢子がわずかに検出される。一方、上位の試料1では、密度は低いものの、ヨモギ属が集塊を伴って出現する。ほかに、イネ科、キク亜科と、樹木花粉のコナラ属コナラ亜属が検出される。

### 2) 深堀第5トレンチ

いずれの試料でも花粉密度は極めて低く、草本花粉のヨモギ属、イネ科とシダ植物単条溝孢子がわずかに検出される。

## 5. 花粉分析から推定される植生と環境

### 1) 深堀第2トレンチ

花粉密度が極めて低く、出現する分類群の種類も少ない。これは、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境であったか、堆積速度が速く花粉などの微化石が集積しなかったと考えられる。わずかに検出されるヨモギ属、イネ科、キク亜科は陽当たりの良い乾燥した環境を好む草本で、堆積地に生育していたとみなされ、堆積地は陽当たりの良い乾燥した環境であったと推定される。また、樹木花粉のコナラ属コナラ亜属も比較的乾燥した環境に生育する落葉広葉樹で、周囲に孤立木ないし疎林として分布していたと考えられる。

### 2) 深堀第5トレンチ

深堀第2トレンチと同様に、いずれの試料でも花粉密度が極めて低く、出現する分類群の種類も少ない。分析対象土層の形成当時には、ヨモギ属を主に陽当たりの良い乾燥した環境を好む草本が分布し、堆積地は陽当たりの良い比較的乾燥した環境であったと推定される。また、検出された花粉は草本がほとんどで、人為の影響を受けた環境の可能性はある。

## 6. まとめ

深堀第2トレンチおよび深堀第5トレンチにおいて、古墳時代相当の土層から採取された4試料を分析した結果、ヨモギ属を主にした草本類の花粉が検出され、やや乾燥した草地の環境が推定された。樹木はコナラ属コナラ亜属（ナラ類）がやや遠方か孤立木として分布し、周辺は人為の影響によって樹木が減少して草地となったと推測される。

## 文献

金原正明・金原正子（2013）植生と農耕における土壌層分析の実証的研究。日本文化財科学会第30回大会研究発表会要旨集，p. 112-113.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録，5，60p.

中村純（1967）「花粉分析」。古今書院，232p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴。大阪自然史博物館収蔵目録，13，91p.

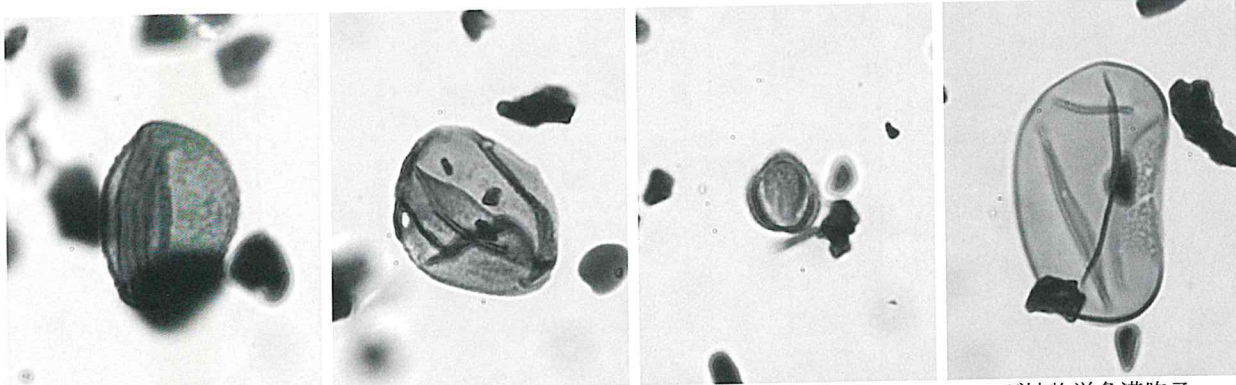
金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原。木下正史編「古代資料研究の方法」，角川書店，p. 248-262.

表1 引間青木遺跡3における花粉分析結果

分類群		第2トレンチ		第5トレンチ	
学名	和名	1	2	1	2
Arboreal pollen	樹木花粉				
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	1			
Nonarboreal pollen	草本花粉				
Gramineae	イネ科	6	3	2	3
Asteroideae	キク亜科	5	1		
Artemisia	ヨモギ属	72 *	15	24	4
Arboreal pollen	樹木花粉	1	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	83	19	26	7
Total pollen	花粉総数	84	19	26	7
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>	試料 1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	7.7	1.7	2.4	0.6
		$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^2$
Unknown pollen	未同定花粉	1	0	1	0
Fern spore	シダ植物孢子				
Monolate type spore	単条溝孢子			18	
Trilate type spore	三条溝孢子		1		
Total Fern spore	シダ植物孢子総数	0	1	18	0
Parasite eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal · woods fragments	微細炭化物 · 微細木片	(+)	(+)	(+)	(+)
微細植物遺体 (Charcoal · woods fragments)	( $\times 10^5$ )				
未分解遺体片		27.2	29.6	24.9	12.9
分解質遺体片					
炭化遺体片 (微粒炭)					

\*集塊

引間青木遺跡3の花



1 コナラ属コナラ亜属

2 イネ科

3 ヨモギ属

4 シダ植物単条溝孢子

— 10 μm



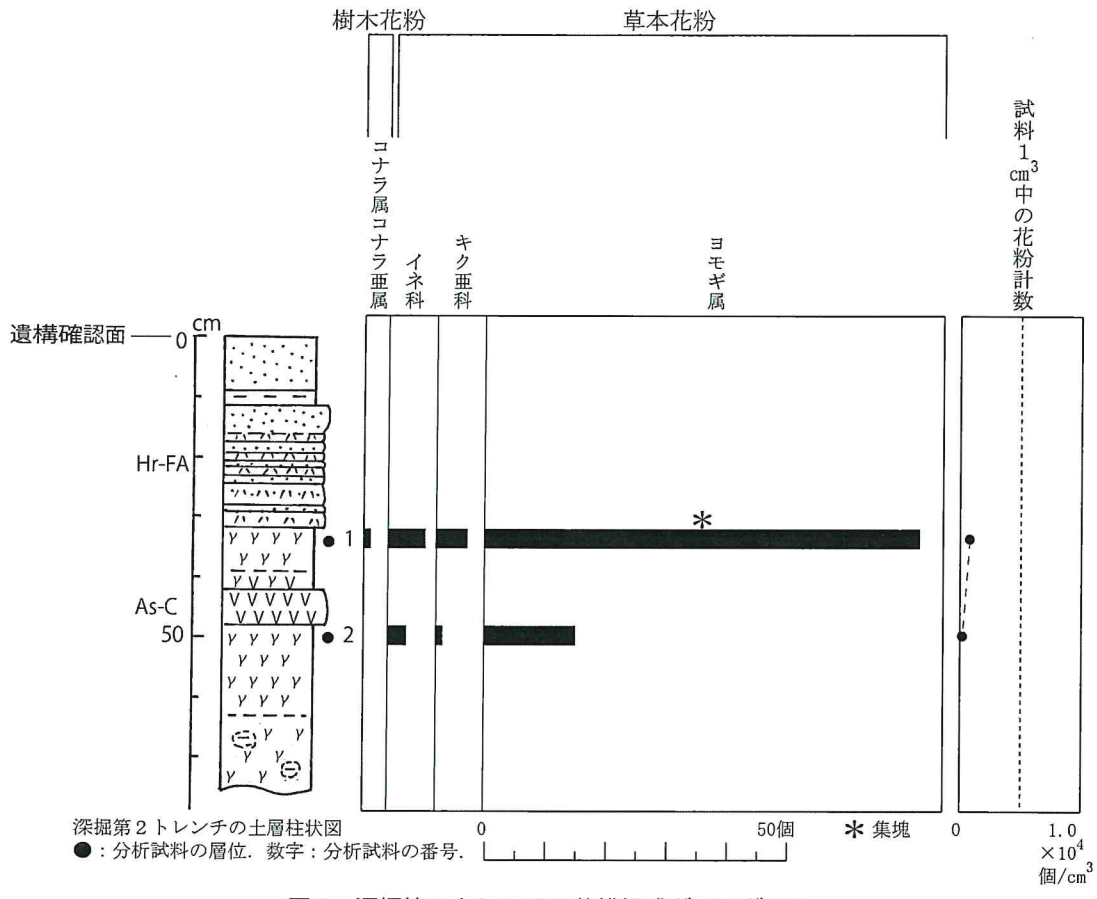


図1 深掘第2トレンチの花粉組成ダイアグラム

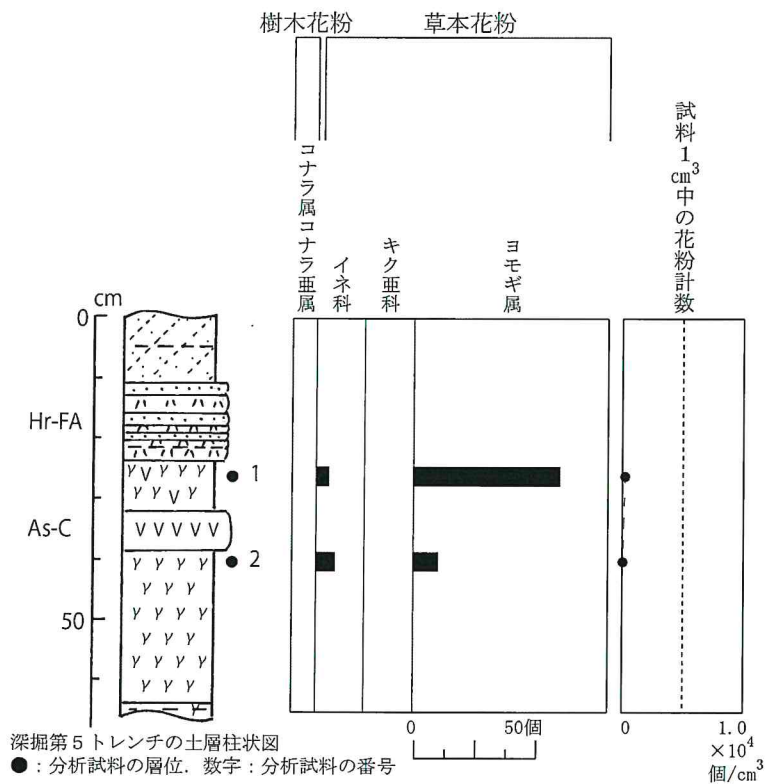


図2 深掘第5トレンチの花粉組成ダイアグラム